

同人社団グループ・クラブの軌跡

120

周年記念誌

GLeeCLUB

同志社グリークラブ  
創立120周年記念誌

**GleeClub**



One Purpose DOSHISHA  
H.Takahashi 2025/6

大空に120年の歴史を紡ぐグリークラブの「カレッジソング」が響き渡ります。  
わずか4年間の青春の積み重ねがその時々の歴史と音楽を創って来ました。  
そして明日からも新しい青春がこの歴史を紡ぎます。

クラーク記念館前 ホームカミングデーにて  
画/高橋 博 (昭和47年卒)



## 総長祝辞

八田 英二

学校法人同志社 総長・理事長

同志社グリークラブが、創部 120 周年をお迎えになりましたこと、学校法人同志社総長・理事長として心からお慶び申し上げます。宗教音楽による人格形成を目指して結成された同志社グリークラブは、輝かしい歴史と伝統を有する同志社大学屈指の名門クラブであります。今や日本を代表する男声合唱団として、定期演奏会や東西四大学合唱演奏会、全同志社メサイア演奏会等を開催し、他大学とのジョイントコンサートや各地に赴く演奏旅行を実施するなどの活発な演奏活動を行っています。さらに、昨年秋には全日本合唱コンクールで金賞及び日本放送協会賞を受賞するなど、近年におかれてもその活動と業績は素晴らしいものであり、まさに同志社大学の誇りであります。また、学内行事としては入学式・卒業式をはじめとした各種式典、学外行事としては校友会の支部総会等にも献身的に参加されており、今や同志社大学には欠くことのできない存在です。総長・理事長として改めて心から敬意を表する次第です。

同志社グリークラブは、その 120 年の歴史の中で、約 1,500 名を数える多くの有意な OB を輩出してこられました。その OB 組織であ

る同志社グリークラブ OB 会の方々が、グリークラブと現役学生に対して深い愛情を注ぎ、学生諸君を物心両面にわたって支えるという良き伝統が受け継がれ、さらには、OB と現役学生の共演もしばしば行われることで、グリーメンの絆を深めておられます。昨年開催された創部 120 周年の記念演奏会は京都と東京の 2 会場で、両会場ともほぼ満席となった熱気の中、開催されたとうかがっています。同志社への、そして同志社グリークラブへの関係各位の熱い思いが結集した結果だと考えております。

1875 年に創立者新島襄によって設立された同志社は、本年 150 周年の記念の年を迎えました。新島襄と J.D. デイビスと 8 人の生徒の祈りとともに始まった同志社は、キリスト教主義、国際主義、自由主義を基礎とした良心教育の伝統のもと、今や約 42,500 人が学ぶ一大総合学園に発展しております。同志社のキャンパスにいつもグリーの歌声があったように、これからも変わることなく創立 200 年へと続く同志社の将来をグリーの歌声が彩り続けてくれることを願っております。



## 学長祝辞

小原 克博

同志社大学 学長

同志社グリークラブが創立 120 周年を迎えられましたこと、謹んでお祝い申し上げます。同志社グリークラブは、1904 年の創立以来、一世紀以上にわたり、音楽を通じて同志社の精神を体現し続けてこられました。西洋音楽がまだ一般的でなかった時代に、4 つのパートによる厳粛なハーモニーを日本に紹介し、合唱文化の礎を築いたその功績は、日本の音楽史においても特筆すべきものです。2024 年に創立 120 周年という大きな節目を迎えられたことは、同志社大学の文化的・精神的伝統を象徴する意義深い出来事であり、大学を代表して深く敬意を表します。

1875 年に創立された同志社は、2025 年に創立 150 周年を迎えます。150 年の間には、様々な歴史が存在します。同志社グリークラブ 120 周年の歴史においても同様に幾多の歴史的転換点が存在するかと思います。戦時中には、当時の国情により、演奏活動に制約が課され、多くの団員が徴兵されるなど、困難な時代を経験されたという記録も拝見しました。それでもなお、戦後には活動を再開し、1950 年代から 60 年代にかけては全日本合唱コンクールで金賞を多数受賞するなど、日本

の合唱界を牽引する存在として復興を遂げられました。

近年では、入学式や卒業式などの大学行事でも重要な役割を担っていただいているほか、定期演奏会や東西四大学合唱演奏会、同立交歓演奏会、さらには国際的な演奏旅行など、精力的に活動され、文化交流と芸術の発展に寄与されています。2024 年度には、第 77 回全日本合唱コンクール全国大会において、金賞並びに日本放送協会賞受賞という素晴らしい結果を残されています。

歴史を振り返り、価値を見つめなおし、新しい時代の「物語」を創るのは、今を生きる私たちの責任です。同志社グリークラブが、これからもその素晴らしい伝統を受け継ぎ、その情熱をもって多くの人に感動を与え続けられることを心から願っています。

結びに、関係者の皆様の熱心なご指導やご尽力に深甚なる感謝の意を表するとともに、これからの活動を通じて、同志社グリークラブの歴史と伝統が今後ますます輝かしいものとなりますことを、心よりお祈りいたします。



## For God, for Doshisha and Brotherhood!

岸 基史

同志社グリークラブ  
前顧問

1975年にオルフォイス・グリーに入部して間もない頃、西邨辰三郎先生が次のような話をされた。「ヴォーリズからカレッジソングを歌っているかと尋ねられ、1番と2番を歌っていると答えたら、『それなら1番と4番を歌って欲しい。一番言いたいことは4番なのだ。For God, for Doshisha and Brotherhoodを歌って欲しいな』と言われた。だから、オルフォイスでは1番と4番を歌っているのだ」

1999年、渋谷昭彦前顧問から顧問を引き継いだ。歴代の顧問とは違い全くの門外漢で、歌の経験はオルフォイスに所属していた半年足らずである。しかし、「大学のクラブとして、グリー出身者でなければ顧問が務まらないという特殊性があっていけない」と言われ引き受けることになった。引き継ぎにあたって、次のことを何度か口にされた。「グリークラブの創部は1904年。グリークラブの命名は1911年。しかしルーツをさらに遡れば1875年の開校記念礼拝で賛美歌を歌ったところまでたどり着くといえる」

OB会からの支援がなければグリークラブはこれ程の活動はできないこと、これらの活動を通じて部員たちが真の同志社の学生となっていくことを実感した。小生も多くを学んだ。とくに故志茂望信氏のご協力を得て行

われたニューイングランドを廻る2回の演奏旅行は小生の人生に大きな影響を与えた。同志社精神の原点である改革派プロテスタントとりわけ会衆派の何たるかを体感した。そこには神のもとに自立した個人の尊厳があり、人間が作り出した伝統や物事の枠組み、形式そんなものにはこだわらない自由さがあった。

部員一人一人が自由闊達に個性を発揮し、青春の全てを歌に叩きつけ、それが全体として調和する。これが愉快で元気な同志社グリーなのだ。その原点は会衆派の礼拝にあり、賛美歌にあり、同志社の誕生にある。同志社グリーが声高らかにFor God, for Doshisha, and Brotherhood!と歌い続ける限り、同志社に建学の精神が宿り続けるし、世界中でその歌声を響かせることが人類の平和につながるのだ。すべてOB会の皆様のお陰である。有り難うございました。



## 120周年記念誌に寄せて

荒渡 良

同志社グリークラブ  
新顧問

大学の価値とは何でしょうか。

受験生にとっては、入試偏差値や就職実績、国家試験の合格率など、数値で示される実績が進路選びの際に重視されがちです。社会にとっては、大学がどれだけ有能な人材を育成しているか、あるいはどのような研究成果を挙げているかといった点が評価の対象となります。しかし、こうした観点だけでは大学の価値を十分に捉えることはできません。大学には、さらに深く、目には見えにくい価値が秘められています。それが「大学の文化」です。

すべての大学には、創立以来積み重ねてきた歴史と、その中で培われた独自の文化があります。2025年に創立150周年を迎える同志社大学は、創立者・新島襄の建学の精神を受け継いだ長い歴史を持ち、豊かな大学文化を誇っています。この文化こそが、他大学には真似のできない「同志社らしさ」をかたちづくり、「同志社人」と呼ばれる個性豊かな人材を輩出してきたのです。

さて、2024年に120周年を迎えた同志社グリークラブもまた、同志社大学の文化の一翼を担う存在として、長年にわたり大学とともに歩んできました。同志社社史資料センターに残る記録によれば、少なくとも大正5年(1916年)には、グリーメンたちが卒業式で「送別

の歌」を歌っていたそうです。戦時中には一時中断を余儀なくされたものの、この慣習は現在まで続いています。つまり、100年以上前から、同志社の卒業生たちはグリーメンの歌声に送られて社会へと旅立っていたのです。

学生クラブが大学文化の形成にこれほど深く関わる例は、決して多くありません。このような貴重な伝統を築いてこられたのは、日々研鑽を積む現役部員の皆さん、学生時代をグリークラブに捧げられたOB諸氏、そしてグリークラブの活動を支えてくださる学内外すべての方々のお力添えの賜物にほかなりません。

同志社グリークラブが、これからも自由でチャレンジ精神に富んだ、同志社大学の文化の担い手として活躍を続けていけることを心から願っています。引き続き皆さまのご指導とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



## 明日へ

### 山下 裕司

同志社グリーンクラブ OB会 会長  
120周年記念事業 実行委員長

「温故知新」、今回の120周年記念事業を始めるにあたって、私はOBの皆さんにこの言葉で呼びかけました。故きを温ねて新しきを知る。120年続くグリーンクラブの歴史を、その創立時より思い起こし、これからの、明日へ向かう道りを創造してゆく。

『伝統とは何よりも精神の一貫性をいうのであって(中略)我々グリーンクラブの精神は、聖なるものや美なるものへの常に変わることはない傾倒と讃仰に支えられて育まれるべきもの』。これは敬愛する遠藤彰先生が100周年記念誌に寄稿された文章です。グリーンクラブにおける「伝統」を見事に、簡潔また美しく定義されています。今回この文章を再度読み返し、あらためて感動の想いをもちました。それと同時にこの「伝統」が、今もしっかりと絶えることなく繋がっていることを、今回の記念事業を推進してゆく道すがらで感じました。まさに「故き良き伝統を温ねた」機会であり得たと思います。

では「知新」とは何か？このことについても、遠藤先生が先ほどの文中(中略部)に『技術やスタイルはそこから生まれ出るものがあります』とこれまた簡潔に述べておられます。演奏技術や表現スタイルは、必ずその固有の伝統から生み出されるべきもので、新しい流れを、その本質を理解し、そこから新たに創造するものだと。また、これは音楽の世界だ

けではなく、それぞれの人生にも当てはまるものだと思います。キリスト教主義を徳育の基本とする同志社、そしてその高貴な精神性を体幹として歴史を重ねてきたグリーンクラブ。そこで学び、歌い、育ってきた私たちが、明日へ向かって一步を踏み出そうとする時、この「新しきを理解し、本質を知る」という精神こそ、その道しるべになるのではないのでしょうか。

120年の次は121年、その向こうに122年、果てしない未来が同志社グリーンクラブを待っています。もちろん現役だけではありません、OBも一緒に向かいます。現役の「知新」を支えるOBの「温故」、お互いを思いやりながら、これからも手を携えて明日への歩みを続けていきたいと願っています。

最後になりましたが、120周年記念事業に参加してくださいました多くのOBの皆さん、そして素晴らしい活躍でOBを感激させてくださった現役の皆さん、また、この記念誌作成に当たり、快くご寄稿や資料提供をいただいた皆さん、そして大変な編集作業を引き受け、やり遂げて下さったご担当の皆さん。ここにあらためて感謝の気持ちを捧げます。本当にありがとうございました。



創立120周年記念事業 完遂に寄せて

## 『グリーン愛』の結実に深い感謝を込めて

### 高梨 純

同志社グリーンクラブ OB会  
理事長

お陰様をもちまして、同志社グリーンクラブ創立120周年を記念する一連の事業は、記念誌の刊行をもって、つつがなく完遂の運びとなりました。

構想は2022年のOB会総会に遡ります。「コロナ禍からの復活を、東京・京都での記念演奏会というかたちで世に示したい」、120期を中心とした現役メンバーの強い願いに、OB会も深く共感し、全力を挙げて支援すべく、2024年総会にて本事業が正式に承認されました。事業は、①記念演奏会集客支援、②現役・OB合同ステージ、③同志社礼拝堂における記念式典、④111～120周年の歩みをまとめた記念誌編纂の4つのプロジェクトにより構成され、いずれもOB会員有志の皆様より賜った特別協賛募金を原資として展開されました。

演奏会集客支援では、東京・京都両公演の満席達成を目標に、現役マネージャと開催地在住OBが協働し、10か月に及ぶ広報・販促活動を推進しました。とりわけ東京公演は40年ぶりの単独開催となり、かつて80周年記念演奏会にオンステ・支援されたOB諸氏がふたたび力を結集くださり、力強いご後援を賜りました。その結果、両公演ともに入場率88%を達成し、大きな盛況を得ることができました。

また、現役との合同ステージには、東京37名・京都57名のOBが参画し、伝統の「詩編98番」とともに高らかに歌い上げました。世代を越え

て響き合う歌声が、同志社グリーンクラブの絆の象徴として会場を温かく包みました。さらに京都公演前日の2月22日には、同志社礼拝堂にて記念式典・礼拝が厳かに挙行政され、現役・OB・ご来賓を含む総勢140名が参集。同志社の精神に則した儀式が厳粛に執り行われ、遠方のOB諸氏にも想いを届けるべくライブ配信も実施されました。そして締め括りとして、現役・OBの歩みを記録した記念誌が刊行され、120周年記念事業の結びに格調高い彩りを添えることができました。

この成功は、現役メンバー、彼らを導いてくださった諸先生方、ご支援くださったOB会員の皆様、そして同志社大学の温かな後援など、同志社グリーンクラブを想うすべての皆様の力が結集した、かけがえのない成果であります。なかでも、特別協賛を賜った288名の皆様、各学年理事・運営理事を中心とするプロジェクトに参画頂きました、お一人おひとりの揺るぎなき「グリーン愛」こそ、最大の原動力となりました。

ここに、支援いただいたすべての方々へ心より御礼申し上げます。そしてこの成果が同志社グリーンクラブの未来を照らす礎となり、さらなる飛躍への道標となることを、心より祈念いたします。

# CONTENTS

1	<b>【同志社グリークラブ120年のあゆみ】</b>	
3	同志社グリークラブの20年を振り返る ……	伊東 恵司(平成2年卒)
	<b>【グリークラブ 創立111年～120年の歩み】</b>	
7	第111回同志社グリークラブ定期演奏会 ……	横山 将之(平成28年卒)
8	コーラスめっせ2016 ……	伊東 恵司(平成2年卒)
9	マレーシア演奏旅行 ……	中川 大治郎(平成29年卒)
	マレーシア演奏旅行記 ……	豊田 尚紀(昭和59年卒)
10	マレーシアの人々を魅了した同志社グリークラブ ……	諸江 修(昭和59年卒)
11	第66回東西四大学合唱演奏会 ……	服部 祥堯(平成30年卒)
12	第114回同志社グリークラブ定期演奏会 ……	森 一就(平成31年卒)
13	二大学国際交流コンサート ……	第115期OB担当
	第25回同立交歓演奏会 ……	第115期OB担当
14	第115回同志社グリークラブ定期演奏会を終えて ……	井出 輝(令和2年卒)
15	第116回同志社グリークラブ定期演奏会を終えて ……	古川 智也(令和3年卒)
17	第117回同志社グリークラブ定期演奏会を終えて ……	藤尾 快(令和4年卒)
18	<b>【同グリよもやま話①】</b> コロナどん底からのスタート ……	古川 智也(令和3年卒)
19	第118回同志社グリークラブ定期演奏会を終え、卒団にあたって ……	沖山 竜也(令和5年卒)
21	同志社グリークラブ 年間の活動 ……	佐野 雅弥(令和7年卒)
25	合唱コンクールについて ……	小嶋 響(令和7年卒)
26	第77回 全日本合唱コンクール 全国大会大学コースの部を聴いて ……	山下 裕司(昭和52年卒)
27	定期演奏会曲目 第101回～第110回	
29	定期演奏会曲目 第111回～第120回	
	<b>【同志社創立150周年】</b>	
31	同志社創立150周年記念 全同志社合唱祭を振り返って ……	森島 敏夫(昭和53年卒)
32	合唱の同志社 ……	松本 裕士(昭和62年卒)

	<b>【同志社グリークラブ創立120周年】</b>	
33	創立120周年記念礼拝・式典 三苦の1ミリ、木谷の10分 ……	大下 信雄(昭和56年卒)
34	同志社グリークラブ120周年記念演奏会 ……	第121期幹事長 半田 翼
	<b>【特別寄稿】</b>	
35	「ワンパーパス」につながる大切な人たち ……	元同志社女子大学長・同志社女子大学名誉教授 児玉 実英
	<b>【東西四大学合唱演奏会 この20年】</b>	
37	東西四大学合唱演奏会 第54回～63回	
39	東西四大学合唱演奏会 第64回～73回	
	<b>【コンクール この20年】</b>	
41	コンクール復帰とその意味 ……	伊東 恵司(平成2年卒)
43	2007年全日本合唱コンクールへの出場 ……	石田 大士(平成20年卒)
	コンクールの結果表 ……	伊東 恵司(平成2年卒)
	<b>【OB会について】</b>	
45	同志社グリークラブOB会の現状と展望 ……	同志社グリークラブOB会 理事長 高梨 純
	<b>【東西四大学OB合唱連盟演奏会の記録】</b>	
49	第15回～17回	
50	第18回～19回	
51	第20回	
52	第21回～23回	
53	第24回～25回	
54	曲目一覧	

# CONTENTS

## 【OB合唱団の活動記録】

- 55 クローバークラブの起源  
同志社グリークラブOB合唱団の合同コンサート

- 56 【同グリよもやま話②】 資料収集協力のお礼 …………… 松本 裕士(昭和62年卒)

## 【卒業後周年会の記録】

- 57 「30年会」・「40年会」・「50年会」の歴史 …………… 小室 泰司(昭和41年卒)

- 58 当時の勢いは衰えた？いやいや皆で集まればすぐに復活！ …… 林 克己(平成5年卒)

- 59 卒後40年会開催 …………… S58年卒 幹事学年一同

- 60 「Extra 卒後50年会2023」を振り返って …………… 横尾 修(昭和48年卒)

## 【メサイア】

- 61 メサイアについて …………… 第90代学生指揮者 中山 拓

- 62 演奏会・演奏者紹介（第41回～50回）

- 63 演奏会・演奏者紹介（第51回～57回）

- 64 【同グリよもやま話③】 幻の第66回定期演奏会 …………… 松本 裕士(昭和62年卒)

## 【マネージャー奮闘記】

- 65 物好きの覚悟 -120年の調べに寄せて- …………… 福田 実奈(平成25年卒)

- 66 117期女子マネージャーの記録 …………… 井上 滯(令和4年卒)

- 67 女子マネージャーの存在意義 …………… 古澤 菜(令和5年卒)

- 68 120期のマネージャー …………… 杉原 光(令和7年卒)

## 【同志社グリークラブ・クローバークラブ初演曲について】

- 69 【同グリよもやま話④】 雪と花火 …………… 脇地 駿(昭和34年卒)

- 【同グリよもやま話④】120周年記念の委嘱初演について …………… 小嶋 響(令和7年卒)

- 70 初演曲一覧

## 【年表・同志社グリークラブ20年のあゆみ】

- 71 2005年～2008年

- 72 2009年～2012年

- 73 2013年～2016年

- 74 2017年～2019年

- 75 2020年～2023年

- 76 2024年、歴代指揮者氏名

- 77 同志社グリークラブOBの活動記録

- 79 【120周年協賛者リスト】

- 80 【創立120周年記念事業実行委員会組織図】

## 【第120期生からのメッセージ】

- 81 120周年の節目に立ち、新たに歌い継ぐその先へ …………… 佐野 雅弥(令和7年卒)

- 82 120周年誌に寄せて …………… 小嶋 響(令和7年卒)

- 83 編集後記

2024年、同志社グリークラブは創立120周年を迎えました。  
その精神と文化がいかんにして育まれてきたのか、これまでの歩みを振り返ります。

- 1904年 (明治37年) 当時の同志社学生は粗野蛮風を誇り、音楽等の関係人に対し圧迫を加えたが渡辺守成氏が宗教音楽による人格陶冶を高調し、讃美歌の合同練習を始める。神学生を中心に讃美歌をうたい「クワイア」と呼んでいた。
- 1911年 (明治44年) 片桐哲氏が合唱団を改革統一し、「同志社グリークラブ」と称した。讃美歌(旧)317番「花よりも愛でにし」がグリークラブの産声である。学内の讃美礼拝や慈善音楽会の活動が多くなる。
- 1913年 (大正2年) この頃、グリークラブは専ら賛美歌を歌う聖歌隊の存在であったので、民謡や合唱曲を歌うプリムローズクラブが結成された。
- 1917年 (大正6年) 第1回満州・朝鮮演奏旅行を行う。
- 1923年 (大正12年) 第1回九州・台湾演奏旅行。
- 1931年 (昭和6年) 第1回立教・同志社交歓演奏会。以後戦前には3回の交歓演奏会が行われた。
- 1934年 (昭和9年) 創立30周年記念演奏会。
- 1935年 (昭和10年) 同志社創立60周年記念演奏会。「メサイア」の全曲演奏。我国で初めて「メサイア」の全国放送がなされた。
- 1941年 (昭和16年) グリークラブとプリムローズクラブが合併。「同志社大学学友会修練団修文部音楽班同志社大学男声合唱団」となる。
- 1943年 (昭和18年) 学徒出陣壮行音楽会。以後活動一時途絶のやむなきにいたる。
- 1945年 (昭和20年) 学園復興学生大会でグリークラブ復活の努力がなされる。
- 1946年 (昭和21年) 同志社男声合唱団としてコンクールに出場。このあと正式に「同志社グリークラブ」と改名。
- 1948年 (昭和23年) 立教大学・同志社交歓演奏会始まる(戦後第1回)
- 1952年 (昭和27年) 第1回東西四大学合唱音楽会開催。
- 1957年 (昭和32年) 第10回全日本合唱コンクール学生の部 第1位。
- 1961年 (昭和36年) ハーバード大学グリークラブ演奏会に賛助出演(京都)  
第1回同志社・関西学院交歓演奏会。



▲1947年 戦後第2回メサイア演奏会  
栄光館・指揮：森本 芳雄



▲1957年 第10回全日本合唱コンクール(大学の部)優勝  
大阪府立体育館・指揮：河原林 明良氏

- 1964年 (昭和39年) 創立60周年記念演奏会を東京・京都・大阪・神戸にて開催。
- 1965年 (昭和40年) 同志社創立90周年を記念して「メサイア」演奏会を復活。(復活第1回)
- 1970年 (昭和45年) 第66回定期演奏会は学園紛争激化のため直前に中止された。
- 1974年 (昭和49年) 第4回世界大学合唱祭参加のため渡米。
- 1979年 (昭和54年) 中国演奏旅行(上海・南京・西安 天津・北京)
- 1982年 (昭和57年) 名誉顧問片桐哲先生御昇天。
- 1983年 (昭和58年) アーモスト大学グリークラブとジョイントコンサート。  
ヨーロッパ演奏旅行(スイス・ハンガリー・オーストリア)



▲1983年 第1回ヨーロッパ演奏旅行  
リヒターズヴィル・プロテスタント教会



▲1984年 同志社グリークラブ創立80周年記念定期演奏会  
大阪ザ・シンフォニーホール

- 1984年 (昭和58年) 創立80周年記念演奏会(東京・大阪)
- 1986年 (昭和61年) ヨーロッパ演奏旅行(東西ドイツ、スイス)
- 1989年 (平成元年) ヨーロッパ演奏旅行(西ドイツ、スイス、ギリシャ、フランス)
- 1992年 (平成4年) ヨーロッパ演奏旅行(イギリス、フランス、ドイツ、オーストリア)
- 1993年 (平成5年) 新島襄生誕150年記念新島メモリアルツアー参加(アメリカ演奏旅行)アーモスト大学、フィリップスアカデミー、グレース教会等訪問演奏。
- 1998年 (平成10年) アメリカ演奏旅行。エール大学、スミス大学、アーモスト大学、ボモナ大学等と交歓演奏会。
- 2001年 (平成13年) アメリカ演奏旅行。アーモスト大学、ウエストミンスター音楽大学、フィリップスアカデミー等訪問・演奏
- 2004年 (平成16年) アメリカ演奏旅行。創立100周年記念定期演奏会。
- 2007年 (平成19年) 50年ぶりに合唱コンクール参加。第60回全日本合唱コンクール大学部門Aグループ銀賞受賞。
- 2010年 (平成22年) 遠藤彰先生追悼祈念礼拝。

- 2014年 (平成26年) 第50回全同志社メサイア演奏会開催。
- 2016年 (平成28年) マレーシア演奏旅行(クアラルンプール・イポー・ペナン)
- 2019年 (令和元年) ラーマン大学交流演奏会(同志社寒梅館)
- 2020年 (令和2年) 第69回東西四大学合唱演奏会・第56回全同志社メサイア演奏会(新型コロナウイルス感染拡大のため中止)定期演奏会はコロナ流行下も客席を制限して続行された。
- 2021年 (令和3年) 第70回東西四大学合唱演奏会、新型コロナ拡大につき中止。第18回同関交歓演奏会開催(京都コンサートホール)
- 2022年 (令和4年) 第71回東西四大学合唱演奏会開催。(京都コンサートホール)
- 2023年 (令和5年) 第56回全同志社メサイア演奏会開催。
- 2024年 (令和6年) 第77回全日本合唱コンクールにて金賞・日本放送協会賞。同志社大学創立150周年記念全同志社合唱祭
- 2025年 (令和7年) 創立120周年記念演奏会(東京・京都)



▲2021年 第18回同関交歓演奏会 コロナ下での演奏会



▲2024年 第77回全日本合唱コンクールにて金賞



## 同志社グリークラブの 20年を振り返る

伊東恵司（平成2年卒）  
技術顧問

### ■ 私のこと

私は1986年に大学に入学し、4回生の年には学生指揮者として福永陽一郎の最後の薫陶を受けておりました。その後、卒業し（平成2年卒）自ら選択して同志社大学職員となり勤務する一方で、研鑽を重ねながら合唱指揮者としての活動をしてきました。2005年からは正式に技術顧問（福永陽一郎以後不在であった）という立場で学生の指導にあたっています。近くにいることで同志社大学とグリークラブの状況については、両方をよく見てきたとも思いますので、私の目線からこの数十年間の歴史を振り返ってみたいと思います。

### ■ 100周年前夜

私の入学年度である1986年は同志社大学にとっても同志社グリークラブにとっても歴史に残る年です。この年に京田辺キャンパ

スが開学し、大学のキャンパス2拠点化（1、2回生が京田辺校地、3、4回生が今出川校地）が始まっています。ただ、それ以前の学生は2校地キャンパスが想像出来ず、それ以後の学生はそれが当たり前であることから、実はこのことがクラブ活動にとって「大きな打撃」になったことはあまりイメージされていないと思います。また、当時はバブルの好景気に向かう途上で、高校生には地元国公立大学より同志社大学（京都の私学）への進学希望が多く、大企業や都市銀行からは大量採用があるなど、就職活動も見通しの良いものでした。そのような状況にも後押しされ、グリークラブの人数は90年代半ばまで80人以上の活動規模が続き、人数を減らし続けていた関西学院やライバル校を尻目に黄金時代とも言える（少なくとも四連の中でも最大規模を続けていた）状態を維持していたと言えるでしょう。この頃

はヨーロッパ演奏旅行も3年ごとに行っていますし、ザ・シンフォニーホールで豪華で見事な演奏会を重ねています。しかし、2拠点化の影響はその後ポディーブローのように効いてくることになります。また、福永陽一郎の急逝以後、後任の指揮者選びも難航し、しばらくは毎年違うオーケストラ指揮者を招聘してたくさんの貴重な経験を得ることが出来たものの、90年代の終盤になると、そのようなハイレベルなことを目指すことそのものへの疲れが出てくることにもなります。

### ■ 100～120周年について

総じて上記のような前段から始まる20年間はグリークラブにとって、やや厳しい時代であったということが出来るでしょう。合唱連盟の統計資料によると、80年代から2020年代半ばまでの30年間で、大学合唱人口は70%も減じて（30%になっているということです）います。「気の合った数名で取組む」アカペラサークルやダンスユニットの台頭と反比例して「大人数が集まって、ともに努力する」という風潮が失われていることもありますし、不況や社会不安が続くとクラブサークルを選択するより、資格講座や手早く社会的スキルを身に付ける方向に走るため、グリークラブの人数はなかなか増えませんでした。また、ここにきて練習をする際に2拠点に分かれている（下回生と上回生）ことのデメリットが一気に噴出して来たようにも思います。回生で分

かれているのでキャンパスごとに練習するのが難しく、互いの校地に行くには時間（2時間弱）と費用が発生します。何も生み出さない交通費だけで月2、3万円（年間20万円以上）かかってしまうことも含めて、「たくさん練習をして初めて上手くなるタイプ」の団体であるグリークラブにはデメリットだらけで、人数や活動レベルが上がってこなかったように思います。

ちなみにですが、2004年度に解散した全学自治組織の学友会の解散文書の中にも「大学が強行する形になったキャンパスの2校地化が学生の諸活動に影響を与えた」旨が書かれており、やむを得ない大学事情はともかく、学生の諸活動やクラブの組織運営は総じて苦しんでいたのだと言えるでしょう。この間、それまで優勢を保っていた四連の中では立場が逆転し、他大学に比して人数が少なく、よく諸先輩から「何とかならないのか」と言われることがありました。大学男声合唱団全体が苦境に陥っていたことは変わらなかったのですが、大学をあげて看板クラブという形でグリークラブを支援し高等部の合唱部から艇入れを図った関学の状況や、埼玉県を中心とした関東に残っている男子高校の合唱部からの進学、入団が見込める早慶と比べると、同志社グリークラブはもともと初心者が多く（関西に男子が活躍する高校合唱部も少なく、この時期には学内諸学校の高校合唱部はほぼ活動していない）、大学に特別扱いをされていた訳でもないため、諸対策を立てられなかったと

というのが現状です。ちなみに立命館大学は文系のクラブサークル推薦を取り入れメンベルもそこで建て直された時期がありました（途中からは混声合唱のメディックスにしか行かないような流れになる）が、同志社大学にはそのような制度は公式には出来ていません。加えて東高西低以上に音楽資源が東京一極集中（作曲家、声楽家、指揮者、ピアニスト）してきた「合唱界」の状況も無視できず、その中でもがき、苦戦したところでしょう。私としても演奏のクオリティを保つことに精いっぱい、組織運営には手が回りませんでしたので、学生たちもどうしても規模の大きさに見合った運営スキルを継承出来ず、様々な問題を抱えておりました。

私が正式に技術顧問を引き受けた2005年の東西四連は18人という最低人数だったと思います。それでも当時の学生たちが胸を張って歌ってくれたことは大きな思い出として残っています。またその後、同志社を含めて、関西の大学男声合唱団を取り巻く環境はなかなか厳しく、人数は劇的に増えないままでしたが、関西六連を形成してきた大阪大学、関西大学、立命館大学、甲南大学の男声合唱団（他に神戸大学や京都大学、大阪外大も）が大きく人数を減らし衰退する中、むしろぎりぎりよく耐えて活動してくれていたのだとも思います。

## ■ コロナによる大惨事

しかしながら、2020年に始まるコロナ禍という未曾有の惨事は、そのようなグリークラブにもついに一番大きな打撃を与えてしまいます。初心者がほとんどということは、「新歓活動がなされなかったら入部する人がいなくなる」ということを意味します。高校での経験者ならば新歓活動がなくても目指す部活に入るでしょう。コロナ禍においても体育会のメジャースポーツは活動の不自由はあったと思いますが、もともと推薦入試等での人員確保がメインでもあるために大きく人数を減らすことはありませんでした。ところがグリークラブでは上記のように新歓活動が出来なかった2020年の入部者で4回生になったものは1名、2021年の入部者で4回生になったものは4名、2022年の新歓活動を迎える手前の3学年の合計（四連を目指す人数）は11名にまで落ち込んでいましたので、私としても「ひょっとするとダメかもしれない」というある種の覚悟を決めておりました。授業も厳格化され始めた90年代後半以後は当たり前のように全員が練習に出席しているという活動状況ではありませんので、11名ということは私の行く練習（いわゆる先生練習）でも「パートが揃わない可能性が高い」ということを意味しています。一歩間違えると出席団員のモチベーション低下、欠席者の増加…等、何も上達しないまま負のスパイラルに入り、簡単に廃部に至ることが予想されたからです。コロナ禍という共通の災害ゆえ

に、事態を了解していただいたOB会には「潰れてからでは遅い」ということで、多額の資金援助をしてもらいました。2023年の新歓ではそれを有効に活用することで、奇跡的に既存メンバーより多い新メンバーを獲得し、何とか命を繋ぐことが出来たと考えています。これまた最小人数で臨んだ2023年の東西四連（京都開催）は、1回生を加えて必死の練習をし、少人数でも映えるコダウイの三部の男声合唱曲を選曲して乗り切りましたが、これも思い出です。

## ■ 変化する大学、大学生

その後、ともかく私を含めて新歓活動に全力投球することで回復傾向を見せ始めたグリークラブはOB会のバックアップによる120周年の定期演奏会を成功裡に終えて、今後新しい時代に入っていきます。しかし、このあとどのような事態が待っているのか想像も出来ません。そもそも遙か昔、大学に男声合唱団が多かったのは、大学の進学率の問題で、その構成員が「ほぼ男性であったこと」に起因をしています。大学の状況は刻一刻と変化していきます。同志社大学も今では2校地は文系が今出川、理系が京田辺となっていますが、今度はコロナ禍を経て部活動はどこもほぼ片肺状態になっています（京田辺生はほとんど部活をせず）。今後、中高の部活の地域移行問題の影響も受けるでしょう。また、20歳人口の減少の問題、秋入学等や留学生受入れ比率等の問題がどんな形で現実するか分かりません。そのよう

になると、そもそも大学でのクラブ活動というものがどの程度のものになるのかは予想が付きませんし、その中で、変えていかざるを得ないもの、変えてはならないもの、が何なのかをよくよく見極めながらエンカレッジしていくことが必要なのだと思います。例えば礼拝形式での入学式での「大学歌」の歌唱、卒業式における「送別の歌」、定期演奏会であれコンクールであれ結果はともかく胸を張って高らかに歌うこと、良い音楽を分かち得るために一生懸命努力すること、周囲に感謝すること、「仲間とともに歌うこと」を通して人間的に成長していってもらうこと…、このようなことにまでなるとしても当たり前すぎることはばかりなのですが、私たちは、時代や状況がどのようなものであれ、その「当たり前のこと」を大切に引き継がせ、後輩を見守っていく必要があると思っています。

たくさんの先輩から引き継がれた同志社グリークラブのスピリットが150周年まで引き継がれるように傍らから見守っていきたいと思います。

本ページでは、同志社グリークラブ創立 111 年から 120 年までの現役の活動記録を掲載しております。掲載されている原稿の多くは、当時「グリーサローン」にて一度紹介されたものです。すでにご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、懐かしい記憶を呼び起こしていただければ幸いです。

なお、創立 101 周年から 110 周年までの記録につきましては、「110 周年記念誌 (DVD-R 版)」をご参照ください。

## 創立 111 年

2015 年 (平成 27 年)



### 第 111 回同志社グリークラブ定期演奏会 満席のいずみホールで、全ステージ燃焼、特に「沖縄小景」は感動!

同志社グリークラブ幹事長 横山 将之 (平成 28 年卒)

12 月 12 日にいずみホール (大阪) にて、第 111 回定期演奏会を執り行いました。近年では経験のない大阪での定期演奏会となり不安な部分もありましたが、無事開幕からストームまで歌いきることができ安堵しています。

本演奏会はエールから始まり、関西コンクールで演奏した「Fragments - 特攻隊戦死者の手記による -」や通年曲「初心のうた」、アラカルトで構成されたクリスマスステージなど、どれも今できる全力の音楽が出来たように思います。中でも、私にとって感慨深いのは客演指揮者である名島啓太先生による「沖縄小景」でした。

「沖縄小景」では和音のぶつかり合う旋律や爽やかなメロディパート、装飾音符の歌唱方法等、私達が 1 回生から今に至るまでに修得した様々な技術・経験を用

いつつ、名島先生の御指導により、より良い演奏に昇華させることができました。そして終曲の「だんじゅかりゆし」は、沖縄の船出の歌であり、今まさに同志社グリークラブを旅立つ我々 4 回生にとってはこの曲の寂しさと喜ばしさを感じさせる和音が沁みるものでした。この曲集を通して勝手ながら自身がグリークラブで過ごした日々とこの沖縄小景を重ね合わせることになり、忘れられない演奏となりました。

最後にもう一度、ご指導頂きました先生方、日頃より現役団員を温かく見守ってくださる OB の皆様をはじめ、今年 1 年間、同志社グリークラブに関わって頂きました皆様方に心よりの御礼を申し上げて私の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございます。

(写真提供) 藤田 和久 (昭和 44 年卒)

## MESSAGE from Keishi Ito

～大学生集まれ!まとめて新勸～ コーラスめっせ 2016 (4月16・17日) 企画

同志社グリークラブ 技術顧問 伊東 恵司 (平成 2 年卒)

大学で合唱と出会ったこともあり、私自身は合唱連盟に限らず合唱界では「育成」というキーワードで自分の意志で活動をさせてもらっています。

今回は、大阪の「いずみホール」近辺で主宰しています「コーラスめっせ」で本年度取り組む「大学生企画」について紹介させてもらいたいと思います。

「コーラスめっせ」は、文化芸術の中心と同じく合唱ですら東京一辺倒である現状を打破し、再び関西が「合唱どころ」としてのエネルギーを帯びていくための起爆剤になるよう、私が関西の指揮者や合唱人に呼びかけて始めた「歌い、聞き、学び、交流する」合唱フェスティバルです。

かつては合唱王国と言われたこともある関西の現在の合唱事情ですが、育成世代をデータ上からみれば、例えば NHK 学校音楽コンクールへの参加校は、大阪は人口が近い神奈川県半数、京都は新潟半数であり、東京神奈川千葉という東京近郊を足すと近畿の 10 倍近い参加数になります。残念ながらデータ上では、東京どころか地方都市と比べても圧倒的に「合唱が盛んでない」というのが関西の現状です。著名な作曲家、指揮者、ピアニスト、声楽家の居住地を考えてもその 9 割以上が東京ですから、関東や東北も東京から指導者を招くなどしていますし、人口比を考慮してもなお関西の育成世代の合唱離れは著しく、学校の音楽の授業 (音楽担当教員の雇用) の問題や、教育行政の施策の問題もあろうかと思っています。ただ、そんな中で、唯一大学だけは関西に数が多く、東京近郊に比してあまり見劣りしない活動が残っているのです。そこで、彼らのことを思って大学合唱団を支援してだけでなく、何とか大学生を巻き込んで関西の合唱界を盛り上げていかないとはいけないと思っています。

この企画ですが、この時期は大学合唱団にとって最も大切な時期である新勸時期ということで、なかなか「コーラスめっせ」への参加がままならないという状況を逆手に取って、関西の大学生が一同に集まって 4 月の中旬に纏めて新勸活動をするというのはどうだろう・・・、と思ったわけです。

例えば小さな大学合唱団では、新入生を前にしたデモ演奏もままなりません。この企画で大学の垣根を越えて纏めて新勸することで、新入生に「いずみホール」を見せ、大人数で歌う迫力ある大学生の演奏を聞かせ、大学を越えて友達を作り合ってもらえるということにもなると思います。また、上級生になったばかりの学生が初

心者の多い 1 回生に指導をするというのは非常に難しいことだと思いますが、この企画の中では、纏めてプロフェッショナルに初心者も教えてもらうことにしています。その他にも、大阪兵庫京都の大学合同で歌合戦をしたり、上級生には上級編としてのラテン語講習会、学生指揮者講習会、マネジメント講習会もセットにすることを考えております。

ただし、このようなイベントが大学合唱団の本当の活性化に繋がるのかどうか、ということに関しては私自身も試行錯誤の連続でもあり、ある種のジレンマを抱えているのも事実です。大学生の自主性ある活動という理想とのギャップとでも言うのでしょうか。

大学そのものの状況や環境も変わり (・・・言うまでもありません。親が就職説明会に足を運び、親から授業の欠席連絡や先生への苦情が来る時代です・・・) その自主性という言葉のもとに放置してきた結果が、大学生の活動の稚拙化を招いたと感じており、思い切った大人からのお膳立てをしているという状況ではありません。

実は私は、既に年末に全国の学生の指導者 (学生指揮者やパートリーダー) を集めた合宿型の合唱講習会をしています。和歌山の沼丸先生と一緒に取り組んだ最初には 50 人集まったら良いなあとっていた企画でしたが、実は現在は 300 人を越える参加があり、毎年先着順で締め切っているくらいの人気を誇っているのです。多くの大人の指導陣が、全国から勉強しに集まってきた学生指揮者やパートリーダーに 1 泊 2 日で講習をするという仕組みで、私たちにも毎年多くの発見や気づきを与えてくれるイベントではあるのですが、こちらにしてもどこまでの強度で学生合唱団の活動に影響を与えているのかは気になっているところなのです。インターネットの時代にも関わらず (だからこそ)、今の大学生に最も感じるのは「情報不足」という矛盾した感覚です。つまり、便利になったり「当たり前」になってしまうと、享受することの快適さに感覚が鈍ってしまい、茨の道を掻い潜って自分の求めているものを見つけ出す・・・、手探りで探し当てる、という感覚を弱めてしまっているのかもしれないと思うことがあるのです。

肝心なことは、上手くお膳立てすること、段階を作って学生の現状に即した成長を促すプログラムを作りきることなのかもしれません。・・・つまり大人の一時的な自己満足 (学生のためにやってやっている) ではなく、段階的な成長を見越した中長期的な関わりが大事なかもしれないと思っています。

創立 112 年

2016 年 (平成 28 年)

12 年ぶりの海外演奏旅行大成功  
同志社グリークラブ マレーシア演奏旅行  
2016 年 2 月 16 ～ 22 日

同志社グリークラブ幹事長 兼 マレーシア演奏旅行実行委員長  
中川 大治郎 (平成 29 年卒)

同志社グリークラブは 2016 年 2 月 16 日 (火) から 2 月 21 日 (月) にかけてマレーシア演奏旅行を行いました。御前演奏会、ラーマン大学との合同演奏会、各都市での演奏会、ホームステイなど、部員一同非常に貴重な経験をする事ができました。

今回の演奏旅行では「同志社グリークラブの音楽の発信」を主に目標としていました。マレーシアないし東南アジアでは初の演奏旅行ということで楽しみがある半面、自分たちの音楽が受け入れられるのか心配な面がありました。しかし、演奏をしてみると各演奏会でスタンディングオーベーションが起きるほど拍手をいただきました。同志社グリーの魅力を十分に伝えることができましたように思います。

また、ラーマン大学との合同演奏会やロータリークラブの方とのホームステイ等を通じて、国際交流を図れたことも大きな収穫でした。たどたどしい英語でのコミュニケーションでしたが、海外の文化や習慣を体験できたことは部員にとって貴重な経験になったように思います。

今回の演奏旅行で培ったことは私たちにとって大きな財産となりました。その財産を糧に今後の活動に臨んでいきたいと思えます。

最後になりますが、マレーシア演奏旅行にご支援、ご協力いただき誠にありがとうございました。今後とも現役への応援の程、宜しくお願い致します。

マレーシア演奏旅行記

豊田 尚紀 (昭和 59 年卒)

今回、直前に顧問の岸先生が随行できないとの事で、急遽全日程を現役と行動をともにする形で、12 年ぶりの海外演奏旅行に参加しました。

結論から申しあげると、現役の皆さんと 1 週間一緒に行動して本当によかった。学生である現役の皆さんの一生懸命さ、同志社グリークラブの「気持ちを精一杯伝えようとする音楽する姿勢」が昔と変わらないこと、日に日にメンバーの一体感が増しているのを目の当たりにしたからです。

決して、音楽の先進国ではないマレーシアで、音響の優れた会場もありましたが、各会場の満場の聴衆に大きな喜びを伝える演奏を現役が真摯におこなったこと、そして、その場に立ち会えたことは、OB として誇らしいものでした。また、ゆっくりと現役の皆さんとコミュニケーションできたことも個人的に楽しく、嬉しいことでした。

技術的にはこれからもっとレベルを上げてほしいと期待していますが、現役の皆さんは、きっとひとり一人、この演奏旅行で、「何か」をつかんで帰ってくれたと確信しています。

最後に、この演奏旅行実現にご支援下さいました OB の皆さまにお礼と感謝を申しあげます。

スケジュール

- 2016.02.16
  - 11:00 関西空港発
  - 17:05 マレーシア  
クアラルンプール着
  - 20:00 マレーシア新島会  
主催歓迎会出席
- 2016.02.17
  - 17:00 同志社グリークラブ、  
ラーマン大学合唱団、  
ラーマン大学中国楽  
器オーケストラジョ  
イントコンサート  
会場、ラーマン大学・  
スンガイ・ロン・キャン  
パス
- 2016.02.18
  - 20:30 サルタンの御前での  
演奏  
(イスカンダリア王宮)
- 2016.02.19
  - 19:00 ペナン演奏会  
(会場ジェンホテル、  
ロータリークラブ主催)
- 2016.02.20
  - ペナン滞在
- 2016.02.21
  - 16:00 クアラルンプール  
演奏会  
(国際青年センター主催  
会場、国際青年センター)
  - 23:50 クアラルンプール  
空港 発
- 2016.02.22
  - 6:50 関西空港 着 解散

マレーシアの人々を魅了した同志社グリークラブ

マレーシア演奏旅行招聘実行委員長 諸江 修 (昭和 59 年卒)

2016 年 2 月 16 日から 21 日の 6 日間、同志社グリークラブは、マレーシア各地で、4 回の演奏会を通して、王族から中学生に至る約 1,500 人のマレーシアの人々に、同志社グリークラブの伝統に根ざした力強い歌声で男声合唱の魅力を披露し、大きな感動を与えました。

演奏旅行のマレーシア受け入れ担当者として、1 年間の準備をさせていただき、演奏旅行中は卒業 32 年にしてもう 1 度同志社グリークラブのメンバーとなった気分で同行させていただきました。

マレーシアで現役は本当によく歌いました。全曲暗譜で、何人ものソリストが次々に現れ、アクションのある曲もあり、マレーシアの観客を大いに楽しませてくれました。マレー語の歌も実に素晴らしい発音で歌いました。そして伊東先生の指揮と指導を、イスカンダリア王宮でもペナンのロータリークラブの演奏会でも、多くの VIP たちが絶賛しました。



ラーマン大学合唱団  
中国楽器オーケストラとのジョイントコンサート

また現役はマレーシアの人々と積極的に交流し、特にラーマン大学合唱団、中国楽器オーケストラ、ペナンのホストファミリーのメンバーとは心温まる時間を共有したことと思えます。

私が指導しているラーマン大学合唱団のメンバーは同志社グリークラブから刺激を受け、自分たちでパートリーダーを選び、練習日以外にもパート練習をするようになりました。また今年 10 月に予定されている日本演奏旅行 (静岡・千葉) では暗譜することを自分たちで決めました。

急遽、演奏旅行に同行できなくなった顧問の岸先生に代わって、突然の依頼にもかかわらず、ラーマン大学で、学長の挨拶への答礼としての英語での挨拶、各地でのペナント・記念品の交換などの大役を果たしてくれた、私の同期の豊田尚紀 OB 会副理事長に特に感謝の意を表したいと思います。そして同じく同期の指揮者の須藤彰治君がラーマン大学演奏会での合同指揮 (同志社グリークラブ・ラーマン大学合唱団・ラーマン大学中国楽器オーケストラ) をするために演奏旅行に同行してくれたこと、同期の溝端利文君が演奏会の記録や設営に尽力下さったことにも感謝します。

最後になりますが、マレーシアに住んで 25 年目に、長年の願いがかない、現役がマレーシアに来てくれ、素晴らしい演奏してくれたことは、私の一生の宝になりました。心から感謝します。

(写真提供) 豊田 尚紀 (昭和 59 年卒)



サルタンの御前での演奏 (イスカンダリア宮殿)



ペナン演奏会

創立 113 年

2017 年 (平成 29 年)

第 66 回東西四大学合唱演奏会

同志社グリークラブ 113 期幹事長 服部 祥堯 (平成 30 年卒)



いざ東京へ!

6月25日(日)に、東京のすみだトリフォニー大ホールにて第66回東西四大学合唱演奏会が行われました。同志社グリークラブは Josquin Des Prez 作曲の「Missa Mater Patris」を指揮 技術顧問の伊東恵司(平成2年卒)先生で演奏いたしました。

この曲は第112回の定期演奏会でも演奏いたしました。今回は「Sanctus Benedictus」を含む全5曲を演奏いたしました。一度演奏してありますが、ミサ独特のポリフォニーや、ラテン語の発音やアクセントに非常に苦労しました。特にポリフォニーには最後の最後まで苦しめられました。しかし、これらを通して同志社グリークラブとして一回り成長できたのではないかと考えております。

合同ステージでは「唱歌の四季」(指揮 慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団 正指揮者 佐藤正浩)を演奏しました。子供からお年寄りの方まで、誰もが知っている曲であったため、会場全体が一つになり、まさに「聴衆と一体となった音楽」を作り上げたステージになったと実感いたしました。

私自身、今回の四連で特に思い出に残っているのはストームでお客様から頂いた拍手です。他の3団体と同じかそれ以上の拍手を頂きました。このストームを通してようやく他の3団体としっかりと戦うことができたのではないかと考えております。

また、このストームを通して、『相手と同じ土俵で演奏できた事によって見えてくる相手の本当の強さ』というものを実感いたしました。他の3団体の演奏をホールで聴く機会はエールとストームしかありません。しかし、その2つの演奏にはそれぞれの団体の飾られていない本当の力が垣間見えると考えています。見事なハーモニーを奏でる関学、圧倒的な迫力と声量の早稲田、誰が聞いても素晴らしいと感じる発声と音色を持つ慶應。本当の意味で相手の凄さを知り、本当の意味で相手の良さを学ぶことができた四連であったと考えております。

最後になりますが、理事長の芦田直幸先輩をはじめとする OB 会の皆様、今後とも同志社グリークラブへの応援の程、宜しく願い申し上げます。



本番直前



単独ステージ



合同ステージ

創立 114 年

2018 年 (平成 30 年)



第 114 回 同志社グリークラブ定期演奏会  
1 年間の集大成の音色

同志社グリークラブ 第 114 期幹事長 森 一就 (平成 31 年卒)

この度は、2019年2月11日(月・祝)京都コンサートホール 大ホールにて開催しました「第114回同志社グリークラブ定期演奏会」へお越しいただき、誠にありがとうございました。当日は雪が降りお足元の悪い中、定期演奏会ではびたり1,000名の聴衆の皆様にご来場いただきました。

本年度の定期演奏会は、弊社史上初となる定期演奏会とフェアウェルコンサートを同日に開催する運びとなりました。この様な日程に決定した要因は多々ございますが、そのうちのひとつとして、かつて偉大な先輩方が東西四大学合唱演奏会を昼・夜公演開催していたのを踏まえて、自分たちができる最大限のステージを聴衆の皆様にお届けしたいと思い、決断いたしました。

この一年間を振り返りますと、様々な出来事がありました。ラグビー W 杯さながら、四年に一度となる

京都開催での第67回東西四大学合唱演奏会、夏には5泊6日かけて名古屋・浜松・軽井沢を巡る夏季演奏旅行、僅か10分たらずの曲に何百時間と歌い込んだコンクール、そして高い完成度を求めた第54回全同志社メサイア演奏会……。目先の楽しいことには目もくれず、「血湧き肉躍る怪演」を目指し、御来場いただく聴衆の皆様には私たちの音楽をお届けしようと練習を重ねてまいりました。定期演奏会は、この一年間の集大成です。その成果を会場にお越しくくださった皆様に全身で感じていただける様、会場いっぱい同志社グリークラブの音色を響かせられたと考えております。

最後になりましたが、昨日の演奏会を開催するにあたり、多大なる御指導、御尽力を賜りました諸先生方、OB会の皆様、関係者の方々、そしていつも応援してくださいました皆様へ厚く御礼申し上げます。

創立 115 年

2019 年 (平成 31 年・令和 1 年)

二大学国際交流コンサート

日時：2019 年 5 月 20 日 (月)

会場：寒梅館ハーディーホール

マレーシア クアラルンプールのラーマン大学合唱団は、OB 諸江修氏 (昭和 59 年卒) が、2010 年の創設時から指導している団体。メンバーは一般の学生。出演は 43 名。繊細な表現でアンサンブルがしっかりとしていた演奏。曲目はピアノ伴奏で、映画 <ポカホンタス> や <プリンス オブ エジプト> からの曲やジョン ラター作曲の小品 2 曲。

現役は学生指揮者による、多田武彦作曲 <雪明りの道>。グリーらしいタダタケが聞けた。

賛助出演の京都男声合唱団は、鈴木捺香子 (音楽監督兼常任指揮者) による指揮で、木下牧子作曲の 男

声合唱組曲 <Enfance finie>。

合同はインドネシアの民謡やマレーシアの愛国歌、日本語の <故郷> と 松下耕作曲の <ほらね>。指揮は技術顧問 伊東恵司 (平成 2 年卒)。



賛助出演 京都男声合唱団

第 25 回 同立交歓演奏会

日時：2019 年 8 月 21 日 (水)

会場：寒梅館ハーディーホール

お盆明けの大学は休暇中の時期の開催ですが、そこそこの観客数でした。

今年の現役は去年度の定期演奏会の好調ぶりを維持しているようで、1 年生が加わったステージでも、レベル低下することなく、安定したパフォーマンスを披露してくれました。

この調子で、レベルアップしてくれば、コンクールでも良い結果が期待できると思います。

立教グリー男声も、統一されたさわやかな発声で、好演奏。女性も男声と、同様に若干人数が少なかっ

たのですが、整ったアンサンブルで、聞かせてくれました。

合同ステージは、技術顧問 伊東恵司指揮で短い練習時間にもかかわらず、そつなくまとまって、大人数のスケール感のある演奏で盛り上がりました。



<第 1 ステージ>  
立教大学グリークラブ女声  
女声合唱のための組曲「子猫物語」  
1. 子ども 2. 夜 3. 走る 4. 守る  
作詞：谷川俊太郎 作曲：松下 耕  
指揮：近藤すみれ (学生)

<第 3 ステージ>  
同志社グリークラブ  
男声合唱組曲「雪明りの路」  
作詞：伊藤 整 作曲：多田武彦  
指揮：村津耕平

<第 2 ステージ>  
立教大学グリークラブ男声  
男声合唱曲集「そのひとがうたうとき」  
1. 私たちの星 2. あい  
3. そのひとがうたうとき 4. 信じる  
作詞：谷川俊太郎 作曲：松下 耕  
指揮：有澤哲矢 (学生) ピアニスト：内木優子

<第 4 ステージ>  
合同ステージ  
混声合唱組曲「若葉のうた」  
作詞：みなづきみのり 作曲者：石若雅弥  
指揮：伊東恵司 ピアノ：矢吹直美



(写真提供) (株)大阪フォトサービス

第 115 回同志社グリークラブ定期演奏会を終えて

同志社グリークラブ 第 115 期幹事長 井出 輝 (令和 2 年卒)

2020 年 2 月 16 日 (日) に京都コンサートホールにて、115 期同志社グリークラブの活動の集大成となる第 115 回定期演奏会を開催しました。

昨今、コロナウイルスの蔓延により、多くの催しが中止となるなか、無事盛会に終えることができたことをうれしく思っております。

当日は悪天候に見舞われましたが、1006 名のお客様にご来場いただきました。この数字は団員の販売努力もありますが、OB の皆様のご協力があったからこそだと考えております。

誠にありがとうございました。

今年の定期演奏会では、5 年ぶりとなる OB 合同ステージを企画したため、例年とは異なる全 5 ステージ

構成でした。新しく覚える曲も多く、練習の中で苦労することも多々ありました。

中でも第 4 ステージの「ロマン派合唱曲集」と題したドイツ語曲が、慣れない言語ということもあり、発音や暗譜、歌いまわしなどの練習にかなりの時間を費やしました。

発音や曲の解釈については、ボイストレーナーの先生方にもご教授いただきながら取り組んできました。

その甲斐もあり当日は自信をもって演奏に臨むことができました。

また OB 合同ステージでは約 80 名の OB の先輩方にオンステしていただき、100 名を超える男声合唱の歌声をお客様に届けることができました。



OB 合同練習



合同リハーサル



ストーム

## 創立 116 年

2020 年（令和 2 年）



## 第 116 回同志社グリークラブ定期演奏会を終えて

同志社グリークラブ 116 期幹事長 古川 智也（令和 3 年卒）

2021 年 1 月 17 日、京都コンサートホール大ホールにおいて第 116 回同志社グリークラブ定期演奏会を開催いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大により開催が危ぶまれましたが、OB の諸先輩方を始め多くの方のご支援をいただき開催することができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

同志社グリークラブ 116 年目を迎えた今年度は苦難の一年となりました。昨年 2 月に開催された定期演奏会を終えて代替わりをした矢先に大学からの活動中止要請がかかり、計画していた「第 115 期卒団生のためのフェアウェルコンサート」を 2 日前に中止をする決断いたしました。その当時はここまで深刻な問題になるとはつゆ知らず、今だけ我慢すれば何とかなろうと楽観視していました。

しかしながら状況は悪化の一途を辿り、卒業式・入学式の中止、対面での新勧活動の中止と日を追うごとにますます活動の制限が加えられるようになっていきました。特に新勧がオンラインのみになってしまったのは我々にとって大打撃でありました。

学生の気質というものは時代が変われば当然変わり

ます。ひと昔と比べ、現在はあらゆる物事が多様化している時代にあります。サークル活動も例外ではなく、グリークラブの魅力をいくら伝えたとしても合唱経験がない人に「男性だけ」の「合唱」をしたいと思わせるのは至難の技です。そのため例年は食事を奢ったり、京都観光に行ったりと合唱以外の面からも勧誘活動をしてきました。

しかしこのような活動を全くできなくなり最終的には男子部員 4 名、女子マネージャー 3 名という結果になりました。もちろんこの状況下で入ってくれた 1 回生には感謝していますし、同時に期待もしていますが、人数が少ないことも事実であり、コロナ禍の新勧活動の難しさを思い知らせれました。他のサークルの中には大学からの指示を受けつつもその穴を抜けるような活動をしているところもあったようですが、我々としては危険なことをしてグリークラブの名に泥を塗るようなことがあってはならないと考え決められたルールの中で活動してきました。今になって考えてみるとそのような団体の「やったもの勝ち」という状況になっているので、少しは危ない橋を渡るべきだったかと思



う部分もあります。

新勧は我々の活動の根幹の部分であり、この 4 月からの新勧に同志社グリークラブの存亡がかかっていると言っても過言ではありません。現在後輩たちが一生懸命知恵を絞って「コロナ禍における新勧活動」を考えていますのでサポートをお願いいたします。

新勧が終わってからもコロナの影響はますます大きくなり、3 月末から正式に大学から活動中止要請が出されてから 6 月末までの 3 ヶ月間全ての活動がストップしました。この 3 ヶ月の間に東西四大学合唱演奏会の延期、サマーコンサートの中止、コンクールの中止、全同志社メサイア演奏会の中止と立て続けに決定しました。同時に私たち 116 期が 2 回生の始め頃から温めてきた関西五連も例外なく中止となりました。この期間中は団員同士の接触が全くなく、コミュニケーションがうまく取れなかったため、グリーから気持ちが離れてしまう団員もいたように思います。

活動が再開できたのは 7 月中旬でしたが、大学の施設は借りられず、外部の練習場で 4～5 人でのスタートでした。1 時間半の中でマスクをつけたまま壁に向かって歌うというルールを設け、それまでとは全く異なる形での練習でしたが久しぶりに声を重ねた時の喜びや感動は今でも覚えています。しかし、状況は良くなることはなく、当初 10 月に延期予定であった四連も中止となり、いよいよ定期演奏会を残すのみとなりました。その頃から「定演だけは絶対開催する」という強い気持ちで活動するようになっていきました。

コロナ禍で定期演奏会を開催するためには多くの課題をクリアする必要がありました。特に労力を費やしたのは大学との対話です。当初大学側からは集客人数は会場の規模に関わらず一律で 80 名という根拠に乏しい指示が出ていました。私自身生の音に勝るものは



ないと考えており、なるべく多くのお客様に会場で演奏を聞いていただきたいと思っていましたので、このようなルールは受け入れがたいものでありました。そこで同志社の合唱団と手を組み要望書を提出したり、学生支援課へ我々の活動について直接話に行ったりと粘り強く交渉を重ねました。その結果、森島理事長、伊東先生を始めとする多くの先輩方のご尽力もあり定期演奏会の有観客での実施をすることができました。

また、定期演奏会ではオンライン有料配信という新たな試みも行いました。ノウハウが全くない中での取り組みで、配信業社を決めるところから始まり、通信環境の問題や権利関係の問題など苦勞する部分が多々ありました。

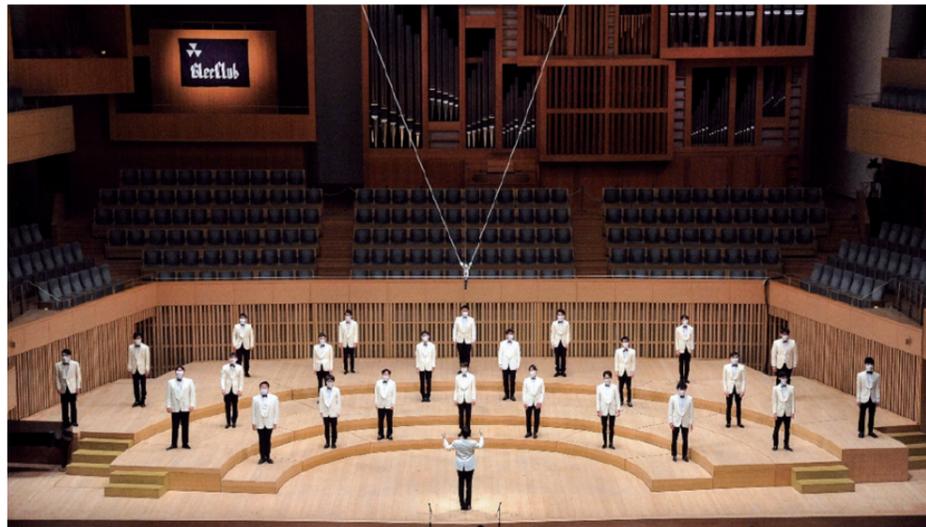
以上の他にも演奏会前 1 ヶ月を切ったタイミングで学内の部活でクラスターが発生し練習ができなくなったり、最終的には陰性であったものの、2 週間前に学生指揮者のゼミでクラスターが発生したため濃厚接触者認定を受けてしまったりと本番直前まで開催できるか分からない状況が続きました。

このような中で本番を迎えられたことはこれ以上ない喜びです。この 1 年間、これまで当たり前であったことがそうでなくなり、多くの苦勞や悔しい思いをしてきました。しかし、最後に同期や後輩たちと最高の舞台上で最高の演奏ができて本当に幸せな時間でした。ここまで頑張り抜いてくれた同期や後輩には感謝の気持ちを抱くとともにとても誇らしく思います。

最後になりますが、ここまで私たちの活動を支えてくださった皆様に改めて感謝を述べるとともに、次年度以降ますます厳しい道になるかと思っておりますので、今後とも変わらずご支援のほどをよろしくお願いいたします。今まで本当にありがとうございました。

## 創立 117 年

2021 年（令和 3 年）



第 117 回 同志社グリークラブ 定期演奏会を終えて

同志社グリークラブ 第 117 期幹事長 藤尾 快（令和 4 年卒）

2022 年 2 月 20 日（日）、京都コンサートホール大ホールにおいて第 117 回同志社グリークラブ定期演奏会を開催いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大、まん延防止等重点措置発令の期間中ということもあり、開催そのものが危ぶまれる状況でしたが、OB の諸先輩方をはじめ多くの方のご支援により盛大に開催することが出来ました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2021 年度の活動も昨年度同様、新型コロナウイルスの影響によって例年通りの活動とはなりませんでしたが、オンライン形式での新歓活動、練習時間の制限、舞台に立つ機会の減少など、コロナ禍以前の活動を知る上回生にとってそのギャップは計り知れず、クラブを運営する立場として頭を悩ます場面が多くありました。そのような中でも、団員同士が知恵を出し合いながら、これまで同志社グリークラブの活動の原動力となっていた音楽への情熱を忘れることなく、1 年間活動してまいりました。苦難の末に辿り着いた定期演奏会で、聴衆の皆様から拍手を戴いたときに感激したあの気持ちに、同志社グリークラブで過ごした 4 年間の全てが詰まっていたように思います。私たちに期待を

寄せてくださる方の存在、大変だからこそ得られるものの多さに、このクラブに打ち込む価値、このクラブが歌い続けなければいけない理由があるように感じました。この 1 年間の成果を会場に足を運んでくださった方や配信をご覧いただいた方に、117 年目を迎えた同志社グリークラブの音色、感動を届けることが出来たなら、これ以上の幸せはありません。そして、この思いを 118 期以降の後輩たちにも最後の演奏会で感じて欲しいです。

118 代を迎えた同志社グリークラブは 20 名以上の新入生を迎えることが出来ました。様々な逆境がある中で、後輩たちは頼もしく伝統を引き継いでくれます。我々 117 期は、OB という立場になっても後輩たちを支えていきたいと考えております。コロナ禍によって縮小するクラブは多くありますが、同志社グリークラブはコロナ禍によってより強く、逞しく成長するクラブであってほしいと心から願っております。最後になりましたが、本演奏会を開催するにあたり、多大なるご指導、ご尽力を賜りました諸先生方、OB の皆様、関係者の方々、そしていつも応援して下さる皆様に厚く御礼申し上げます。

## コロナ禍・どん底からのスタート

古川 智也（令和 3 年卒）

私の現役時代の思い出は楽しかったこと、大変だったこと挙げ出せばキリがないですが、私の 4 年間のグリー生活を語る上で外す事ができないのは今も続くコロナの流行です。

第 115 回定期演奏会が成功の内に終わり、いよいよ自分たちの代が始まるという矢先にそれは全世界で大流行となり、例外なく我々の活動も自粛となりました。予定されていた演奏会は軒並み中止となり、新歓もできず先の見えない非常に苦しい日々が続きました。大学の根拠に乏しいコロナ対応に対しては他の合唱団にも声をかけ要望書を提出したりと我々の活動の場を守ることに必死だった 1 年でした。

それまで当たり前であったことが当たり前でなくなり、辛いことも多い 1 年でしたが、だからこそみんなで集まって声を合わせてハモらせることの楽しさ、心地よさ、感動をより実感できた一年でもあったように思います。

最終的に開催できたのは定期演奏会のみ、3 ステージ構成で当日ご来場いただいたお客様は 100 名程度でしたがそこに我々の 1 年間の全て詰まっていたように思います。アンコールで「月光とピエロ」より「月夜」を演奏しました。コロナであらゆるものを失った 1 年ではありましたが、どん底からのスタート、ここからまた同志社グリークラブがかつ

てのような輝きを放てるように願いを込めての選曲でした。

そして 2022 年、3 年ぶりに後輩たちのホストで東西四連が開催され、合同ステージでこの曲が京都コンサートホールで再び演奏されましたが、それを聴き自然と涙が溢れたことを今でも覚えています。

私はもう一つ役職として持っていた渉外（かつての京外）での思い出もたくさんあります。こちらの仕事では他団の人との関わりもあり、そこで多くの先輩、同期、後輩と出会いました。グリーの活動が楽しいことばかりではない中で、時には愚痴を言い合ったり、励ましあったりする仲間ができました。年末はそんな仲間たちの演奏会にも行き、活躍する姿を見るのも一つの楽しみでありました。

また、京都合唱連盟の理事にもなり、京都合唱祭の運営も手伝いました。3 回生の時は、1 日目は出演、2 日目は勝手に裏方の手伝いをしたりと連盟の大人の方々にも大変よくしてもらったのは良い思い出です。

私の近況としては、大学卒業後も音楽に携わる仕事をしております。グリーで得た経験が直接今の仕事に活かしているかと聞かれてもそれはわかりません。しかし、今の仕事をしたいと思うようになったのは間違いなくグリーでの経験があったからだと言えます。社会人生活は楽しいこ

## 同グリよもやま話①

とばかりではありませんが、真面目に一生懸命頑張りたいと思います。

合唱も仕事の合間を縫って続いています。土日に予定がなければダラダラと過ごしてしまうところ、練習があるおかげでちゃんとした休日を過ごせている気がします。大きな声を出して歌うことがストレス発散になるというのも社会人になって身に染みて実感するようになりました。

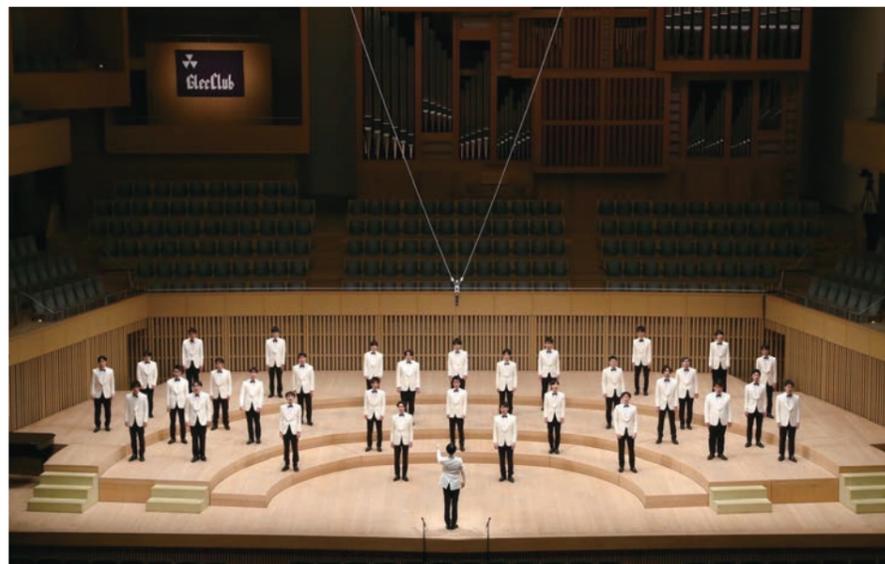
OB となって早 2 年が経とうとしています。演奏会や日々の SNS で現役の活躍を見られることは嬉しいですし、1 回生もたくさん入ってコロナにも負けず活動している後輩たちを誇らしく思います。

コロナ初年度の幹事長であった私は多くの OB の先輩方の助けをいただきながら活動を進めていく事ができました。当時のご支援は今でも感謝しており、だからこそ OB となった今、現役のためにできることは何でもしたいと思っています。

しかしながら OB とは難しいもので、あまりお節介をしすぎると現役から疎まれてしまいます。この文章を読んでいる先輩方ももちろんそうだと思いますが、私は同志社グリークラブが好きですし、高校まで野球一筋であった私に素晴らしい景色を見せてくれた同志社グリークラブに恩返ししたいと思っています。だからと言って現役には深入りしすぎず、現役の背中を後ろからそっと押してあげられる存在でありたいと思います。

創立 118 年

2022 年 (令和 4 年)



第 118 回 同志社グリーンクラブ定期演奏会を終え、卒団にあたって

同志社グリーンクラブ 第 118 期幹事長 沖山 竜也 (令和 5 年卒)

第 118 回同志社グリーンクラブ定期演奏会を 2023 年 2 月 26 日 (日) に開催いたしました。そしてこの日をもって我々 118 期は同志社グリーンクラブを卒団しました。

定期演奏会の曲目は以下の通りです。

- ・第 1 ステージ 男声合唱組曲「東京景物詩」
- ・第 2 ステージ 男声合唱のための「ラブソディー・イン・チカマツ」
- ・第 3 ステージ コダイ男声合唱曲集
- ・第 4 ステージ 男声合唱曲「島よ」
- ・アンコール Dixie、Soon Ah Will Be Done、出発 You'll Never Walk Alone

118 期らしいステージ構成、選曲になっていると思います。第 4 ステージは今年度最初で最後のピアノ曲を演奏しました。昨年の定期演奏会の際に、次年度は人数が少ないからピアノ曲は歌えず、水戸先生のピアノで歌えるのが最後なのかもしれないと思っていました。しかし、今年度もなんとか人を集め、水戸先生のピアノで「島よ」を演奏できて本当に嬉しい限りです。

例年であればフェアウェルコンサートを開催して卒団するのですが、今年度は定期演奏会の日程が例年より遅い点、寒梅館ハーディーホールが使用できないという点等を考慮して、コンサートとしてのフェアウェルは行わないことといたしました。後輩たちには定期演奏会が終わったらすぐに新歓活動に専念してほしいという願いがあります。そのため、定期演奏会の最後に You'll Never Walk Alone を演奏して卒団したいという思いを伊東先生や後輩達に伝え、今回の形式を取らせていただきました。

全曲終了後の舞台上からの光景が鮮明に脳裏に焼き付いております。同志社グリーンクラブの至上の命題である「聴衆と一体となった音楽」を体現できた瞬間であったと感じました。

118 期はやっと終われます。私たちにとってこの 1 年で「やっと終われる」に気持ちが変わるくらい大変な 1 年でした。118 期の始まりは、上回生 11 人という史上最少人数で始まり、「存続の危機」にありました。新年度を迎えることに対する不安な気持ちと 118 年の

灯火を絶やすわけにはいかないという強い気持ちを持って挑んだ新歓活動では、大成功を収め、多くの新入生を迎え入れることができました。今回の定期演奏会では 30 名超えて歌うことができ、1 年間歌い切ってくれた 1 回生には感謝しかありません。

同志社グリーンクラブを支えてくださった OB 会の皆様、関係者の皆様、今回このような危機を乗り越えられたことは、皆様のご支援とご協力のおかげであることに他なりません。

最後の最後まで密にサポートしていただき、本当に感謝しかありません。この場をお借りして感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

同志社グリーンクラブを支えてくださった先生方、芸術など何も知らなかった私に、本当の美しさを追求することを教えてくださった先生方に感謝いたします。誠にありがとうございました。

最後に私が 4 年間のグリーンライフを通して感じた感謝を記させていただきます。

「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」

私が通う新町キャンパスに刻まれたこの言葉は、グリーンクラブに入団した時に心に刻んだ言葉です。幹事長プラス 3 役という想像を絶する作業量と、多忙な日々の練習で徐々に薄れていったこの言葉を、同期や後輩達の言動で何度も刻み直されました。どれだけ心に穴が空きそうになっても、仲間の些細な言動に救われてきました。仲間から言われた「沖山が幹事長でよかった」。

相手にとっては何気無い贈り物が、1 人の人間の宝物となり、生きがいになるかもしれない、そんなことを感じた瞬間でした。

グリーンクラブは自分が成長できた場所、仲間を作れた場所。間違いなく自分が形成された場所であり、自分の居場所でした。ありがとう、グリーンクラブ。

Go, go, go in peace. Be strong! Mysterious Hand guide you!

素敵な人、素敵な曲、素敵な言葉に沢山めぐり会えた 4 年間でした。ありがとうございました。



指導いただいている先生方と団員



ゲネプロ



ゲネプロ



終演後のストーム

創立 119 年

2023 年（令和 5 年）

同志社グリークラブでは、演奏会に加えてさまざまな行事を行っております。これらの活動は毎年「グリーサルーン」や定期演奏会パンフレットにて紹介されていますが、令和 5 年（2023 年）の記録は、写真・記事ともに充実しているため、本誌ではその年の活動を代表として掲載いたします。

同志社グリークラブ 年間の活動

同志社グリークラブ第 120 期幹事長 佐野 雅弥（令和 7 年卒）



森島前理事長をはじめとする OB の皆様、伊東恵司技術顧問のご臨席を賜り、2023 年 5 月 13 日（土）に対面式を行いました。29 名のフレッシュが、同志社グリークラブの一員となりました。

「入学式の歌声に心が震えた。」「新しいことにチャレンジしたい。」「一生の友人を作りたい。」「高校時代、何も頑張ることが出来なかった。大学では頑張りたい、その価値のあるクラブだと思った。」等、フレッシュの入部の動機を聞いて、彼らとともにワンチームになり、来年の創部 120 周年、再来年の同志社創立 150 周年に向けて、日々練習に励んでまいりたいと、意を新たにいたしました。



6 月 18 日（日）に第 60 回京都合唱祭に出演しました。一回生の初めてのステージです。難しい曲を暗譜して立派に歌ってくれました。上級生も、良い刺激を受けました。KATONADAL「兵士の歌」（作曲コダーイ）、Ev'ry Time I Feel the Spirit（黒人霊歌）を約 40 名で演奏いたしました。



6 月 24 日（土）の第 72 回東西四大学合唱演奏会は、東京芸術劇場コンサートホールで開催されました。私たちは、「東欧の響き～東ヨーロッパ男声合唱曲集～」を伊藤恵司技術顧問の指揮で歌いました。

難しい曲でしたが、演奏後、OB の皆様をはじめ、たくさんの方々から、「素晴らしい出来だったぞ。」とお褒めの言葉をいただきました。

音楽を通して、四校の絆がますます深まった情熱溢れる演奏会となりました！



7 月 17 日（月）に、祇園祭の太子山巡行に参加しました。出陣式では、Doshisha College Song と多田武彦作曲の梅雨の晴れ間を演奏しました。出陣式には、OB の皆様も応援にきていただきました。来年で、太子山さんにご縁ができてちょうど 50 年とお聞きしました。グリーの伝統が、ここでも息づいていると感慨深いものがありました。参加した部員にとっても、大変貴重な経験となりました。



8 月 5 日（土）に同志社フェア in 福岡に出演し、「柳河風俗詩」を含む 10 曲を演奏しました。九州の OB の皆様をはじめ、遠方の皆様に演奏を披露する貴重な経験となりました。

皆様から、「素晴らしいハーモニーだった。」と評価をいただきました。

終了後に、柳川市（柳河 現在は、柳川「柳河風俗詩」の作曲者 北原白秋の故郷）の金子市長の奥様が、同志社総長を務められた柳川出身の「海老名弾正」先生の遠縁に当たられる方で、市長とともにお越しいただき、お会いしました。

緊張はしましたが、とても喜んでいただき、同志社の深いつながりを感じました。



8月10日に、同志社大学聖歌隊の皆様と共に同志社大学創立150周年を記念して作曲された讃美歌『主の道を行こう』の映像収録を行いました。収録した映像は同志社創立150周年記念事業のYouTubeチャンネルで公開されていますので、ぜひご覧ください。



8月27日に、神戸文化ホールの大ホールで関西学院大学・北海道大学・同志社大学男声合唱フェスティバルを行いました。同じ100年以上の歴史を持つ男声合唱団が集まり、お互いの演奏に刺激を受けることができました。



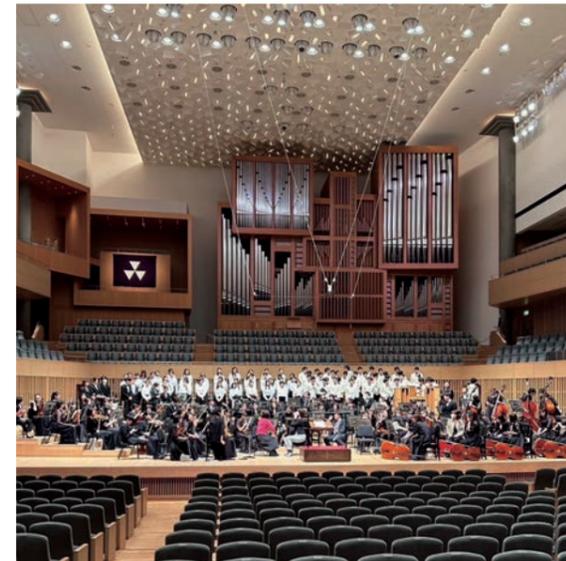
9月4日～7日に、ハチ高原のホテル谷常で夏合宿を行いました。関西合唱コンクールや全同志社メサイア演奏会などにむけた夏合宿を行いました。寝食を共にし、団員の絆が深まりました。



10月8日に、伊丹ホールで行われた関西合唱コンクール大学職場一般部門大学ユースの部に出場しました。銀賞という悔しい結果となりましたが、その悔しさがその後の活動の原動力となりました。



11月12日に、ホームカミングデー2023が行われ、良心館のサンクンモールで演奏しました。OBの皆様との合同演奏もあり、グリークラブの歴史を感じることができました。



12月25日に、京都コンサートホールの大ホールで第56回全同志社メサイア演奏会を行いました。4年ぶりに行われたため、1回生から4回生まで誰一人として経験したことない舞台で大変なことも多かったですが、大きな達成感を得ることができました。



12月2日に、新潟市の朱鷺メッセで行われた、同志社フェア in 新潟に出演しました。敬和学園高等学校混声合唱部と共演し、高校生の若々しくも充実した演奏に刺激を受けました。



2024年3月12日に、同志社大学寒梅館のハーディーホールで、アメリカ海軍士官学校グリークラブ・同志社グリークラブジョイントコンサートを行いました。アメリカ海軍士官学校グリークラブの演奏が大変素晴らしく、団員一同驚き、感動していました。私たちが彼らのような演奏ができるように励みたいと思います。

創立 120 年

2024 年 (令和 6 年)



合唱コンクールについて

同志社グリークラブ 第 89 代学生指揮者 小嶋 響 (令和 7 年卒)

第 120 期の活動を語るうえで忘れてはならないのが、この 2024 年 10 月 13 日に行われた第 79 回関西合唱コンクールと翌月 11 月 23 日に行われた第 77 回全国合唱コンクールです。関西合唱コンクールでは大学ユースの部にて 1 位金賞と大学職場一般部門の中で、最も優秀な演奏をした団に贈られる全日本合唱連盟理事長賞を受賞することができました。また、全国合唱コンクールでは金賞と大学ユースの部 3 位団体に贈られる日本放送協会賞を受賞することができました。

思い返せば、我々 120 期の活動は 3 月の総会にて三つの目標を掲げて始動しました。それは、「東西四連での最も優秀な演奏をすること」「全国合唱コンクールで金賞を取ること」「創立 120 周年記念コンサートを成功させること」でした。おそらくその目標の中でも、最も実現が難しいとされていた「全国合唱コンクールで金賞を取ること」を実現できたことは、毎日必死に練習に励んだ仲間と真摯に指導をしてくださいました技術顧問の伊東恵司先生やボイストレーナーの先生方、お力添えくださいました OB 会の皆様の努力の賜

物であると考えております。

課題曲として南弘明作曲『月下の一群』より「秋の歌」を、自由曲としてヴェリヨ・トルミス (Veljo Tormis) 作曲「Muiste Mere Laulud (古代の海の歌)」を演奏しました。課題曲の「秋の歌」は、関西コンクールの際は萩原吉樹先生に、全国コンクールでは水戸見弥子先生にピアノを弾いていただきました。ピアニストの違いによって関西コンクールと全国コンクールの演奏は少々異なるサウンドになりましたが、どちらも一級品の演奏であったことに違いはありませんでした。一方、自由曲の「古代の海の歌」では 120 期が誇るソリスト、低声部の鳴り、サウンドの全体感への細かい配慮のそれぞれを存分に発揮した演奏を披露することができました。

コンクールへの出場は、これまでの音楽への向き合い方を見つめ直す良い機会になりました。今後の活動では 120 期の全国 3 位の結果に満足することなく、貪欲に日本一を取るべく日々研鑽を続けることを後輩たちには期待しています。



第 77 回 全日本合唱コンクール全国大会  
大学ユースの部を聴いて

同志社グリークラブ OB 会 会長 山下 裕司 (昭和 52 年卒)

2024 年 11 月 23 日、松山市の愛媛県民文化会館には各地域のコンクールを勝ち抜いた精鋭 10 団体と、前年 1 位のシード団体「Man de rart」が集結。ロビーで待っていると運良く移動中のグリーンと遭遇、「頑張れ！」のエールを送る。1 階客席のほぼ中央に OB 仲間と陣取り、全国大会独特の緊張感と共に開演を待つ。そして開会式のあと 10 時 25 分から、いよいよ本選が始まった。当然とは言え最初の団体からハイレベルの演奏が続く。サマーコンサートでジョイントした事もある「北海道大学合唱団」も素晴らしいステージだ。私たちの夢「同志社グリークラブ」は 5 番目の出演、近づくにつれ緊張が高まる中、その時を迎える。ステージには約 50 人のきれいなオーダー。課題曲は南弘明作曲の「秋の歌」、男声合唱曲集「月下の一群」の終曲だ。抑え気味の入りからしっかりと歌いだし中盤も安定している。最後『かなたこなた 吹きまくれ』、私にはやや迫力不足に聴こえたが、おそらく 2 階の審査員席にピントを当てる作戦か、問題は無いだろう。水戸先生のピアノもさすが、見事の一言です。自由曲はア・カペラでトルミス「古代の海の歌」。今年 6 月の四連でも歌っている曲だが、やはりコンクールは一発勝負なので油断禁物。この辺りから聴衆ということ忘れてステージと同化しだす OB 連中。息を詰めて聴き入っているのがよくわかる。演奏は歌いだしから安定感たっぷり、難しいソロも大軒君が歌い切った。

長い曲だったがあっという間に終わった感じ、素晴らしい出来だったと思います。

続いての出演は「Man de rart」、昨年のシードだがグリーンとは甲乙つけがたい感触。その後休憩を挟んで後半は金沢大学や地元愛媛大学、早稲田のコールフリーユージュルに都留文科大学と続く。それぞれ立派な演奏でした。特に最後の「都留文科大学合唱団」はここ数年関西学院と並ぶ金賞常連校で、男声が少なくバランスが悪かったのはさておき、その演奏は圧巻の一言でした。

夕方遅くに結果発表、出演順に読み上げられる。5 番目に呼ばれた『同志社グリークラブ、ゴールド、金賞』のアナウンスに感動。注目の順位は 3 位で、日本放送協会賞受賞。今年から 2 団体に贈られるシード権は、1 位都留、2 位早稲田フリーユージュルに。早稲田は 17 人という少人数で勝ち上がってきただけあって丁寧な演奏だったが、正直、同志社との差は無かった様に思う。残念ながらグリーンは来年もまた関西コンクールからスタートになった。

しかし今回、コンクール再挑戦から十数年、関西で関学を破り全国で金賞受賞。今まではね返され続けた壁を乗り越えた。創立 120 周年という記念の年にグリーンが成し遂げた快挙に、盛大な拍手と「ブラボー」を贈りたい。

# 定期演奏会 第101回～第110回



## ◆ 第101回定期演奏会

2005年12月10日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「合唱のための コンポジション第6番」 作曲/関宮 芳生 指揮/小林 崇論	「トルミス男声合唱曲集」 作曲/Veijo Tormis 指揮/伊東 恵司 パーカッション/関口 百合子	「現代邦人作品集 ～日本の新しい作品を求めて」 作曲/松下 耕 他 指揮/小林 崇論	「minimal - for male voices」 (委嘱作品初演) 作詩/谷川 俊太郎 英訳/W.I.Elliott 作曲/松下 耕 指揮/松下 耕

## ◆ 第102回定期演奏会

2006年12月9日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「合唱のための コンポジション第3番」 作曲/関宮 芳生 指揮/元吉 圭太	1) Linden Lea 作曲/R.Vaughan Williams 2) Bushes and Briars 作曲/R.Vaughan Williams 3) The Ballad of LITTLE MUSGRAVE and LADY BARNARD 作曲/B.Britten 指揮/伊東 恵司 ピアノ/薬師 梨恵	「いつからか野に立つて」 作詩/高見 順 作曲/木下 牧子 指揮/元吉 圭太	「12月、そしてクリスマス」 作曲/V.Tormis 他 指揮/松原 千振



## ◆ 第103回定期演奏会

2007年12月15日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「トルミス男声合唱曲集」 ～エストニアの風景～ 1) Incantatio maris aestuosi 2) Men's Song I 作曲/V.Tormis 指揮/伊東 恵司	「新しい歌」 作詞/G.ロルカ 他 作曲/信長 貴富 指揮/清水 敬一 ピアノ/木下 亜子	「American Folk Songs」 (編曲委嘱) 編曲/北川 昇 指揮/伊東 恵司 パーカッション/長田 由季	「五つのラメント」 作詩/草野 心平 作曲/廣瀬 量平 指揮/正川 勲

## ◆ 第104回定期演奏会

2008年12月13日／京都コンサートホール

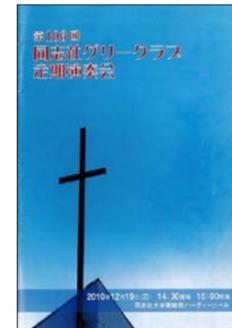
第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「エストニアの旅」 トルミス男声合唱曲集 1) Laulusild 2) Eestirahva erakonnamäng 3) Pükselitaania 4) tantsulaul 作曲/V.Tormis 指揮/伊東 恵司	「壁消えた」 作詞/谷川 雁 作・編曲/新実 徳英 指揮/鈴木 隆介	「Spirituals」 指揮/伊東 恵司	「だれもの探検」 作詩/木島 始 作曲/三善 晃 指揮/清水 敬一



## ◆ 第105回定期演奏会

2009年12月12日／文化パルク城陽プラムホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「北欧の風景」 作曲/L.Madetoja 他 指揮/伊東 恵司	「月に寄せる歌」 作詩/北原 白秋 作曲/多田 武彦 指揮/鈴木 隆介	「British Folk Songs」 (編曲委嘱) 編曲/北川 昇 指揮/伊東 恵司	「初心の歌」 作詩/木島 始 作曲/信長 貴富 指揮/鈴木 隆介 ピアノ/松井 萌



## ◆ 第106回定期演奏会

2010年12月8日／同志社大学寒梅館 ハーディーホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ	第5ステージ
「Maarjamaa ballaad」 作曲/V.Tormis 指揮/伊東 恵司	「祈りの風景」 ～現代の宗教音楽から～ 指揮/伊東 恵司	「白き花鳥図」 作詩/北原 白秋 作曲/多田 武彦 指揮/森崎 公平	「X'mas Songs」 (編曲委嘱) 編曲/松波 千映子 指揮/伊東 恵司	「水と影、影と水」 原詩/FG.ロルカ 訳詩/長谷川 四郎 作曲/寺嶋 陸也 指揮/藤井 宏樹 作曲/寺嶋 陸也

## ◆ 第107回定期演奏会

2011年12月10日／同志社大学寒梅館 ハーディーホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「やさしい魚」 作詩/川崎 洋 作曲/新実 徳英 指揮/神谷 亮太 ピアノ/松井 萌	「a la Carte!」 1) Capriccio 2) Tempestoso 3) 虹 4) 隕石 5) サッカーによせて 6) 夜空ノムコウ 指揮/伊東 恵司 ピアノ/松井 萌	「Christmas Songs」(編曲委嘱) 1) くしき星よ 2) Carol of the Bells 3) ああベツレヘムよ 4) さびしがりやのサンタクロース 5) Winter Wonderland 編曲/松波 千映子 指揮/伊東 恵司	「クレーの絵本 第2集」 作詩/谷川 俊太郎 編曲/三善 晃 指揮/清水 敬一



## ◆ 第108回定期演奏会

2012年12月15日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「新しい歌」 作詩/FG.ロルカ 他 作曲/信長 貴富 指揮/藤井 研二郎 ピアノ/松井 萌	「雨ニモマケズ」 作詩/宮澤 賢治 作曲/千原 英喜 指揮/伊東 恵司 ピアノ/萩原 吉樹	「Christmas Around the World」 指揮/伊東 恵司 パーカッション/森本 瑞生	「永訣の朝」 作詩/宮澤 賢治 作曲/鈴木 憲夫 指揮/浅井 敬壹 ピアノ/藤澤 篤子

## ◆ 第109回定期演奏会

2013年12月1日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ	第5ステージ
「ラグビー」 作詩/竹中 郁 作曲/信長 貴富 指揮/伊東 恵司 パーカッション/森田 貴史	「風に鳴る笛」(2013年度版) (改訂版初演) 作詩/谷川 俊太郎 作曲/高嶋 みどり 指揮/伊東 恵司 ピアノ/内藤 典子	「くちびるに歌を」 作詩/H.ヘッセ 他 作曲/信長 貴富 指揮/長谷川 裕也 ピアノ/松井 萌	「クリスマスの祈り」 指揮/伊東 恵司	「水のいのち」 作詩/高野 喜久雄 作曲/高田 三郎 指揮/浅井 敬壹 ピアノ/藤澤 篤子



## ◆ 第110回定期演奏会

2014年12月7日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「雨」 作詩/伊藤 整 他 作曲/多田 武彦 指揮/安村 真也	110周年記念 OB合同ステージ 指揮/日下部 吉彦 指揮/浅井 敬壹 指揮/伊東 恵司 指揮/安村 真也	「帆を上げよ、高く」 (委嘱初演) 作詩/みなづきみのり 作曲/信長 貴富 指揮/伊東 恵司 ピアノ/萩原 吉樹	“十の詩曲”より 「六つの男声合唱曲」 作詩/安田 二郎 作曲/D.Shostakovich 編曲/福永 陽一郎 指揮/浅井 敬壹

# 定期演奏会 第111回～第120回



## ◆ 第111回定期演奏会 2015年12月12日／いずみホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「Fragments」 - 特攻隊戦死者の手記による - 作曲/信長 貴富 指揮/伊東 恵司 ピアノ/萩原 吉樹	「初心の歌」 作詩/木島 始 作曲/信長 貴富 指揮/沖村 明彦 ピアノ/松井 萌	「Songs for Christmas」 指揮/伊東 恵司	「沖繩小景」 作曲/端慶寛 尚子 指揮/名島 啓太

## ◆ 第112回定期演奏会 2016年12月3日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「Missa Mater Patris」 作曲/Josquin des Prez 編曲/Elliot Forbes 指揮/伊東 恵司	「富士山」 作詩/草野 心平 作曲/多田 武彦 指揮/東 大生	1) 「三つの時刻」 作詩/丸山 薫 作曲/三好 晃 2) 「路標のうた」 作詩/木島 始 作曲/三好 晃 指揮/伊東 恵司 ピアノ/萩原 吉樹	「月に詠ふ」 作曲/新実 徳英 指揮/清水 敬一



## ◆ 第113回定期演奏会 2018年1月14日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「祈る」 ～キリスト教音楽曲集～ 1) Gloria (des Prez) 2) Beati Mortui (Mendelssohn) 3) Heilig (Schubert) 4) Ave Maria (Biebl) 指揮/伊東 恵司	「五つのラメント」 作詩/草野 心平 作曲/廣瀬 量平 指揮/八木 和貴	「夏の最後の薔薇」 ～日本語で歌うイギリスのうた～ (編曲委嘱) 作詩/みなづき みのり 作曲/山下 祐加 指揮/伊東 恵司	「シーラカンス日和」 作詩/水無田 気流 作曲/田中 達也 指揮/伊東 恵司 ピアノ/水戸 見弥子



## ◆ 第114回定期演奏会 2019年2月11日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「トルミス男声合唱曲集」 1) Verjele, Jumala, soasta (神よ、戦いから 我々を守り給え) 2) Raua needmine (鉄への呪い) 作曲/V.Tormis 指揮/伊東 恵司	「雪と火花」 作詩/北原 白秋 作曲/多田 武彦 指揮/八木 和貴	「西洋音楽曲集」 1) Hospodí Pomilui 2) Echo 3) Loch Lomond 4) Lore-Ley 5) Dixie 編曲/福永 陽一郎 指揮/伊東 恵司	「帆を上げよ、高く」 作詩/みなづき みのり 作曲/信長 貴富 指揮/伊東 恵司 ピアノ/萩原 吉樹



## ◆ 第115回定期演奏会 2020年2月16日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ	第4ステージ
「カンテイクム・サクルム 第2集」 3つの聖母賛歌 <マリア、アレラヤ!> 作曲/千原英喜 指揮/伊東 恵司 パーカッション/樽井 美咲	「雪明かりの路」 作詩/伊藤 整 作曲/多田 武彦 指揮/村津 耕平	OB合同ステージ 指揮/桑山 博 指揮/山下 裕司 指揮/伊東 恵司 指揮/村津 耕平	「ロマン派合唱作品集」 作曲/R.Schuman 他 指揮/伊東 恵司 ピアノ/水戸 見弥子	「回風歌」 作詩/木島 始 作曲/松本 望 指揮/伊東 恵司 ピアノ/水戸 見弥子



## ◆ 第116回定期演奏会 2021年1月17日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ
「雪国にて」 作詩/堀口 大學 作曲/多田 武彦 指揮/和田島 幸星	「ロバート・ショウ合唱曲集」 指揮/伊東 恵司	「月下の一群 第一集」 原詩/P.ヴェルレーヌ 他 訳詩/堀口 大學 作曲/南 弘明 指揮/伊東 恵司 ピアノ/水戸 見弥子

## ◆ 第117回定期演奏会 2022年2月20日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「トルミス男声合唱曲集」 作曲/V.Tormis 指揮/伊東 恵司	「中勘助の詩から」 作詩/中 勘助 作曲/多田 武彦 指揮/和田島 幸星	「黒人霊歌曲集」 指揮/伊東 恵司	「ジプシーの歌」 (Zigeunermelodien op.55) 作曲/A.Dvořák 編曲/福永 陽一郎 指揮/伊東 恵司 ピアノ/水戸 見弥子



## ◆ 第118回定期演奏会 2023年2月26日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「東京景物詩」 作詩/北原 白秋 作曲/多田 武彦 指揮/大村 浩太郎	「ラブソディー・イン・チカマツ」 作詩/近松 門左衛門 作曲/千原 英喜 指揮/伊東 恵司	「コダーイ男声合唱曲集」 作曲/Kodály Zoltán 指揮/伊東 恵司	「島よ」 作詩/伊東 海彦 作曲/大中 恩 編曲/福永 陽一郎 指揮/伊東 恵司 ピアノ/水戸 見弥子



## ◆ 第119回定期演奏会 2024年2月18日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「柳河風俗詩」 作詩/北原 白秋 作曲/多田 武彦 指揮/小嶋 響	「エウゲン・スホニユ男声合唱曲集」 作曲/Eugen Suchoň 指揮/伊東 恵司	「三つの悲歌」 作詩/逸見 猶吉 作曲/田中 達也 指揮/小嶋 響 ピアノ/内藤 典子	「チャイコフスキー歌曲集」 作曲/P.I.Tchaikovsky 編曲/福永 陽一郎 指揮/伊東 恵司 ピアノ/水戸 見弥子



## ◆ 第120回定期演奏会 2025年2月11日／東京 紀尾井ホール 2025年2月23日／京都コンサートホール

第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
「トルミス男声合唱曲集」 1) Muistse Mere Laulud (古代の海の歌) 2) Helletused (幼き日の思い出) 作曲/V.Tormis 指揮/伊東 恵司 ソプラノ/吉川 真澄	「Ein Liebeslieder Buch」 (愛の詩集)より 作曲/R.Strauss 編曲/福永 陽一郎 指揮/藤井 宏樹 ピアノ/水戸 見弥子	「季節へのまなざし」 作詩/伊東 海彦 作曲/萩久保 和明 指揮/小嶋 響 ピアノ/内藤 典子	「Time passes」 (委嘱初演) 作詩/和合 亮一 作曲/田中 達也 指揮/伊東 恵司 ピアノ/水戸 見弥子



# 同志社 創立 150 周年

## 学校法人同志社創立 150 周年記念 全同志社合唱祭を振り返って

全同志社合唱祭実行委員会 副委員長  
森島 敏夫（昭和 53 年卒）

「学校法人同志社創立 150 周年記念 全同志社合唱祭」は、京都コンサートホールにて 11 月 9 日土曜日 14 時に開演し、八田英二総長の祝辞に続き、同志社の各学校と OBOG 合唱団など 22 団体が 15 ステージにて合唱曲を披露しました。

合同ステージは、本山秀毅先生の指揮、パイプオルガン大代恵先生により、同志社オリジナル賛美歌「主の道を行こう」とヘンデル「ハレルヤ」が高らかに歌いあげられ、最後にグリークラブ第 89 代学生指揮者小嶋響君の指揮で会場の皆様と一緒に「同志社カレッジソング」を歌い、遠山耕二実行委員長による同志社チアーによって、四半世紀ぶりの合唱祭は 17 時 30 分に終演となりました。

当日は快晴にも恵まれ、ご来場のお客様はのべ 1,288 名。

14 番目に出演した現役グリーメン 47 名と

OB 会員 46 名は、「Hail our Glee Club」 「同志社大学歌」 「詩編 98」 を大ホール一杯に響かせました。10 月 13 日に開催された第 79 回関西合唱コンクールでみごと金賞を受賞し、11 月 23 日愛媛県松山市にて開催される全国大会に出場することが決まった現役グリークラブのはつらつとした歌声と、最高齢 86 才まで全世代を代表してオンステージした OB による熱い歌唱は、満席となったご来場の皆様から万雷の拍手を頂戴し、記憶に残るステージとなりました。

同志社の中学生高校生による若々しい歌声から、同志社大学の各合唱団、そして OBOG 合唱団、PTA コーラスからゴスペルクワイヤまで、のべ 877 名がオンステージした全同志社合唱祭は、まさしく「合唱の同志社」の名に恥じない感銘を、歌うメンバーとご来場の皆様の心に深く刻みつけた大イベントとなりました。

本合唱祭の開催にご尽力いただきました法人同志社と、同志社の各学校、ならびに出演者の皆様と、諸準備と当日のサポートに携わっていただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

世界の平和が続き、同志社が益々発展し、四半世紀後に創立 175 周年を記念する全同志社合唱祭がさらに盛大に開催されますよう心から祈念するものです。



## 企画展「合唱の同志社」

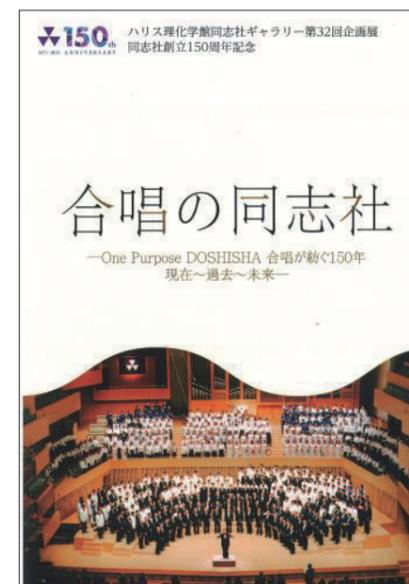
OB 会広報担当 松本 裕士（昭和 62 年卒）

令和 6 年（2024 年）9 月 24 日から 11 月 17 日まで同志社創立 150 周年記念行事の一環として、ハリス理化学館同志社ギャラリー第 32 回「合唱の同志社 - One Purpose DOSHISHA 合唱が紡ぐ 150 年 現在～過去～未来」が開催されました。多くの OB 諸兄も足を運ばれたことと思います。

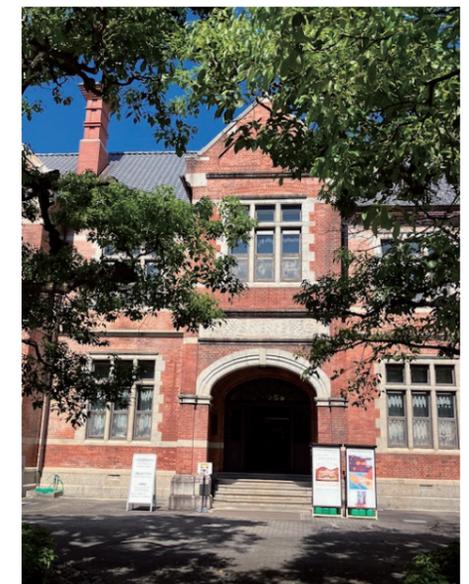
学校法人同志社傘下の小学校から大学、OB まで約 20 の団体から、予想を上回る 252 点の出品があり、途中で入れ替え展示を行うほど多数の展示物が集められました。パンフやチラシ、楽譜、写真という平べったいものがやはり多かったですが、トロフィーやバインダー、T-シャツ、バッジなど各団の思い出が詰まった出品物が展示されました。併せて立派な図録まで発行されました。図録は「創立 150 周年全同志社合唱祭」参加者には配布され大変いい記念になりました。

同志社グリークラブ OB 会としては現存する最古の演奏会のパンフ（創立 35 周年記念演奏会・1939 年）、最古の周年誌（30 周年記念号・1934 年）をはじめ、初のコンクール全国制覇の優勝トロフィー（第 10 回全日本合唱コンクール・1957 年）、アーモスト大学とのジョイントコンサートのパンフ（1983 年、同志社大学はアーモスト大学との親交を大事にしているとのことで社史センターから所望されました。）、宮本光夫氏旧蔵アルバム（1929 年から 1938 年）、ポスター 4 枚（1965 年頃）などなど 16 点出品致しました。どれも歴史的価値があるものです。本当に貴重な機会を与えていただいたと思います。

同志社グリークラブ OB 会の窓口としては前会長の森島敏夫氏が折衝して下さりました。またこの企画展全体を同志社社史資料センター社史資料調査員小枝弘和氏がまとめてくださいました、図録の編集も小枝氏です。両氏に感謝いたします。ありがとうございました。



期間中販売された図録



ハリス理化学館

# 同志社 グリークラブ 創立 120 周年

## 同志社グリークラブ創立 120 周年 記念礼拝・式典 — 三苦の1ミリ、木谷の10分 —



大下 信雄（昭和 56 年卒）

### どこでやる？

私たちはそこからスタートしました。いつもの新島会館は改修で使えません、同志社らしいところと言えば…昔定演もやっていた大人数収容の栄光館、絵になりブライダルでも大人気のクラーク館、コンサート気分でハーディーホール、対面式とかでもなじみがある神学館礼拝堂、みなさまと検討をかさね、最終的に、重要文化財に指定され、歴史の重みと風格、同志社らしさと趣、全てを満喫できる、同志社礼拝堂（チャペル）での開催が決定しました。



### いつ開催する？

これにも、様々な観点から意見をいただきました。2024 年は、ホームカミングデー、全同志社合唱祭、メサイヤ、現役はコンクール、同志社もクリスマスに向けてのイベント等あわただしく、結局、現役の東京演奏会の翌週、そして京都演奏会の前日となる 2025 年 2 月 22 日（土）に決定しました。定演の合間に現役とともに、120 周年の喜びを分かち合う最高潮の波に乗るぞ！という感じです。

### いよいよ本番！

今年は 2 月に大寒波が連続して到来という不安定な天候でしたが、当日は天候にも恵まれ（？）

とまでは言えないものの、粉雪が舞い、寒風ちょっと吹きすさむ京の冬の情緒を感じさせるなかでの開催となりました。

一方チャペル内は、90 歳から 20 代までの OB の方々と現役、来賓の方々合わせ 150 名が集い熱気につつまれるなか、お父様もご祖父様も同志社グリーで活躍された大代恵さんのオルガン奏楽がはじまり、会場の空気はピンと張りつめました。昭和 57 年卒 木谷誠牧師の司式のもと式典は進みます。同志社グリーの源流に迫った岸基史顧問の挨拶、残念ながら校務でご臨席頂けなかった同志社大学 小原学長の祝辞（代読）に続き、ご来賓代表として祝辞をいただいた早稲田大学グリークラブの佐々木豊会長は、ともに福永陽一郎先生の指導を受け良きライバルとして切磋琢磨した思い出を、おごそかななかにも笑いを誘う軽妙なトークで心が和むものでした。コンクールで全国大会金賞、そして集大成の翌日の京都演奏会を控えた現役の油ののった記念演奏には、どこからともなく感動のため息が漏れ聞こえて来ました。そして圧巻は、木谷誠牧師の祝辞です、業者を入れたライブ配信のなか盛りだくさんのプログラムとなり、



（写真提供：同志社社史資料センター）

数日前に時間を大幅に短縮して 10 分で納めるようめっちゃぶりの依頼をしてしまい、さすがの牧師も虚をつかれ当惑されたかと思います。ところがどっこい、音楽と仲間に対する愛と神の愛をメインテーマに凝縮した心に響くメッセージを 10 分ジャストに納めるという離れ業、素晴らしい祝辞でした。三苦の 1 ミリ、木谷の 10 分は

後世に語り継がれることと思います。

最後に、重文の同志社礼拝堂の様々な制約のなか大学側との折衝、準備等に奔走して下さった、学内関係者の、谷本啓（平成 6 年卒）、鹿野博志（平成 3 年卒）の両 OB の並々ならお働きには心より感謝するものです。

## 同志社グリークラブ 120 周年記念演奏会

### 同志社グリークラブ 第 121 期幹事長 半田 翼

この度は、「同志社グリークラブ 120 周年記念演奏会」へお越しいただき、誠にありがとうございました。

演奏会は 2 月 11 日（火）に東京都の紀尾井ホール、そして 2 月 23 日（日）に京都コンサートホールで 2 度公演し、両日合わせて実に約 2,000 名を超える聴衆の皆様にご来場いただきました。

同志社グリークラブ 120 年の重みと誇りを感じながらの OB の皆様との合同演奏では今までにない感動が込み上げ、この感動こそが同志社グリークラブの伝統を支える原点なのだと改めて認識した瞬間となりました。

120 年という節目にこのような多くの方々私たちの演奏を届けることができたことを大変嬉しく思います。

昨年度の一年を振り返りますと、「怒涛の一年」といっても過言ではないほど様々な出来事がありました。関学がホストとなり大阪で開催した第 73 回東西四大学合唱演奏会、関西で金賞 1 位、そして全国で金賞 3 位を獲得した全国合唱コンクール。さらに、同志社創立 150 周

年を記念した全同志社合唱祭、山下一史先生の指揮の下で完全復活した第 57 回全同志社メサイヤ演奏会など、本当に濃厚な一年間でした。その中で、「聴衆と一体となった音楽とは何か」と向き合い続けたことで、技術の向上にとどまらず、一つの音楽を共に創り出した仲間との一体感を得ることができたことが何にも替え難い成果だったと感じております。特に、さまざまな困難の中でいつも後輩を引っ張ってくださった 5 人の 120 期の先輩方のご尽力、そして、現役の活動を常に支え続けてくださった OB の皆様のご協力がなければ成せなかったことばかりでした。誠にありがとうございました。

最後になりますが、120 周年記念演奏会の開催にあたり、多大なるご指導、ご尽力を賜りました諸先生方、OB 会の皆様、関係者の方々、そしていつも応援して下さる皆様に厚く御礼申し上げます。さらなる同志社グリークラブの飛躍のため、引き続き 121 期も邁進してまいります。



東京公演・紀尾井ホール



京都公演・京都コンサートホール

【特別寄稿】

# 「ワンパーパス」に つながる大切な人たち

～片桐哲先生、ヴォーリスさん、グリークラブ～



元同志社女子大学長・  
同志社女子大学名誉教授  
児玉 実英

この度は、創部 120 周年記念誌の発刊、誠に  
おめでとうございます。謹んでお祝い申し上げます。

最近、グリークラブの歴史を見る機会がありまし  
た。話はさかのぼりますが、1950 年秋、日比谷公  
会堂で開催された第 3 回全国合唱コンクール大学の  
部で、同志社グリークラブが第 1 位に選ばれた、と  
いう記事が目にとまりました。〔『創部 80 周年記念  
誌』1986 年、p.62-63〕

日下部吉彦氏指揮で、コルネリウスの「レクイエム」  
をうたい、優勝カップをもって帰ったとのこと。そ  
の数日後、クラーク館の前で撮ったという記念写真  
をじっと見ていると、そこに並んでいる片桐哲先生、  
森本芳雄先生はじめ、グリーの皆さんの背後から、「ワ  
ンパーパス」の元気な声が、聞こえてくるようです。

創部 50 年の 1954 年にも、また優勝。1957  
年にはグリークラブとクローバークラブが、全国合  
唱コンクールで、学生の部と一般の部で満票第 1 位  
のダブル受賞。(同書 p.92-95) かねがね渋谷昭彦  
先生や小貫岩夫さんから伺っていましたが、グリー  
は輝かしい歴史をもつクラブだということが、改め  
てよくわかりました。

そのさなか、1952 年 2 月 5 日、同志社カレッ  
ジソングの作詩者で同志社の「社友」に選ばれてい  
たウィリアム・メレル・ヴォーリスが語ったことばが、  
『同志社タイムズ』に残されています。ときどき引用

されたり借用されたりしていますが、この彼のこと  
ばは、あまり広く知られてないようですので、部分  
的ですが、紹介しておきます。

…曲は最も青年らしく、元気に満ち満ちたカール・  
ウヰルヘルム作の“ラインの守り”を用いました。  
…今日大学のチャペルアワーでグリークラブがこれ  
を合唱してくれましたが、実に上手でした。こんな  
に上手に唱われているのを聴いてうれしいです。〔『同  
志社タイムズ』1952 年 2 月号、p.2〕

この記述の「文責」執筆者 R. T. つまり田中良一  
氏は続いて、その場にいた「グリークラブの創立者」  
である片桐哲女子大学長のことばを記しています。

私共が学生のころ、ギュリック先生がエール大学  
の校歌集をくださった。それで同志社にもカレッジ  
ソングがほしいと要望したところからヴォーリス先  
生にお頼みになることになった。(同紙、p.2)

片桐哲同志社女子大学第 2 代学長は、ご承知のこ  
とと思いますが、神学者でもありグリークラブで初  
代指揮者でもありました。ヴォーリスさんは、ご存  
知のように、伝道活動家、建築家、教育者、経営者  
として有名ですが、詩人でもあり、また音楽にも大

変造詣が深く、オルガニストでもあり賛美歌の作詞  
作曲家でもありました。彼の伝記によると、彼はメ  
ンデルスゾーンをこよなく愛し、また高木五郎君と  
いう「若いバイオリニスト」といっしょにピアノ伴  
奏を楽しんだ、とのこと。東京と大阪にあった  
「兄弟社の事業部」ではアメリカからピアノを輸入、  
販売していました。「事務所時間がすむと、バイオリ  
ンとピアノで楽しい時間を過ごした」というのです。  
(『失敗者の自叙伝』、p.12-13、305-09)

「ワンパーパス」を最初に歌った合唱グループの  
後輩たちが、半世紀後、全国合唱コンクールで優勝  
した黄金時代、チャペルアワーで同志社カレッジソ  
ングを歌った。その作詞者であり音楽のよくわかる  
ヴォーリスさんがその場にいてそれを聞き、「こんな  
に上手に唱われているのを聞いて嬉しいです」と喜  
んだ。そしてさらに、そこには、カレッジソングが  
できるきっかけを作った片桐哲グリークラブ創立者  
がいあわせた。(その日の一連の行事の流れから考え  
て、その可能性は大です。)とすると、これはまるで  
一幅の絵のような光景。「ワンパーパス」の作成にか  
かわった 2 人と、初演にかかわった合唱グループの  
後輩が一堂に会したわけですから。特筆に値する歴  
史のひとつ、と言えるでしょう。

その昔、私は NHK 京都放送局の「放送合唱団」  
の伴奏をしていたことがあります。合唱の楽しさや  
練習の厳しさは、よくわかっています。偶儻不羈<sup>※</sup>の  
精神で、グリーの新しい歴史を創っていきたくだ  
さい。応援しています。

<sup>てきとうふき</sup>  
※ 偶儻不羈…才気がすぐれ、独立心が旺盛で、常  
軌では律しがたいことを意味する。同志社建学  
の精神。

● 「同志社 150 周年記念事業」を検索し「同志社  
カレッジ・ソング、解説」をクリックすると児玉  
実英氏の新しい「ワンパーパス」の解説が見られ  
ます。



「片桐父子顕彰碑」  
奥州市水沢  
片桐清治 (1856-1928)  
片桐 哲 (1888-1982)  
2025 年 2 月 23 日 筆者撮影

Doshisha College Song	対訳 同志社 校歌
<p>1. One purpose, Doshisha, thy name Doth signify one lofty aim; To train thy sons in heart and hand To live for God and Native Land. Dear Alma Mater, sons of thine Shall be as branches to the vine; Th' through the world we wander far and wide, Still in our hearts thy precepts shall abide!</p>	<p>1. 同志社よ、その名は一つの目的を意味する。 その学級の精神的、肉体的に、 務めのため、祖国のため、生んたという 一つの崇高目的を。 親愛なる母校よ、同志社の生徒は、 主なる神のごとくつながりゆくことであらう。 たとえ、世界をめぐり、広くはるかに、 われらさまようとも、汝の教訓は、 われわれの心に永遠に生き続けることであらう。</p>
<p>2. We came to Doshisha to find The broader culture of the mind; We tarried here to learn anew The value of a purpose true; Dear Alma Mater, ours the part To face the future staunch of heart. Since thou hast taught us with high aim to stand For God, for Doshisha, and Native Land!</p>	<p>2. われわれが同志社にきたのは、 心のより広き種を求めてだ。 われわれは、真の目的の探求を、 新たな意味において学ぼうとし、 ここよみとどまっていたのだ。 親愛なる母校よ、われわれのつとめは、 堅心をもって、未来に立ち向かうことである。 なぜなら同志社は、 神のため、同志社のため、また祖国のために 役立てよと、高い目的をもって われわれに教えてきたからである。</p>
<p>3. When war clouds bring their dark alarms, Ten thousand patriots rush to arms, But we would through long years of peace Our Country's name and fame increase. Dear Alma Mater, sons of thine Will hold their lives a trust divine Steadfast in purpose we will ever stand For God, for Doshisha, and Native Land!</p>	<p>3. 戦争がその険悪な動向を示すとき、 いく万の愛国者は、武器をもってはせ参する。 しかし、われわれは、 久しぶりになる平和の年月のうちに 祖国の名と名声を、いやましにしたいと願う。 親愛なる母校よ、その生徒は、その生涯を、 いつまでも神への信頼に掛けるであらう。 確固不動の目的をもって、われわれは たゞ神のため、同志社のため、 また祖国のために、立ちとうするものである。</p>
<p>4. Still broader than our land of birth, We've learned the oneness of our Earth; Still higher than self-love we find The love and service of mankind. Dear Alma Mater, sons of thine Would strive to live the life divine; That we may with increasing years have stood For God, for Doshisha, and Brotherhood!</p>	<p>4. われわれが生まれた国よりも さらに広い世界といえども、 それは一つであることを、われわれは学んだ。 自己愛より高い愛の人類愛と、神性の精神を われわれは学んだ。 親愛なる母校よ、その生徒は 聖なる生涯を歩んがため、働もうとしている。 業中や年とともに、 神のため、同志社のため、同胞のため、 かえりみて無いからんがため。</p>

同志社歌集より

第54回 2005年6月26日/昭和女子大学 人見記念講堂

同志社単独

「エストニアからの便り」  
作曲：V.Tormis  
指揮：伊東 恵司  
独唱：浅野 純加  
パーカッション：関口 百合子

合同ステージ

「レクイエム」  
作曲：三木 稔  
指揮：北村 協一  
独唱：井原 秀人  
ピアノ：久邇 之宜



第59回 2010年6月28日/京都コンサートホール

同志社単独

「祈りの風景（現代宗教曲から）」  
指揮：伊東 恵司

合同ステージ

「天使のいる構図」  
作詩：谷川 俊太郎  
作曲：松本 望  
指揮：伊東 恵司



第55回 2006年6月25日/京都コンサートホール



同志社単独

「いつからか野にたつて」  
作詩：高見 順  
作曲：木下 牧子  
指揮：中村 雅夫

合同ステージ

「饗宴の歌」  
(アメリカ・インディアンの口承詩)  
訳詩：金関 寿夫  
作曲：信長 貴富

第60回 2011年7月3日/昭和女子大学 人見記念講堂

同志社単独

「永訣の朝」  
作詩：宮澤 賢治  
作曲：西村 朗  
指揮：伊東 恵司  
ピアノ：萩原 吉樹

合同ステージ

「第九より 第四楽章」  
作曲：L.V.Beethoven  
編曲：轟 千尋  
指揮：小久保 大輔  
早稲田大学交響楽団



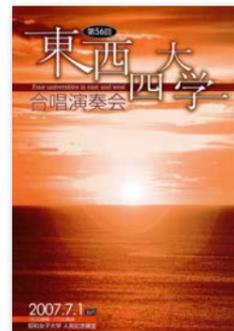
第56回 2007年7月1日/昭和女子大学 人見記念講堂

同志社単独

「トルミス男声合唱曲」  
作曲：V.Tormis  
指揮：伊東 恵司

合同ステージ

「ゆうやけの歌」  
作詩：川崎 洋  
作曲：湯山 昭  
指揮：高嶋 昌二  
ピアノ：前田 勝則



第61回 2012年7月1日/武庫川女子大学 公江記念講堂

同志社単独

「感傷的な二つの奏鳴曲」  
作詩：金子 光晴  
作曲：高嶋 みどり  
指揮：伊東 恵司  
ピアノ：萩原 吉樹

合同ステージ

「“WICKED” Choral Highlights」  
作詩・作曲：S.Schwartz  
編曲：下蘭 大樹 他  
指揮：広瀬 康夫  
ピアノ：細見 真理子・市川 奈巳



第57回 2008年6月29日/NHK 大阪ホール



同志社単独

「エストニアへの旅」  
作曲：V.Tormis  
指揮：伊東 恵司

合同ステージ

「Sound of Hope -African・American Spirituals-」  
指揮：広瀬 康夫

第62回 2013年6月30日/すみだトリフォニーホール

同志社単独

「風に鳴る笛」  
作詩：谷川 俊太郎  
作曲：高嶋 みどり  
指揮：伊東 恵司  
ピアノ：萩原 吉樹

合同ステージ

「おらしょ(カクレキリシタン3つの歌)」  
作曲：千原 英喜  
指揮：辻 博之



第58回 2009年7月5日/昭和女子大学 人見記念講堂

同志社単独

「北欧の風景」  
作曲：L.Madetoja 他  
指揮：伊東 恵司

合同ステージ

「合唱のためのコンポジション Ⅲ」  
作曲：間宮 芳生  
指揮：佐藤 正浩



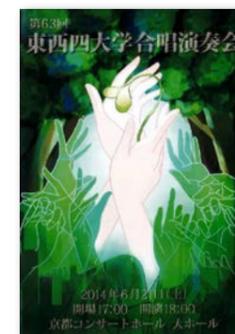
第63回 2014年6月21日/京都コンサートホール

同志社単独

「遊星ひとつ」  
作詩：木島 始  
作曲：三善 晃  
指揮：伊東 恵司  
ピアノ：萩原 吉樹・平林 知子

合同ステージ

「まだ見ぬあなたへ」  
作詩：みなづき みのり  
作曲：北川 昇  
指揮：伊東 恵司  
ピアノ：水戸 見弥子



第64回 2015年6月28日／すみだトリフォニーホール

同志社単独

「ラプソディー・イン・チカマツ」  
作詩：近松 門左衛門  
作曲：千原 英喜  
指揮：伊東 恵司

合同ステージ

「達治と濤聲」  
作詩：三好 達治  
作曲：多田 武彦  
指揮：山脇 卓也



第65回 2016年6月26日／兵庫県立芸術文化センター

同志社単独

「三つの時刻」  
作詩：丸山 薫、作曲：三善 晃  
「路標の歌」  
作詩：木島 始、作曲：三善 晃  
指揮：伊東 恵司  
ピアノ：萩原 吉樹

合同ステージ

「A Beatles Celebration」  
指揮：広瀬 康夫

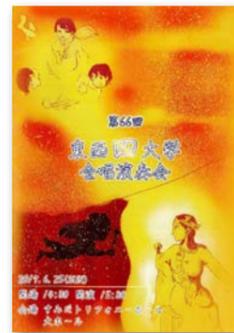
第66回 2017年6月25日／すみだトリフォニーホール

同志社単独

「Missa Mater Patris」  
作曲：Josquin des Prez  
編曲：Eliot Forbes  
指揮：伊東 恵司

合同ステージ

「唱歌の四季」  
編曲：三善 晃  
指揮：佐藤 正浩  
ピアノ：前田 勝則・細見 真理子



第67回 2018年6月24日／京都コンサートホール

同志社単独

「帆を上げよ、高く」  
作詩：みなづき みのり  
作曲：信長 貴富  
指揮：伊東 恵司  
ピアノ：萩原 吉樹

合同ステージ

「エスノ・ラップ・ミサ Ethno-Rap-Mass」  
作詩：みなづき みのり  
作曲：信長 貴富、指揮：伊東 恵司  
パーカッション：樽井 美咲・高田 汐莉  
ナレーター：小貫 岩夫

第68回 2019年6月22日／すみだトリフォニーホール

同志社単独

「回風歌」  
作詩：木島 始  
作曲：松本 望  
指揮：伊東 恵司  
ピアノ：水戸 見弥子

合同ステージ

「IN TERRA PAX 地に平和」  
作詩：鶴見 正夫  
作曲：萩久保 和明  
指揮：萩久保 和明  
ピアノ：中島 剛



第69回 2020年6月28日／兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

同志社単独

「月下の一群 第1集」  
原詩：ポール・ヴェルレーヌ  
訳詩：堀口 大學 作曲：南 弘明  
指揮：伊東 恵司  
ピアノ：水戸 見弥子

合同ステージ

「BARBERSHOP SHOWTIME！」  
指揮：広瀬 康夫

上記曲目を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止

第70回 2021年6月20日

新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止



第71回 2022年6月26日／京都コンサートホール

同志社単独

「コダーイ男声合唱曲集」  
作曲：Kodály Zoltán  
指揮：伊東 恵司

合同ステージ

「月光とピエロ」  
作詩：堀口 大學  
作曲：清水 脩  
指揮：伊東 恵司

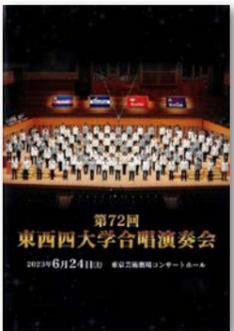
第72回 2023年6月24日／東京芸術劇場コンサートホール

同志社単独

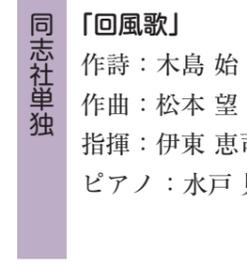
「東欧の響き～東ヨーロッパ男声合唱曲集」  
作曲：E.Suchoň 他  
指揮：伊東 恵司  
トランペット：松原 一樹  
パーカッション：樽井 美咲

合同ステージ

「終わりのない歌」  
作詞：銀色 夏生  
作曲：上田 真樹  
指揮：高谷 光信  
ピアノ：渡辺 研一郎



第68回 2019年6月22日／すみだトリフォニーホール



第73回 2024年6月29日／ザ・シンフォニーホール

同志社単独

「トルミス男声合唱曲集」  
作曲：V.Tormis  
指揮：伊東 恵司  
ソプラノ：吉川 真澄

合同ステージ

「GOSPEL & SPIRITUAL」  
指揮：広瀬 康夫

## コンクール復帰と その意味

技術顧問 伊東恵司  
(平成2年卒)



本誌 P.3～6「同志社グリークラブの20年を振り返る」と合わせてごらんいただければと思います。

かつてコンクールに出ていた時代があり、その後「競い合うことが音楽の本質ではない」とする時代があったと思います。「コンクールは卒業したんだ」という言葉は、ある時期においては「それよりも音楽の本質と向き合いたい」という意味で使われていたのだと思いますし、実際問題として、箱根駅伝同様、「東西四連のレベルと注目度のほうが明らかにコンクール全国大会の大学部門よりも高い」という時代（私の学生時代もそうでした）がありましたので、むしろその時代にはコンクールに出場することにはまったく意義はないと考えていたのだと思います。それは、大学合唱団の数そのものが多く、定期演奏会にしても、東西四連にしても、大きな努力をせずとも満員（主に女子大生で埋まる）が約束されていた時代であり、そこで輝くことこそが大切だったのだと思います。

しかしながら、100周年前後からの時代は、必ずしもそうではありません。巻頭で申し上げた通り、大学カルチャーも多様化し、少人数アカペラ

やダンスユニット等の隆盛に押されて、特に大学合唱そのものの人口が激減してもおりましたし、東西四連もかつてほど集客が出来ず全体的なレベルも注目度も低下していた時期でもありました。同志社グリークラブも人数が増えないまま、定期演奏会の集客も少なく、また、そのようなことに慣れないので、かつてのような高邁な目標やモチベーションの設定と現実とのギャップに戸惑ってしまうような場面が増えてきていたのだと思います。その状況の中で、学生の方からコンクールへの「チャレンジ」の提案、指揮の要請が来たというわけです。ある意味で、自分たちの現在を見つめ直し「自分たち自身のレベルがそこまで高くないから高めないといけない」という意識を持ったのだと思いますが、これはとても勇気のある判断だったと思います。結果の出るコンクールでもありますし、周囲からは老舗としてのレベルを試されるということもあり、とてもプレッシャーがかかったと思います。

私自身は、すでに合唱指揮者として一般団体で何度も全国大会も経験しており、合唱界を俯瞰出来る立場にもおりましたので、彼らの決断がちょっとした思い付きではなく、厳しい状況を打

破し、クラブを覚醒させるためのものであったと理解出来ました。（その前年に関西学院大学グリークラブがコンクールに電撃復帰していたということも影響したと思います）

当たって砕けろ、という気持ちを煽って出たコンクールですが、私や幹部は実際には、当時のレギュレーションにより人数の少ないAブロックから（関西大会の）1枠を得るという状態で、そのブロックに突出して有力なライバルが存在しないこと、関西学院はBブロックで出場していることも確認したうえで、必ず結果が出るよう万全の選曲（得意曲であるトルミスの「大波の魔術」）をして備えたと思います。それでも当時の学生にとっては初体験でプレッシャーの掛る中、関西大会は満票で全国大会出場を決めました。今から思うと、ブロック別でしたので一番金

賞に近い状況であったとは思いますが、残念ながら全国大会では銀賞に留まりました。しかし、それから（翌年は出場を見合わせたのですが）この学年の気持ちを汲んだ後輩たちがコンクールを「チャレンジの場として」連続出場し、毎年奮闘してくれています。

コンクール出場の経験のない世代からはなかなか仕組みや状況を含めてその位置づけが分かりにくいところだと思いますが、やはり、どの年代も最終的に音楽は争いではないという点はぶれていません。自分たちの演奏が目先の効果や審査員の好みに振り回されるものであってもなりません。

他方、地方の国公立大学には教育学部に音楽科を含んだ大学もあり（声楽専攻を含む大学合唱団もある）、その中で初心者の多い男声合唱団が成果を残すということは、それなりにチャレンジしがいのある険しい道のりでもあるわけです。

長い道のりを経て120周年に合わせるかのように全国大会金賞が獲れたことは、大変ありがたい嬉しいことではありましたが、その年だけが突出して良かったということでもありません。もっと人数が多く四連で頭一つ抜けていた時代もありま



したし、全ての大学合唱団が出場していてもなくレギュレーションの変遷もあります。むしろ、前述のように毎年の全力投球がそこ（120周年）に繋がったと捉えるべきでしょう。学年

を越えて継続してきた努力がどこかで実を結ぶ、という意味では大変励みなる出来事だったと言えべきでしょう。私は最初から首尾一過して「最高の演奏を目指す、結果に一喜一憂し過ぎるべきではない」と考えていますし、どの時代の学生たちもコンクールへのプロセスを「努力するための目標」として活用し、その成果や反省を自分たちの成長に結びつけ、より豊かな定期演奏会になるように生かしている、というふうにご理解いただければと思います。

## 2007年全国合唱コンクールへの出場

石田 大士（平成20年卒）

「今が決断の時だ。」そう思ったのは4回生だった。（以下、私の記憶があいまいな部分もあるため、少しの脚色は御容赦いただければ幸いである。）入団当時、同グりは約50年間コンクールに出場していなかった。そこには、音楽とは金や銀という「色」で評価されるものではなく、そのようなところに与さないことが矜持であるというどこか伝統的な認識があり、私自身もこれに何の疑念も抱かなかった（100回定演でのOB諸兄を含めた演奏がまさにその証たる音楽であった。）。

違和感を持ったのは2回生、初めての東西四連。同志社グリークラブは史上最低人数（19人だったと記憶している）。ライバルたちが多勢・ホールを音圧で鳴らす中（それでも最盛期より少ない人数、自分の知っているいわゆる「四連」の音ではない）、

我々は技術顧問の伊東さんによる丁寧なアンサンブルとハーモニーで闘った。他団には出せない、纏まった良い音だったが、私自身は正直悔しかった。私が知る同グりの四連はこんなモノではなかった。ただ、当時のリソースではこれが最良であった。

この時は日々悶々としていた。同グりが今後音楽を奏で続けるだけではなく、更なる躍進を遂げていくためには、何が足りなくて何が必要か。それはもちろん「声」であり、「人数」である。声は血のにじむ努力をすれば良いが、人数はとにかく部員を増やすしかない。そのためにはどうすればいいか。明確な答えはすぐには出せなかった。

3回生の時、関学グリーがコンクールに復帰し、全国大会で成績を残した。金賞。同グリーとは部員を抱え込む構造が根本的に違うとはいえ、それで

も界限に実力を知らしめ、心ある後進に「関学で歌いたい」と思わせるには、強烈なインパクトだっただろう。ライバルの飛躍に強烈なめまいと嫉妬を覚えた。同時に、この時ぼんやりと、これからの同グリーのバトンを後輩たちに繋いでいくために新たな道を示そう、すなわち劇薬かも知れないが、我々もあそこに辿り着こう、そう思った。

4回生の春、OB諸兄の大変な御助力を頂戴したことで新歓は近年に見ない成功をおさめ、部員は40名ほどまで回復した。環境は整った、コンクールに出るなら今しかない、強い思いを持って伊東さんに直談判した。これまでの同グリーの矜持を十二分に御承知の伊東さんには、如何に苦しいお願いであつたらうと今になっては思うが、我々の思いを汲んでくださり、出場を了承いただいた。

勝つための練習が続く。後にも先にもあいつた練習は二度とごめんだと思えるほど辛かったが、だからこそ声も気持ちも強く鍛えられた。

結果、関西大会では満場一致の金賞、浅井敬壹先生の言葉をお借りするなら「爆発的な喜び」であった。その後の全国大会では銀賞に留まったが、それでも全国の舞台に後輩たちを連れてこられたことに、大きな意義を感じた。

決してコンクールに出場することが目的だったのではなく、後輩たちへバトンをつなぎ、同グリーが男声合唱の雄として未来永劫輝くために必要な起爆剤・プロセスであったと思っている。以降、間を開けた代もあったが、後輩たちはコンクールに挑み続け、先般金賞を掴んでくれた。ここまでの道のりは並大抵の努力では進めなかっただろうと畏敬の念を抱くとともに、あの時の我々の決断は間違っていなかったと、これを書きながら再確認しているところである。

当時の決断を支えてくれたOB諸兄をはじめ、伊東さん、同期、後輩達に、この場を借りて改めて感謝申し上げ、筆を置きたい。

関西合唱コンクール				全日本合唱コンクール			
回	開催日	会場	結果	回	開催日	会場	結果
第62回	2007年10月 8日	東りいたみホール	金賞（全国大会へ出場）	第60回	2007年11月10日	東京文化会館大ホール	銀賞
第63回	2008年10月13日		不出場	第61回			
第64回	2009年10月12日		金賞（全国大会へ出場）	第62回	2009年11月22日	札幌コンサートホールKitara	銀賞
第65回	2010年10月11日		金賞	第63回			
第66回	2011年10月10日		金賞（全国大会へ出場）	第64回	2011年11月19日	青森市文化会館大ホール	銀賞
第67回	2012年10月 8日		金賞（全国大会へ出場）	第65回	2012年11月24日	富山市芸術文化ホール	銀賞
第68回	2013年10月13日		金賞（全国大会へ出場）	第66回	2011年11月21日	千葉県文化会館	銀賞
第69回	2014年10月12日		金賞	第67回			
第70回	2015年10月11日		金賞	第68回			
第71回	2016年10月 9日		金賞	第69回			
第72回	2017年10月 8日		金賞（全国大会へ出場）	第70回	2017年11月25日	東京芸術劇場大ホール	銅賞
第73回	2018年10月 7日		金賞	第71回			
第74回	2019年10月13日		金賞（全国大会へ出場）	第72回	2019年11月23日	ロームシアター京都	銀賞
第75回	2020年10月		新型コロナウイルス感染拡大により中止	第73回			
第76回	2021年10月10日		金賞	第74回			
第77回	2022年10月 9日		金賞	第75回			
第78回	2023年10月 8日		銀賞	第76回			
第79回	2024年10月13日		金賞（全国大会へ出場） 全日本合唱連盟理事長賞	第77回	2024年11月23日	愛媛県立文化会館	金賞 日本放送協会賞

■はじめに

OB 会の目的は、会則第 3 条を引用すると、「本会は、同志社グリーンクラブの諸活動を支援するとともに、会員相互の親睦をはかることを目的とする。」であります。ともすれば卒団後散りがちな OB 会員を一つにし、同志社グリーンクラブの過去・現在・未来へ橋渡しつつ、同志社グリーンクラブが存続し続けるために不可欠な組織であります。とは言え、OB 会の組織を継続し、現役の諸活動を支え続けるためには、全 OB 会員で共有したい現状と、「ありたい姿」になるために乗り越えるべき課題がありますので、少し、述べてみたいと思います。

■「OB 会」による現役の諸活動支援

今出川キャンパスに加え、1986 年京田辺キャンパス開学以降、当初は下回生と上回生、現在は理系と文系と分かれた学生生活を送っているため、現役メンバーは、「2 拠点」を前提とした練習、クラブ運営を 40 年余り工夫しながら継続しています。この間の技術的な指導は伊東顧問が中心となりますが、OB 会は経済的な支援、運営面での支援を継続しています。

現役支援する上で理解しなければいけないことは、昭和・平成世代とは、大きく異なる価値観や、彼らの優先順位（勉強中心の学生生活、バイト、その次にクラブ活動）をまず理解し、尊重すること。また時代そのものが、比較的同質性が重視された時代から、多様性が尊重される時代へ変化していることです。彼らの価値観や取巻く環境を理解し、「寄り添って、一緒に考える・共感する」ことが出来なければ、何も始まりません。

2 拠点化に加え、前後の学年の増減によりメンバー数の極端に不安定になったり、3 年半にわたるコロナ禍でメンバー間のコミュニケーションが薄まったりと、様々な背景で運営マネジメントが、うまく継承されない状態が続いています。特に執

行学年（4 回生）が 10 名を割ると、一人 3 役（例：幹事長とパートリーダーと渉外を兼務）というのが現実で、細やかなマネジメント経験が実現できず下回生に引き継がれるので、結果、更に薄まって継承される傾向にあります。

通常は、四連、夏のジョイント、コンクール、メサイア、定期演奏会という年間活動ですが、メンバーの増減が多いと、それを支える収入が変動します。部費や演奏会ノルマの回収出来たとして、収入の変動を補完するには、「お座敷を増やす」「客席数が少ないホールに変更する」等を実施する必要があります。所謂「身の丈にあった」クラブ運営の重要性をこの数年、現役執行部メンバーには説明しています。

「身の丈にあった」クラブ運営でないことが、部費やノルマが払えないメンバーを生み、累積して卒業時に滞納金があるメンバーが生まれる。そのことが長期化することでグリーンクラブや、OB 会から離れてしまう OB 会員を生む風土は、現役・OB 会活動にとって、「最も不健康」なことだと考えます。そうならない為に、経常会計・演奏会会計の収支状況をメンバーにオープンにし、会計担当者と滞納者だけが悩むのではなく、メンバー全員が「運営状態を理解して行動する」ことができるしくみや風土が定着するよう、支援を行なっています。

他方、LINE（ライン）が部員間のコミュニケーション・連絡ツールとして標準化され、Slack（スラック）というビジネスチャットツールで、マネージャー間の業務進捗が共有され、主催する演奏会のチラシ・パンフを Illustrator（イラストレーター）というグラフィックデザインソフトを使ってメンバーで制作・編集・デザインするなど、IT を使った業務効率化は、OB が支援するまでもなく、どんどん進化しています。

少人数だからこそ、効率的にマネジメントは重要ですが、昭和・平成時代の OB 会員の多くが経

験した、練習前後の空き時間、飲み会、下宿等での、同期・先輩後輩の「一見、非効率に見えるおしゃべり」の中で語られた、「クラブ活動目的の共有」「価値の継承」「帰属意識の醸成」「責任感の伝播」といったものが、現役メンバーの中でうまく醸成されていないように感じます。構造的・心理的に機能しない要因を探り、それを少しでも取り除き、脆弱な部分を補完することを主眼に、現役担当運営理事中心に、30 代前後の若手の OB 会員の知恵も借りながら、現役執行部メンバーとの対話を通じて活動の支援を継続していきます。

■「OB 会」運営に関する現状と課題

OB 会は、言うまでも無く毎年グリーンクラブを卒団されたメンバーが会員となります。その運営の収入源は、卒団後 45 年間、納入する「年会費」と、卒団後 45 年目以降の方のご本人の意思に基づいて寄付される「運営寄付金」で構成されます。【図 1】に直近 10 年平均の収支と運営費用内訳を表しています。運営経費の 60% を広報費（OB 会員の皆さまに現役活動、OB 会員の活動を広報する費用）に充てています。会費を頂いた会員の皆さんに、その対価として、OB 会活動の「今」をホームページや、会報「グリーサルーン」を通じてお届けすることに力を入れています。また、収入の 20% を現役支援に充当しています。

しかしながら、年会費納入対象になる 1979 年～2024 年卒業生を「年会費の納入状況」を 5 年ごとに括って見てみると【図 2】、2 つの課題が見えてきます。

- ① 1994 年以降会員の年会費納入者が極端に低調になること。
- ② どの世代・学年とも、OB 会として所在が管理できていないメンバーがいること。

特に 2000 年～2018 年は、平均 30% 程度、所在不明者がいる状態です。この 2 つの課題を改善しな

図 1 OB 会 運営費用の概算イメージ

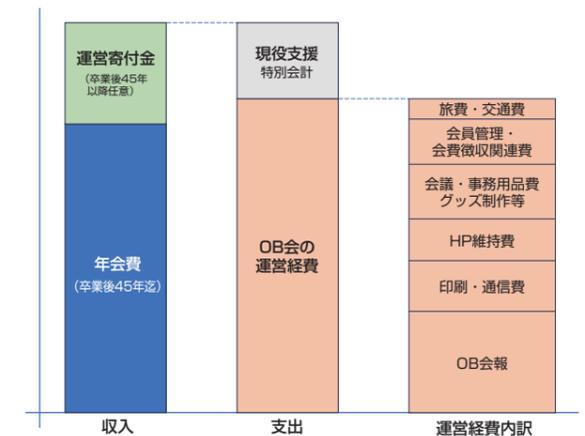
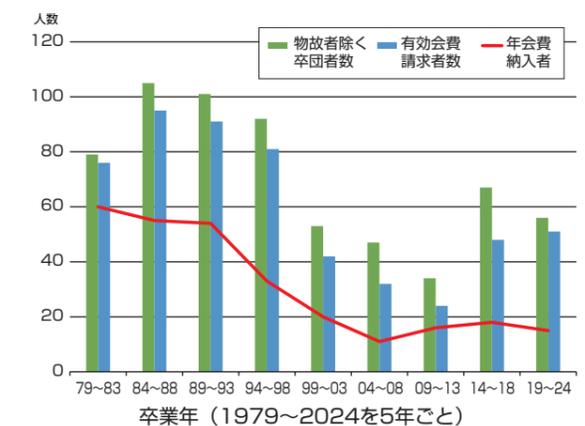


図 2 OB 会 年会費 世代別（5年ごと） 納入状況



ければ、OB会の活動そのものがシュリンクし、現役支援も不可能となる事は、明白です。ライフイベントや、転勤など会社生活の忙しさで、同期といえども互いの所在を把握するのが難しくなる年代であることは認識の上、学年理事や、前後の学年の皆さまの力を借りながら、若手会員に丁寧にアプローチし、OB会活動（現役支援活動）に理解を頂き、年会費収入の維持に努めていきたいと考えています。

## ■ 個人情報保護法遵守とコンプライアンス担当設置

OB会員の構成も、1955年卒を頭とすると所謂昭和卒業世代は、34学年。1989年卒を頭とした平成・令和卒業世代が37学年と、全体の半数を超えています。前述したように、この世代間では、「集団重視」から「個人尊重」へ価値観の転換が起っています。2017年に個人情報保護法が全面改正され、OB会等、非営利団体（同窓会、PTA、自治会、NPO法人など）も名簿管理や会員情報の活用において法令遵守が求められています。「紙名簿文化」に慣れている昭和卒業世代に対し、若年層はプライバシーへの感度が高く、情報提供に慎重といった兆候が顕著になった為、OB会も2022年1月に、「個人情報取扱方針とOB会員名簿発行方針」を制定、その後も会員名簿のあり方を理事会・総会で議論を重ね、2024年の総会で「情報漏洩リスクが高い、紙の会員名簿の廃止」を満場一致で決議しました。また、2023年の運営理事体制【図3】に、新たに「コンプライアンス担当」理事を設置、その知見を活かし、「透明性」「説明責任」「情報管理」を重視した活動を目指したいと考えています。

OB会を維持運営するためには、各学年理事の「同期メンバーの把握」をベースとした、OB会員管理の「利活用」と「保護」の両立が必要不可欠です。若手だけでなく、全OB会員が安心してOB会活動を継続できるよう、1,000名を超える個人情報を、

安全で、統一的なルールで管理・運用できるよう、運営理事会中心に検証・実施してゆきます。

## ■ サステナブルな「OB会」を目指して

グリークラブ創設者、片桐 哲先生が、「OB会設立によせて」次のような熱いメッセージを發しておられます。

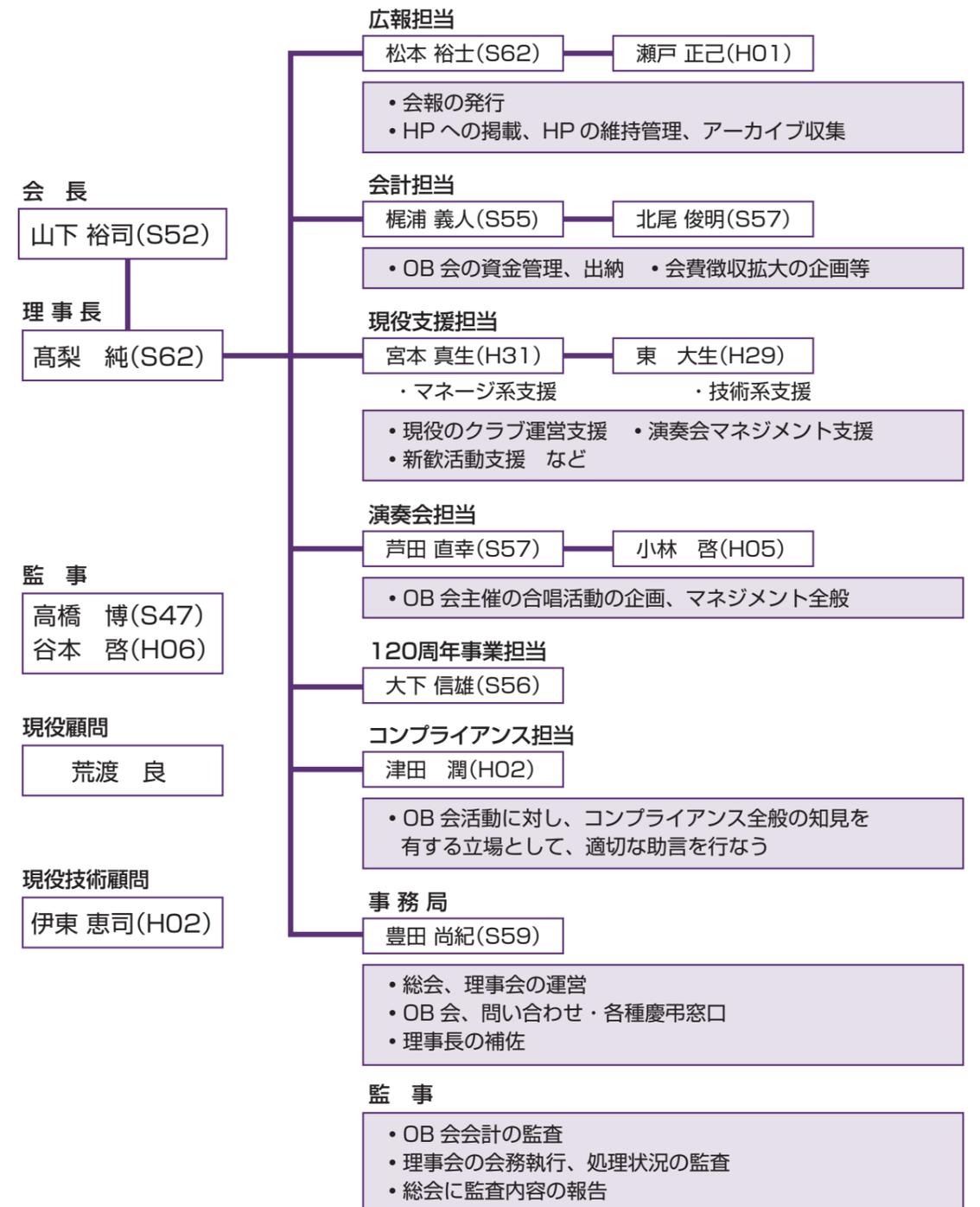
「(抜粋) …クラブ愛に溢れたメンバーが、協力一致団結して強固な団体を形成し相互の親交を益々深めると共に、後進のグリークラブを後援して之を強化し、後顧の憂なからしめ光栄ある将来を築く根底と致したい物である。」

私自身、現役時代に「創立80周年記念演奏会」や、「第2回ヨーロッパ演奏旅行」等の大イベントを成し得られたのも、OB会、諸先輩のご指導と絶大なご支援の賜物ということを卒団後も携えて来ました。平成・令和世代の若いOB会員の皆さんも現役時代に同じような体感をされた方も多いのではないかと思います。

120年の歴史、特にこの半世紀は、現役と現役の諸活動を後援する「OB会」が、常に一体となって紡いだ歴史です。まずは150周年実現に向けて、「OB会が今後もグリー愛に溢れたメンバーで強固な団体を形成し続ける」ことで、はじめて次の偉業、150周年という「後顧の憂なからしめ光栄ある将来」を築く事が出来ると考えます。

冒頭に記載した「OB会の組織を継続し、同志社グリークラブを支え続ける」という存在意義と、「ありたい姿」の実現のために、強い想いで、OB会運営に携わってゆきますので、OB会員一人ひとりのサステナブルなご協力・ご支援をあらためておねがい致します。

図3 同志社グリークラブOB会 17期 運営理事体制



# 東西四大学 OB合唱連盟演奏会の記録

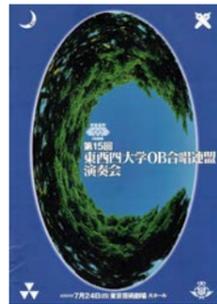
## 第15回

2005年7月24日  
東京芸術劇場大ホール

男声合唱曲 組曲「御誦」

作曲：大島 ミチル

指揮：小林 香太(平成10年卒)



クローバークラブのレパートリーに無い、新たな祈りの作品として挑戦したのが「御誦」(おらしょ)だった。現役2回生の時に出会ったこの作品、当時は全くの力量不足で最後まで歌い上げきれなかったが、本番を指揮された黒岩英臣先生の丁寧な指示を記した当時の楽譜を紐解きつつ、また東京クローバークラブの諸先輩方が古今さまざまな史料を取り寄せて下さり、大いに学びの時となったことが懐かしく思い出される。ピアノは久邇之宜先生、アルト独唱は小川明子先生、パーカッションは萱谷亮一、有里ご夫妻と、素晴らしいプロの音楽家が我々の演奏を力強く支えてくださった。この時の演奏を聴きにいられていた株式会社智書房の岩波千代子さんと林田慎也先輩(昭和38年卒)らのご尽力により、翌2006年10月、浦上天主堂で開催されたローマ教皇来崎25周年記念コンサートにおいて、敬愛する立教大学グリークラブOB男声合唱団の皆さんと共に、再びこの作品を演奏したことも忘れ難い(共演者は同じ)。我々の演奏前に3名のカクレキリシタン信者によって長崎・生月島壺部集落に伝わる歌おらしょが唱えられた。彼らが守る信仰の神髄を肌で感じ、私たちは特別な感動と喜びのうちに演奏することができたのだ。秘匿を旨とする歌おらしょが前で披露されるのはまさに異例であり、収録映像は貴重な史料として地元で保存されたと聞いている。(小林香太・平成10年卒)

## 第16回

2007年7月29日  
神戸国際会館こくさいホール

REQUIEM

作曲：Gabriel Fauré

指揮：山下 裕司(昭和52年卒)



フォーレ「レクイエム」の男声版は2002年、東京クローバークラブの委嘱により吉岡弘行氏により編曲されました。元々原曲の混声版もパートの出番に偏りが多く、合唱団には扱いにくい曲ですが、男声版も同じで、「Introit-Kyrie」と「Agnus Dei」にテナー系が延々とユニゾンで歌う部分が有り、演奏にあたっては少し工夫をしてみました。それは普通のオーダーなら舞台下手に陣取るテナー系ですが、100人を超える合唱になると舞台の上も客席も音響が偏るので、響きを分散させるために合唱団をABの2チームに分け、Aを下手(へたではない)に置き、Bを上手(じょうずではない)に配したことです。これにより歌い手側は歌いやすく、聴衆も聴きやすくなったと思います。昔の言い方で言うと、モノラルをステレオにした感じでしょうか。「Pie Jesu」と「In Paradisum」のソプラノソロは親孝行な幸田浩子さん、ピアノは木下亜子さんで演奏しました。(山下裕司・昭和52年卒)

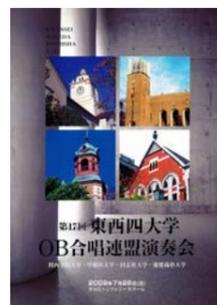
## 第17回

2009年7月26日  
すみだトリフォニーホール

「魂の叫び

～ Afro-American Spirituals ～

指揮：小林 香太(平成10年卒)



同志社が大切にしてきた黒人霊歌をOB四連のステージで演奏してみたい、という極めてシンプルな発想だった。ただし、歌い継いで来た曲ばかりで

は少々物足りない、せっかくならばアレンジにできるだけ幅を持たせ、パワフルなffと繊細なppによるダイナミックレンジの広さを使って、同志社らしいサウンドを余すところなく表現したいとの思いからのチャレンジであった。平成世代のOBが演奏経験のある編曲も意識して、「When The Saints Go Marchin'in」(石丸 寛編曲) / 「Sometimes I Feel Like A Motherless Child」(Paker Labach 編曲) / 「Joshua Fit De Battle Ob Jericho」(Mitchell B. Southhall 編曲) / 「Steal Away」(石丸 寛編曲) / 「Listen To The Lambs」(R. Nathaniel Dett 編曲) / 「Ev'ry Time I Feel The Spirit」(Fenno Heath 編曲)とした。

オンステはおそらく90名近かったらうか、お馴染みの黒タキシードではなく、黒シャツとスラックスとし、数人の方には真っ赤なシャツを着てもらいアクセントを付けたこと、パートも混ぜながら舞台いっぱい広がってみたい、多少のアクションも加えたような記憶がある。直立不動に慣れた?多くの方々にとっては、心中穏やかざるを得なかったかもしれない。それでも立派に歌い上げ、終曲での渾身のG-Durのハーモニーがホール一杯に響き渡ると同時に万雷の拍手を得て、まさに至福のステージであった。(小林香太・平成10年卒)

## 第18回

2011年8月7日  
ザ・シンフォニーホール

男声合唱組曲「水のいのち」

作曲：高田 三郎

作詩：高野 喜久雄

指揮：山下 裕司(昭和52年卒)



前年の2010年に同志社グリークラブOBシンガーズ(DOBS)が発足し、2011年3月に第1回コンサートを開きました。そのメンバーがOB四連のステージに多数加わったことで、今までの東西クローバークラブ中心のメンバー構成から大きく若返り、OB四

連でのクローバークラブは新たなスタートを切りました。演奏曲はクローバークラブゆかりの「水のいのち」、会場はDOBSメンバーが現役時代に定期演奏会を行っていた「ザ・シンフォニーホール」、総勢110名ほどの演奏でした。合同ステージは当間修一先生の指揮で男声合唱曲「岬の墓」を、そして最後に特別演奏として、この年の3月11日、未曾有の被害をもたらした東日本大震災の被災者の方々に向けて、復興への祈りと、エールとして「You'll never walk alone」を演奏しました。この曲は私たちには、同志社グリークラブのフェアウェルコンサートで在団生が卒団生を送り出す時に歌う「同志社グリーの歌」として位置づけされていますが、この選曲は関学をはじめとする他の3校からの提案でした。私はこの時、あらためて四連の素晴らしさを確認したように思いました。(山下裕司・昭和52年卒)

## 第19回

2013年6月23日  
東京芸術劇場コンサートホール

男声合唱のための「おらしょ」

作曲：千原 英喜

指揮：小林 香太(平成10年卒)



『私たちは合唱を通して心にある言葉を、声を出して歌い上げることの素晴らしさを知っている。他方、声を上げることを赦されず途方もない沈黙のうちに密かに存在した救いへの祈りの歴史を噛みしめる。作曲家はこの《おらしょ》を「自由なファンタジーによって創り上げられた幻想的バラードである」と語り、必ずしも宗教作品として位置付けていないが、同志社には代々歌い継いで来た祈りのハーモニーがある。カクレキリシタンの抱いた夢や希望、情熱、厳しい弾圧に対する苦しみ、悲しみ、そして幸福を願いつつ続けた思いと重ね合わせ、今を生きる私たちにおける真の平和の賛歌として壮大に歌い上げたい。』(演奏会パンフレットへの寄稿文より)

# 東西四大学 OB合唱連盟演奏会の記録

また、当時の演奏を前にしたメモにはこう記していた。

- ・新しい作品に積極的に挑戦することで、皆が平等に作品に向き合うこと
  - ・世代を超えて思いを一つに集中したよりよい音楽を目指すこと
  - ・メンバーの持つ懐の深さと絆の強さ、メンバーへの信頼を形にすること
  - ・同志社グリーが培ってきた祈りのハーモニーをステージの上で余すところなく表現すること
- よりよい音楽の実現を目指すことはもちろんだが、クローバークラブの名の下に、年代や地域、異なる思いを超えて真のOne Purposeを皆で共有したいと、当時相当に腐心していたように思う。第15回以来、再び《御誦／おらしよ》を採り上げることに多少のためらいはあったが、自分が何か導けるものがあるとすればこれしかないとの思いから、必死に取り組んだ。

当日は《おらしよ》に続き、ステージアンコールとして千原英喜作曲《どちりなきりしたん》よりAve Verum Corpusを演奏した。これは、本番直前に天に召された市島章三先輩（昭和34年卒）へのレクイエムだった。クローバークラブ指揮者として長きに亘り活躍された先輩へ、皆で心からの感謝と慰めの祈りの歌を捧げた。終演後のレセプションで指揮した「新しき歌もて」は、歌い終わった後に佐藤正浩先生が駆け寄って下さり、「同志社の祈りの歌の神髄を味わうことができ幸せだった、ありがとう」と言って頂いたことも、忘れられない思い出となった。（小林香太・平成10年卒）

## 第20回

2015年8月2日  
フェスティバルホール  
男声合唱とピアノのための  
「くちびるに歌を」  
作曲：信長 貴富  
作詩：ヘルマン・ヘッセ 他  
指揮：武内 和朋（昭和63卒）



『くちびるに歌を』は、信長貴富によって作曲された、全4曲からなるオリジナルの男声合唱曲で、2005年、東海メールクワイアーによって委嘱初演されています。この作品の魅力と特徴は、ドイツ語の原詩と日本語の訳詩を併用するという斬新な手法により、独特の音楽観を確立させたことにあります。青年の瑞々しい感性を湛えた「白い雲」、孤独の悲しみを見事に昇華させた「わすれなぐさ」、減三和音の連続と展開で死の絶望を表現した「秋」。そして終曲「くちびるに歌を」では、天啓として提示されるア・カペラのコーラルと、それを受けて高らかに歌われる日本語の主題が交互に重なり合いながら、感動的なフィナーレへ！

新装された大阪フェスティバルホールを埋めた2,700名の聴衆を前に、120名のクローバークラブは、ピアノの木下亜子さんとともに、この現代曲に果敢に挑戦しました。東京、関西、名古屋、地方という地理的要因に加え、クローバークラブやDOBSなど日頃活動している合唱団は異なれど、一つ所に集えば同じDNAを持ったまさにOne Clover！同志社らしい生命力とうたごころと、ライブならではの危うさにあふれた演奏が、フェスティバルホールの空気を変えた瞬間でした。

大分在住の指揮者の数少ない練習を、各地の技術系スタッフにサポートしていただき、また練習音源の配信など、これまでにない技術を活用しての取り組みは、これからの新しい合唱団の在り方を予感さ

せるものでした。そして、年代を超えて新しい作品に正面から挑むことで、OB四連を懐古主義発揚の場とするだけではなく、「良心」と「自由」に満ちた進取の精神の発露としようとする試みが、今に繋がっていることを誇らしく思います。（武内和朋・昭和63年卒）

## 第21回

2017年7月23日  
昭和女子大学人見記念講堂



「Messe Solennelle～荘厳ミサ～」  
作曲：A.デュオパ  
指揮：小久保 大輔

デュオパ“Messe Solennelle”は「水のいのち」「月光とピエロ」と並ぶOB四連の定番曲、これまでの演奏回数は関学単独で2回、合同が林雄一郎氏の指揮で1回と、言わば新月会の十八番であった。楽譜も昔は門外不出であったらしい。同志社においても1957年の合唱コンクールで、グリーが“Gloria”を、クローバーが“Kyrie”を歌い共に優勝、また1964年の60周年記念演奏会では、原調による日本初の全曲演奏を福永陽一郎氏の指揮で行うという、輝かしい歴史を持っている。今回の演奏はその福永氏の血をひく小久保大輔氏を指揮者に招聘して、総勢115名の大合唱で歌い上げた。会場は昭和女子大学の人見記念講堂。四校合わせて400人以上のおじさんが女子大キャンパスにたむろする光景がおぞましかったのか、楽屋に使わせてもらった教室に加齢臭が充満していたのか、残念ながらこれ以降は使わせてもらっていない。（山下裕司・昭和52年卒）

## 第22回

2019年7月28日  
フェスティバルホール



男声合唱曲「季節へのまなざし」  
作曲：萩久保 和明  
作詩：伊藤 海彦  
指揮：小久保 大輔

前回は引き続き指揮を小久保氏に依頼した。演奏曲は萩久保和明作曲「季節へのまなざし」。幹事校として気合十分の選曲であった。1978年に混声合唱曲として発表されたこの曲は、これまでのホモフォニー中心であった日本合唱曲の枠組みから脱却し、ポリフォニックの技法と新しいリズムを随所に組み入れ、ホモフォニー部を効果的に見せている。1986年、早稲田大学グリークラブにより委嘱・初演された男声合唱版は混声版から大きく改定を加え、より魅力的な楽曲になっている。いわゆる難曲の部類に入るが、110名のオンステメンバーは暗譜で歌い切った。指揮の小久保氏は独自の解釈とエネルギッシュなタクトで、ピアノの木下さんは華麗なテクニックでメンバーを導き、合唱団も全力でそれに応えた。あくまで私見だが、クローバークラブ史上最高の名演だったと思う。

合同ステージは「多田武彦を偲ぶ」と題し、アンコールを含めて4曲、1年半前に亡くなった多田武彦氏を、文字どおり偲ぶステージとなった。指揮台から見た、400人を超す、ほぼ暗譜の男声合唱団は忘れられない景色になりました。（山下裕司・昭和52年卒）

## 第23回

2021年に予定されたが新型コロナウイルス感染防止のため中止。

# 東西四大学 OB合唱連盟演奏会の記録

## 第24回

2023年7月30日  
兵庫県立芸術文化センター

男声合唱曲「まぼろしの薔薇」  
作曲：西村 朗  
作詩：大手 拓次  
指揮：長谷川 裕也(平成26年卒)



第24回 OB 四連で演奏した『まぼろしの薔薇』は、西村朗の作風であるヘテロフォニーが随所に見られ、アンサンブルの難しさはあるものの抒情的なメロディが魅力的な組曲です。選曲にあたっては、曲そのものの魅力はもちろんのこと、作曲された年代が古すぎず新しすぎないこと、あまりに難易度が高すぎないこと（十分難しい曲ではありますが）、過去に同志社として演奏経験がないこと等を基準としました。特に最後の基準は、OB 四連を過去の焼き直しではない新しいチャレンジにしたいという、私の強い思いの表れとなっています。演奏経験がない曲を選ぶことには様々な意見があったことと思いますが、本番そのものは、メンバーの皆さんのひたむきな練習姿勢や合唱への真摯な思いが昇華した熱演になったと確信しています。

本来『まぼろしの薔薇』は、第23回 OB 四連に向けた曲となるはずでした。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて演奏会は中止となりました。新型感染症による死者や感染者の数は日に日に上昇し、飛沫により感染を拡大させる可能性のある合唱活動そのものが中止を余儀なくされたのです。

このどうしようもない状況下でせめて何かできないかと、ウェブでの打ち合わせが頻繁に行われ、オンライン練習という工夫も生まれました。到底、対面のアンサンブルには代えられませんが、オンラインによる実質的な個人練習やイメージトレーニングには、合唱の火を絶やさないという点で大きな意味がありました。

2022年ごろから、少しずつ活動が解禁され始めました。合唱の感染リスクが高いとされていることに変わりはなく、練習場での体温測定をはじめとした体調管理の徹底、アルコール消毒、休憩中の換気、できるだけ感染リスクを減らすためのオーダー設定（前後重ならないよう徹底）等、厳しい管理を求められました。咳払いひとつもためられる緊張感の中で解禁された対面練習では、しかし、合唱とはかくあるべしと思わせるサウンドが響きました。まるで、合唱が「不要不急」と言われ続けてきたことへのアンチテーゼのように。

この文章を書いている2025年現在は、ほぼ感染症禍の前と同様の暮らしが営まれています。今後、同じような苦しみがあったとしても、それを乗り越えて充実した音楽活動・合唱活動が続けられることを切に願っています。（長谷川裕也・平成26年卒）

## 第25回

2025年9月15日  
すみだトリフォニーホール

男声合唱曲「帆をあげよ！高く」  
作曲：信長 貴富  
作詩：みなづき みのり  
指揮：伊東 恵司(平成2年卒)



「帆をあげよ！高く」は同志社グリークラブ110周年記念演奏会（2014年）のために委嘱された作品です。1曲目には同志社の持つ自由の精神が、2曲目には福永陽一郎先生のオマージュが、3曲目には校祖新島襄が20歳にして志を抱き海を渡った時の心情が、みなづきみのり氏（伊東恵司・平成2年卒）の詩によって描かれています。

初演以降も4年に一度はグリークラブ現役が演奏しており、大切に歌い継がれています。そして、若いOB全員が歌うことができる貴重なこの楽曲を、同志社創立150年、グリークラブ創部121年の年に、若いOBも大勢交えて、クローバークラブが心一つにして演奏することとなりました。

年月日	第15回 2005年7月24日		第16回 2007年7月29日	
会場	東京芸術劇場大ホール		神戸国際会館こくさいホール	
クローバークラブ	御誦	指揮：小林 香太	REQUIEM (G.Fauré)	指揮：山下 裕司
新月会	バーバーショッパハーモニーの世界	指揮：広瀬 康夫	The Student Prince	指揮：広瀬 康夫
稲門グリークラブ	水のいのち	指揮：山田 和樹	アイヌのウポボ	指揮：山脇 卓也
慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団	沙羅	指揮：畑中 良輔	富士山	指揮：畑中 良輔
合同演奏	SoundCelebration / 斎太郎節 / 君といつまでも / Ave Maria / ふるさと	指揮：各合唱団 指揮者	黒人霊歌	指揮：広瀬 康夫

年月日	第17回 2009年7月26日		第18回 2011年8月7日	
会場	すみだトリフォニーホール		ザ・シンフォニーホール	
クローバークラブ	Afro-American Spirituals	指揮：小林 香太	水のいのち	指揮：山下 裕司
新月会	雪明りの路	指揮：広瀬 康夫	黒人霊歌	指揮：広瀬 康夫
稲門グリークラブ	岬の墓	指揮：西田 裕巳	四つの仕事唄	指揮：佐藤 拓
慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団	過ぎし日	指揮：畑中 良輔	尾崎喜八の詩から	指揮：仲光 甫
合同演奏	枯れ木と太陽の歌	指揮：佐藤 正浩	岬の墓	指揮：当間 修一

年月日	第19回 2013年6月23日		第20回 2015年8月2日	
会場	東京芸術劇場コンサートホール		フェスティバルホール	
クローバークラブ	おらしょ	指揮：小林 香太	くちびるに歌を	指揮：武内 和朋
新月会	Old American Songs (Copland)	指揮：辻 伸高	中勘助の詩から	指揮：広瀬 康夫
稲門グリークラブ	水のいのち	指揮：小林 研一郎	Song Of Departure より	指揮：佐藤 拓
慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団	チャイコフスキー歌曲集	指揮：佐藤 正浩	愛の歌、新愛の歌(ブラームス)	指揮：佐藤 正浩
合同演奏	斎太郎節 / ソーラン節 / 五木の子守唄 / 最上川舟唄	指揮：各合唱団 指揮者	Sea Shanties	指揮：広瀬 康夫

年月日	第21回 2017年7月23日		第22回 2019年7月28日	
会場	昭和女子大学人見記念講堂		フェスティバルホール	
クローバークラブ	荘厳ミサ (デュオバ)	指揮：小久保 大輔	季節へのまなざし	指揮：小久保 大輔
新月会	アイヌのウポボ	指揮：広瀬 康夫	黒人霊歌	指揮：広瀬 康夫
稲門グリークラブ	北斗の海	指揮：岡本 俊久	僕らの愛 あなたの夢	指揮：相澤 直人
慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団	ジプシーの歌 (ドボルザーク)	指揮：佐藤 正浩	ジプシーの歌 (ブラームス)	指揮：佐藤 正浩
合同演奏	希望の島 / 斎太郎節	指揮：竹内 正 須田 和宏	多田武彦を偲ぶ	指揮：山下 裕司

年月日	第23回 2021年		第24回 2023年7月30日	
会場	新型コロナウイルス感染防止のため中止		兵庫県立芸術文化センター KOBELCO	
クローバークラブ			まぼろしの薔薇	指揮：長谷川 裕也
新月会			柳河風俗詩	指揮：広瀬 康夫
稲門グリークラブ			さすらう若人の歌	指揮：小林 研一郎
慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団			水のいのち	指揮：宮本 益光
合同演奏			月光とピエロ	指揮：広瀬 康夫

## 資料収集協力のお礼

広報担当運営理事 松本 裕士 (昭和 62 年卒)

2020年、OB会とは長らく疎遠であった私のもとに、突然、3年上の先輩である須藤彰治(昭和59年卒)さんからお電話をいただきました。「OB会のホームページをやってくれないか」とのご依頼でした。1年生の時の4年生、しかも指揮者からの“命令”とあっては、断るわけにもいかず、運営理事をお引き受けすることとなりました。

就任当初、多くの先輩方から「同志社グリークラブの資料が年々散逸している」との嘆きの声を耳にし、何とかしなければという思いが募り、居ても立ってもいられず、資料収集に着手いたしました。

グリークラブは音楽の団体ですので、まずは音源の調査から始めました。

オープンリールの音源をカセットテープにダビングしてくださった長谷川邦男さん(故人・昭和35年卒)、カセットやレコードの音源をデジタル化してくださった藤田和久さん(故人・昭和44年卒)のお二人には、膨大な時間をかけて多くの音源を残していただきました。この貴重な音源を活用し、OB会ではYouTubeチャンネルを開設し、気軽に楽しんでいただけるようにしております。

音源収集が一段落した後は、パンフレットの収集に取りかかりました。

多くのOB諸兄のご協力により、約850種類のパンフレットを集めることができました。

戦後の定期演奏会のパンフレットはすべて揃い、四連についても1冊てこずりましたが、最終的には完全収集を達成しました。すべてのパンフレットはPDF化しておりますので、ご興味のある方はぜひご連絡ください。

なお、現物のパンフレットは同志社社史資料センターへ寄贈する予定です。

ご協力いただいた皆様のお名前を以下に列挙し、心より感謝の意を表します。

<>内は資料を預かってくださった方のお名前です。故人の遺志を受け継ぎ、大切に保管されていたことに、重ねて深く御礼申し上げます。

失礼ながらOBの皆様の敬称は略させていただきました。

故・西邨 辰三郎 (昭和7年卒) <ご令嬢 小川 壽子さん>

故・松本 寛二 (昭和15年卒) <松村 時男 (昭和35年卒) >

故・橘 守 (昭和31年卒) <会友 畑 恵郎さん>

脇地 駿 (昭和34年卒)、森田 秀夫 (昭和34年卒)

故・長谷川 邦男 (昭和35年卒) <奥様 長谷川 紘子さん>

故・石井 正一郎 (昭和35年卒) <池田 周一 (昭和50年卒) >

佐藤 道雄 (昭和37年卒)、河野 賢太郎 (昭和40年卒)、土生 邦彦 (昭和40年卒)

大原 康弘 (昭和41年卒)、木下 利彦 (昭和41年卒)、小亀 豊 (昭和41年卒)、小室 泰司 (昭和41年卒)

石黒 武 (昭和42年卒)、栗山 昭男 (昭和42年卒)、西村 肇 (昭和42年卒)、神谷 洋司 (昭和43年卒)

柳原 高志 (昭和43年卒)、坂東 憲治 (昭和44年卒)、藤田 和久 (昭和44年卒)、金田 稔 (昭和45年卒)

高橋 博 (昭和47年卒)、永田 裕 (昭和48年卒)、平井 雅則 (昭和48年卒)、新井 克次 (昭和50年卒)

大崎 保則 (昭和50年卒)、今藤 恵証 (昭和50年卒)、河村 淳 (昭和51年卒)、伏村 淳二 (昭和51年卒)

高谷 博次 (昭和52年卒)、山下 裕司 (昭和52年卒)、松本 潤一郎 (昭和53年卒)

森島 敏夫 (昭和53年卒)、中山 篤 (昭和54年卒)、梶浦 義人 (昭和55年卒)、中野 宏 (昭和55年卒)

北尾 俊明 (昭和57年卒)、上田 慎一 (昭和58年卒)、須藤 彰治 (昭和59年卒)

尾池 智治 (昭和61年卒)、大野 浩一 (昭和62年卒)、中村 洋 (昭和62年卒)、奥野 和敏 (昭和62年卒)

安池 倫成 (平成1年卒)、新井 正 (平成2年卒)、林 克己 (平成5年卒)、福田 研二 (平成6年卒)

八尋 秋彦 (平成6年卒)、奥山 達矢 (平成31年卒)

## OB合唱団の活動記録

## クローバークラブの起源

クローバークラブの起源は、昭和21年11月に行われた同志社EVE音楽会に、全国から集まった約30名のグリークラブOBがクローバークラブの名で「讃美歌551番」他を、森本芳雄氏(大正14年卒)の指揮により演奏したことに始まります。

大学卒業後は全国各地に散らばっているグリークラブOBはOB会主催の演奏会が開催されとなればクローバークラブと名乗り参集し、また、日頃は首都圏や関西を中心に年代を超えて活動を続けています。

大学卒業後はそれぞれに異なった道を歩み、職業も違えば生活環境も違う中で、集い歌うことの喜びを忘れることないのは、何かに集中することの大切さをそれぞれが感じ取っているばかりでなく、むしろ音楽することへの誇りを感じているからでしょう。

## 同志社グリークラブOB合唱団の合同コンサート

OB四連とは別に、クローバークラブ、東京クローバークラブ、同志社グリークラブOBシンガーズ(DOBS)による「同志社グリークラブOBコンサート」が2013年2月10日にいずみホールで開催されました。



愛唱讃美歌「詩編102 みゆるしあらずば」、同志社グリークラブ部歌「Hail Our Glee Club」の2曲を全員で演奏した後、各団の演奏曲は以下のとおりです。

東京クローバークラブ：シューベルト男声合唱曲集(5曲)を小林香太(平成10年卒)の指揮で演

奏しました。

クローバークラブ：Barbershop Harmony(7曲)を山下裕司(昭和52年卒)の指揮で演奏しました。

同志社グリークラブOBシンガーズ(DOBS)：佐藤賢太郎作曲 Arbor Mundi(世界樹)を須藤彰治(昭和59年卒)の指揮で演奏しました。

合同演奏では「Locus Iste」「希望の島」「You'll Never Walk Alone」「おてもやん」「花火」の5曲を、日下部吉彦会長MCの進行で演奏しました。

出演する3団体は、同志社グリークラブのOBが中心メンバーとなって活動しているOB合唱団で、日頃は東京や大阪をはじめ海外メンバーを含む広域で各々別々に活動をしています。2年に一度開催される「東西四大学OB合唱連盟演奏会」には同志社グリークラブOBは「クローバークラブ」として全員一丸となって参加していましたが、日頃別々に活動しているOB合唱団がお互いの成果を披露し合う機会はありませんでした。

この度OB会員相互の親睦活動をより強化発展させるため、初の試みとしてOB合唱団がそれぞれ得意のレパートリーを披露して競演するとともに、日頃はOB会合唱団に所属しないメンバーを含めて「クローバークラブ」の名の下に一堂に会して愛唱歌を演奏するコンサートを企画しました。

(演奏会パンフレット 芦田理事長(当時)の文章より抜粋)



## 卒業後周年会の記録

### 「30年会」・「40年会」・「50年会」の歴史

小室 泰司 (昭和41年卒)



#### ■ 始めに

2025年8月25日、松本裕士氏(昭和62卒)よりメールをいただいた。

内容は「グリーン120周年記念誌」の編集をしているが、その中の企画記事「周年会のスタート」についての執筆依頼であった。

当初原稿締め切りが7日間という短期間であったため辞退させていただいたが、さらに7日の余裕をいただいたので、これもグリーンそしてOB会の歴史の一旦と思ひ拙文ながらまとめてみることにした。

なお記述内容は私の記憶に基づいていますが、間違いがあつては、と思ひ多くの先輩に電話等で確認しその協力があって本文章を作成できたことを予めお伝えしておく。

#### ■ 30年会

30年会が最初に行われたのは、私の記憶では昭和31年卒の方々から幹事をされて昭和61年におこなわれたのが最初のように記憶している。

それ以前の方に開催の有無をお尋ねしたが、すでに故人となられたり、連絡がうまくつかないというのが現状であった。

当初この30年会は卒業30年目の学年が中心となり参加学年を特定せず親睦パーティの形式をとられていたようだ。

この昭和31年卒年次は現役時代にグリーン創立50周年記念行事を幹事学年として主催し、卒業後においてもグリーンOB会の設立発足に多大の功績を残された方が多い学年であった。

この形式は平成4年(1992年)まで続いたように記憶している。

#### ■ 現30年会への進化

平成5年(1993年)この年の幹事学年(昭和38年・1963年卒)から現形式に変更になった。

主宰幹事学年を中心として前後3年のグリーン同時期在籍者、延べ7学年に参加者を原則規定し、まさに現役グリーンライフ4年間青春を共有したメンバーの画期的な集まりの会となった。

この学年は現役3年次に福永陽一郎先生を技術顧問にお迎えした昭和37年の学年に協力し、翌年5月に大

久保昭男先生を7月に中村博之先生をヴォイストレーナーとして招聘依頼、昭和37年に東京日比谷公会堂で、グリーン単独演奏会としては初めて東京演奏会を開催した学年でもある。それ以後この30年会形式をとって現在に至っている。

#### ■ 「40年会」・「50年会」

本会が継続して開催されるようになったのはそれぞれ昭和38卒が幹事学年として「40年会」が2003年12月、「50年会」が2013年11月が始まりと記憶している。

それ以前では40年会、50年会は昭和32年の学年が盛大に開催されたようであるが、その他の学年に問合わせたが開催はされていなかった。

また2020年より2022年まではコロナ・パンデミックのため開催されなかったが2023年より復活開催されているとのこと嬉し伝統の復活と喜んでいる。

#### ■ 「周年会」について

グリーンOBとなって強いつながりはやはり同期のメンバーである。

フェアウエルを終えた時、これで上下学年とは疎遠になるのだろう、と寂しい思いをした人も多いと思う。それを復活再生してくれたのが「周年会」の絆ではなからうか。

この「周年会」のつながりがそれぞれの人生、そして現役支援、OB会を支える大きな柱、要素になっているのではないだろうか。

この当該学年を含めた延べ7学年参集の継続開催の意義はとてつもなく大きく、学内他クラブや、時には四連各校、交歓校立教OBなどからも称賛的となっているようである。

同志社グリーンクラブの文化と歴史の継承となっており、グリーンクラブOBの誇りと矜持とも言えよう。

「30年会」は企業人としてホームストレッチの入り口。「40年・50年会」は人生のホームストレッチかもしれない。

このホームストレッチが永からんことを願って本稿の結びとします。

### 当時の勢いは衰えた？ いやいや皆で集まればすぐに復活！

林 克己 (H5年卒)



本年度30年会を、2025年2月22日(土)に、平成5、6年卒が幹事となり、平成2年から9年卒までの8学年計53名(対象160名)で、リバースイート京都鴨川迎賓館をお借りして開催致しました。

平成5年卒学生指揮者村上さんの指揮による「Hail Our Glee Club」で幕が上がり、同幹事長内桶さんの挨拶、平成2年卒津田さんによる乾杯で楽しい会が始まりました。

今回は出席者同士での交流を主にとの目的で立食にさせていただきましたので、色々ところで楽しいお話、懐かしい昔話が聞こえていました。

またこの日は現役定期演奏会前日。多忙な中、PRの為に現役女子マネージャー2名と、OB会現役支援担当運管理事の平成31年卒宮本さんにもご出席頂きました。

OB会からは山下会長にご臨席賜り、ご挨拶を頂戴した後「詩篇98」を指揮頂いて、全員で懐かしく歌いました。また当時ピアノ演奏で大変お世話になりました長島優子先生と高梨OB会理事長は別室で開催中の40年会にご出席でしたので、途中ご挨拶を頂戴いたしました。御来賓の皆様方には、改めましてお礼申し上げます。大変ありがとうございました。

さて会は歌へと進んで参ります。学生指揮者が竹内さん(H3年卒)、村上さん(H5年卒)、福田さん(H6年卒)の3名。「斎太郎節」「O Sacrum Convivium」「Ride the Chariot」「Set Down Servant」を指揮頂き、楽しく賑やかに歌いあげました。

歓談中には、現在の大学や部室、懐かしいお店等に関する映像をスクリーンで流したり、演奏会本番当日でご欠席だった平成2年学生指揮者で現役技術顧問の伊東さんのインタビュー映像をご紹介したり、何名かに当日突撃インタビューをして近況を語って頂くなど盛りだくさん。

終盤は平成2年、3年卒の皆様へ記念品贈呈、次回幹事学年の平成7年卒迫さんへペナント引継ぎ、卒業2学年だけの「送別の歌」の歌唱を経て、全員で「Doshisha College Song」を歌い、無事会を終えることができました。最後は在団生(?)の「賛美歌405(かみともにもいまして)」で卒団生をお見送りし、散会となりました。

この2年間、幹事学年みんなで準備をしてきましたが、ご出席の皆様が本当に楽しく交流されているのを拝見し、本当に良かったと感じました。お力添え頂きました関係者の皆様へ心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

バブル崩壊頃の我々2学年をピークに、以降団員の数が減り、これから大変苦勞をした学年の時代に入っていきます。30年会の開催も今の形では難しくなるかもしれません。しかしこの会を切っ掛けに、少ない人数で濃密な学生時代を過ごした昔を思い出し、もう一度同期、周辺学年の結束を固めて頂けたら、またそれが現役グリーンクラブの支援に繋がればと思った次第です。同志社グリーンクラブよ永遠なれ！

(グリーンサローン Vol.115より)



令和7年2月22日 GleeClub 同志社グリーンクラブ 30年会

## 卒後40年会開催



### 昭和58年卒 幹事学年一同



2023年11月11日土曜日、リバースイート京都鴨川迎賓館にて55年から61年までの卒団生47名とその奥様1名、長島優子先生の合計49名の参加により開催しました。

開会に先立ち、ここ1年余りに物故された55年河相さん、58年畠中さんへの追悼の祈りを57年木谷牧師、長島先生の奏楽にて会場のチャペルで挙行了しました。

55年指揮者千代沢さんによる明るく重厚な音色のRejoiceで幕を開け、会食をはさみ57年指揮者芦田さんによる名曲秋のピエロを男声合唱の醍醐味満載で歌い上げました。再び会食を挟み60年指揮者高橋さんのダイナミックな指揮による賑やかなライチャリでボルテージがあがり、現役による今年の定演紹介とチケット販売で一息つきました。高橋さん再登場で詩篇98を、そして59年指揮者須藤さんと長島先生の卒年生への思いを込めた素晴らしいYou'll never walk aloneでしっとり致しました。記念品は58年松井さんデザインによるRejoiceの歌詞を応用したトートバッグを贈呈。最後に再び千代沢さんによるテンポたっぷりのカレソン、55年幹事長山下さんによるチアで締め括りました。

会の運営にひと工夫をと、まず連絡手段をメールのみにし、続いて58年上田さんのスキルで出席者がアクセス出来る共有のクラウドを作り楽譜や式次第をアップロードしました。出席者が必要な手段でダウンロードし、当日、自身のスマホやタブレットで見ることを可能としたり、会場のスクリーンにタブレットからプロジェクターで楽譜を投影致しました。

中国演奏旅行の楽しいエピソードで会場は笑いの渦と化し、58年高井さんが用意された当時のパンフレットを手にとり懐かしむ皆様の柔らかな顔、学年を超えて歓談される皆様のにこやかな顔、ひとたび歌が始まるとあの懐かしいハーモニーが響きわたる。40年会は一気に現役時代にタイムスリップ出来る場であると実感致しました。この伝統は絶対に絶やしてはなりません。また、素晴らしい施設で毎年開催出来るのは61年齋藤さんの御配慮のおかげです。感謝致します。

(グリーサルーン Vol.113より)



令和5年11月11日 同志社グリークラブ卒団40年会 2023

## 「Extra 卒後50年会2023」を振り返って



### 横尾 修 (S48年卒)



「50年会」は新型コロナ禍で3年続けて開催出来ませんでした。2023年11月12日のホームカミングデーの日に、4年ぶりに42年卒から51年卒までの10学年が一堂に集まり「Extra 卒後50年会2023」を開催することができました。

10学年が集まるというのは前代未聞。私たち48年卒幹事学年は、4学年の卒業生にどのように感謝を伝えられるか、約1年前から準備をしてまいりました。

10学年が一堂に集まるチャンスは一度だけ。それならば、皆んなで楽しく思い出に残る50年会にしようと「久しぶりの再会を喜び、共に歌い、共に語ろう」のコンセプトで企画しました。

当日は同伴の奥様も含めて80名の方にご参集を頂きました。

まず、第一部ですが、ホームカミングデーに併せて今出川キャンパスで再会を喜び、良心館での現役のデモンストレーションと一緒にカレソンとリジョイスを歌う事にしました。久しぶりのキャンパスでのカレソンは感慨深いものがありました。

第二部は会場をザ・プリンス京都宝ヶ池に移し、レセプションを開催。

#### ● 共に語ろう！

まずは、美味しい食事とザ・ワイルド・ロバーズの生演奏を聴きながら久しぶりの歓談を楽しみました。

#### ● 共に歌おう！

皆んなで選んだ思い出の6曲を錚々たる方々に指揮をお願いしました。(43年卒神谷洋司氏、44年卒桑山博氏、46年卒高田英生氏、49年卒富岡健氏) 曲にまつわるエピソードも語られ思い出深い演奏になりました。

#### ● 卒業生と共に！

42年卒の第62回定期演奏会で歌われた曲「北陸にて」より「みぞれのする小さな町」を44年卒桑山博氏の指揮で歌いました。

最後に感謝状と記念品を贈呈した後、全員輪になって「カレソン」と「you'll never walk alone」を歌い閉会となりました。

#### ● 最後に

50年会を通じて、参加者全員が親しくなり、同志社グリーが身近に感じられたことに感謝の気持ちいっぱいです。

創立119年の歴史に残る「50年会」を開催出来たことを喜び、ご参加して下さった皆さんに改めて感謝申し上げます。

(グリーサルーン Vol.113より)



# Messiah

## メサイアについて

メサイア演奏会は、同志社グリーの年間活動の中でも大きな比重を占めています。メサイアのコーラスは大変音域が広く、難しい曲が揃っていますから、もちろん練習はハードにならざるを得ません。しかし、4年間同じ曲を歌い続けるので、だんだんと歌い慣れていきますし、愛着も湧いてきます。魅力的な曲ばかりで、ふとした時にその旋律を口ずさんでしまうものです。どんな時代の同志社グリーメンとも通じ合える『メサイア』は、同志社グリークラブにとって、なくてはならない存在であると感じます。

しかし、そんなメサイア演奏会も新型コロナにより中断せざるを得ない状況となってしまいました。私が入団した2022年度もコロナ禍によりメサイア演奏会は開催されませんでした。かろうじて、クリスマスコンサートとして代替の演奏会を開催することはできましたが、交響楽団・女声と合同で演奏したのは、カレッジソング・ハレルヤ・きよしこの夜の3曲のみでした。メサイアの無い1年間を過ごしたことで、当時1回生であった私はこれが普通なのだと感じていました。しかし、私のこの観念は翌年覆ることとなります。

2023年度、全同志社メサイアは抜粋演奏という形で復活しました。コロナ禍も明け、ようやく通常の活動へと戻っていく中で、メサイアの練習も行われるようになりました。本来であれば、歌い慣れた上回生が下回生を引っ張っていくのがメサイアの練習なのだと思いますが、3年間の中断により、メサイアを歌える

同志社グリークラブ第90代学生指揮者 中山 拓

現役メンバーは誰ひとりとしていませんでした。そんな中で始まったメサイアの練習に、我々は悪戦苦闘しました。抜粋とはいえ新たに10曲の音取りをするわけですから、技術系としても大きな負担となりました。特にメリスマのような細かい音符の動きに慣れるのには時間がかかり、皆の心が折れかけていたように思います。それでもOBの皆さまのお力添えのおかげで何とか形にすることができ、本番を迎えました。演奏中はとにかく必死で、ほとんど記憶はありません。しかし、2時間弱の演奏の最後、ハレルヤのD-durの残響が消えぬうちに、割れんばかりの拍手とブラボーがホール全体に響き渡ったのは鮮明に覚えています。この瞬間、私は同志社のメサイアがどれだけ多くの人に愛されてきたのかを知りました。

翌年、全同志社メサイアは完全復活を遂げました。この演奏会で私は実行委員長を務めました。復活2年目、完全復活の演奏会ということで、体制が不十分な部分もあり、準備段階では多くの苦勞がありました。本番では山下一史先生を指揮者に招聘して非常にレベルの高い演奏が実現されました。皆さまからたくさんのお褒めの言葉をいただき、苦勞が報われたように感じました。

伝統ある演奏会の復活という貴重な3年間に立ち会えたことを大変光榮に思います。全同志社メサイアが今後も末永く続いていくことを願って、筆をおくことにいたします。



## メサイア演奏会 京都コンサートホール

第41回～第50回

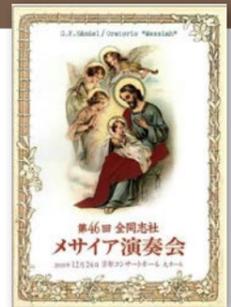
### 第41回

2005年12月24日  
指揮 山下 一史  
ソプラノ 松下 悦子  
アルト 児玉 祐子  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 大代 恵



### 第46回

2010年12月24日  
指揮 山下 一史  
ソプラノ 松下 悦子  
アルト 福原 寿美枝  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 大代 恵



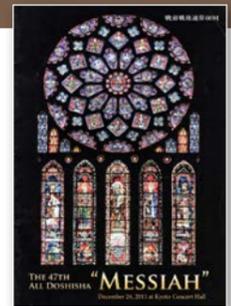
### 第42回

2006年12月24日  
指揮 金 洪才  
ソプラノ 松下 悦子  
アルト 栗林 朋子  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 加藤 真子



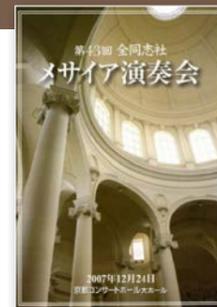
### 第47回

2011年12月24日  
指揮 金 洪才  
ソプラノ 尾崎 比佐子  
アルト 福永 圭子  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 高橋 聖子



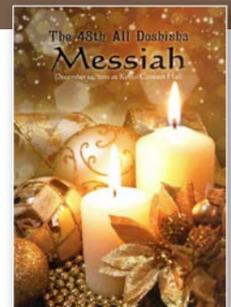
### 第43回

2007年12月24日  
指揮 山下 一史  
ソプラノ 松下 悦子  
アルト 児玉 祐子  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 大代 恵



### 第48回

2012年12月24日  
指揮 飯守 泰次郎  
ソプラノ 松下 悦子  
アルト 金子 美香  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 高橋 聖子



### 第44回

2008年12月24日  
指揮 飯守 泰次郎  
ソプラノ 松下 悦子  
アルト 児玉 祐子  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 高橋 聖子



### 第49回

2013年12月24日  
指揮 齊藤 一郎  
ソプラノ 松下 悦子  
アルト 福原 寿美枝  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 高橋 聖子



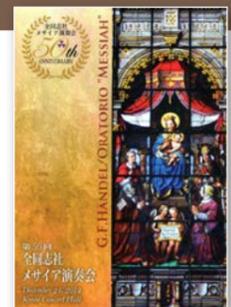
### 第45回

2009年12月24日  
指揮 北原 幸男  
ソプラノ 栗原 未和  
アルト 小畑 朱実  
テノール 高橋 淳  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 高橋 聖子



### 第50回

2014年12月24日  
指揮 山下 一史  
ソプラノ 松下 悦子  
アルト 福原 寿美枝  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 大代 恵



# メサイア演奏会 京都コンサートホール

第51回～第57回

## 第51回

2015年12月24日  
指揮 鈴木 秀美  
ソプラノ 松下 悦子  
アルト 福原 寿美枝  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 高橋 聖子



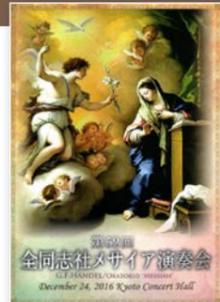
## クリスマスコンサート

2022年12月24日  
指揮 岡本 陸



## 第52回

2016年12月24日  
指揮 飯守 泰次郎  
ソプラノ 高島 依子  
アルト 福原 寿美枝  
テノール 小貫 岩夫  
バス 青木 耕平  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 高橋 聖子



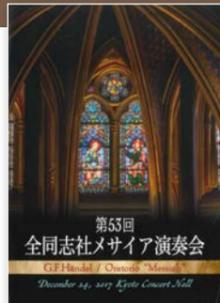
## 第56回

2023年12月25日  
指揮 垣内 悠希  
ソプラノ 老田 裕子  
アルト 八木 寿子  
テノール 小貫 岩夫  
バス 小玉 晃  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 高橋 聖子



## 第53回

2017年12月24日  
指揮 金 洪才  
ソプラノ 松下 悦子  
アルト 渡辺 敦子  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 大代 恵



## 第57回

2024年12月21日  
指揮 山下 一史  
ソプラノ 松下 悦子  
アルト 永松 圭子  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 高橋 聖子



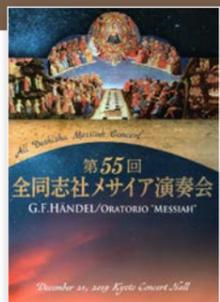
## 第54回

2018年12月24日  
指揮 山下 一史  
ソプラノ 松下 悦子  
アルト 渡辺 敦子  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 大代 恵



## 第55回

2019年12月24日  
指揮 垣内 悠希  
ソプラノ 高島 依子  
アルト 渡辺 敦子  
テノール 小貫 岩夫  
バス 井原 秀人  
チェンバロ 井幡 万友美  
オルガン 高橋 聖子



※20年で18回です  
2020年と2021年はコロナで中止

## 同グリよもやま話③

### 幻の第66回定期演奏会

広報担当運営理事 松本 裕士 (昭和62年卒)



#### 【序】

昭和62年卒の松本と申します。約2年前OB会のホームページ担当になった時に同志社グリーの資料が散逸していることを憂う声をたくさん聞きました。私も残念に思いましたので資料の収集・整理に着手いたしました。資料のデジタル化については100周年の時に坂東さん(S44年卒)藤田さん(S44年卒)がバーチャルグリー会館としてまとめていただいたものがベースになっています。音源はYouTubeチャンネル。パンフレットの一部はホームページに掲載しています。お二人に感謝いたします。

#### 【幻の第66回定期演奏会】

資料を整理していてもわからないことができてきました。それが第66回定期演奏会についてです。“創立80周年誌—同志社グリー80年の歩み”の昭和45年(1970年)p.132には「そして12月10日、第66回定期演奏会が京都会館第2ホールで開催された。」と簡単に1行だけ記載されています。戦後の定期演奏会のパンフレットの表紙と曲目紹介はこの回を除きすべて写真で掲載されているので、演奏曲目が分からない唯一の定演でもあります。

この年から4年後、第70回定期演奏会(1974年)のパンフレットの第3ステージ“さすらう若人の歌”福永陽一郎先生による曲目紹介には「同志社グリーで私がやるのは二度目である。一度目は知る人ぞ知る“うらみの東京演奏会”のときで、演奏は成功ではなかった。その年の定期演奏会は無かったから、地元の京都では同志社グリーは一度もこの曲を歌っていない。・・・」とあります。はじめ私はもしかしたらこの年の定演は無かったのかも、いや体調のこともあり定演にお呼びしなかったから福永先生の記憶の中では無かったことになっているのかもと考えておりました。

その後、この世代のOBに会うたびにこの定演のことを質問してみました。ここで第66回定期演奏会をわかりやすく言うと「高田英生さんが4回生で学生指揮者の年の定期演奏会」ということとなります。このほうがイメージしやすいかと思います。皆さん共通しておっしゃるのは「学園紛争が盛んになり、学校は封鎖され、練習場にも事欠き。また部員も激減して大変であった」ということです。若いOBには学園紛争といってもわからない方が多いと思いますが、毎日デモばかりしている、学校は封鎖され機能しない、極端な左翼学生は内部分裂し山の中で殺しあいをする。という今からは想像もできない時代でした。

先輩の声を聞く中で思ったことは、この演奏会に対する皆さんの思い出がほんとにばらばらということです。本当に第66回定期演奏会はあったのでしょうか無かったのでしょうか？

この答えは開催されていればオンステメンバーであった方々に出してもらいたいと思い、高橋さん(S47卒)相川さん(S47卒)に疑問を投げかけました。ほどなくご返事をいただきました。大切な証言なので以下いただいたメールをそのまま掲載します。

「第66回定期演奏会は開催されなかったと思われる」その根拠となる情報です。

- ① その年の第19回四連のパンフには12/10京都会館第2ホール開催予定とあるが
  - ・京都会館に問い合わせたが使用記録がない。(相川→松本調べ)
  - ・S46外政S氏が「京都会館が抑えられなかった」と団員に謝罪した。(四連の京都公演で京都会館が抑えられなかったという説もあり)
  - ・S46幹事長が学指揮に「東京演奏会を定演にしよう」と言った。
- ② S47同期の話
  - ・技術系の方2名から四連の後に定演はなかったと思うと返信あり。
  - ・「2年上の先輩から何で定演やらないんだ」と叱られた。
  - ・例年6月開催の四連が10月下旬にあり定演はなかったと思う。
  - ・京都会館に借金があり資金がなくホールが取れなかった。
  - ・パンフレットが見つからない。いくら何でも一冊も見つからないのはおかしい。(開催されていないので存在しない?)

また、ほぼ同時に平井さん(S48卒)からも「48年(当時2回生)としての結論は66回の定期演奏会は学生運動でやらなかった」というメールも頂きました。

以上のことより「第66回定期演奏会は開催されなかった。」がオンステメンバーにだしていただいた結論になるのかなと思います。ただ、断言する方はほぼおらず約50年前ということもあり、結論付けるのは早計かもしれません。もし何か他に覚えている方いらっしゃいましたら是非お知らせいただきたいと思います。

ご協力いただいた先輩方ありがとうございました。



## 物好きの覚悟

— 120年の調べに寄せて —

第108期マネージャー  
福田 実奈 (平成25年卒)

※写真右端が福田実奈さん

ジェンダー観やコンプライアンス意識が変化を続ける昨今、「女子マネージャー」という役割もまた、時代と共にその在り方を問われつつある。それでも私がマネージャーを選んだ理由はただ一つ、男声合唱を愛していたからだ。それ以上でもそれ以下でもない。

生まれて初めて男声合唱を生で聴いたのは、高校に上がる直前の春休みであった。地元でなにわコラリアーズが演奏会を開いていたのを聴きに行ったのがきっかけで、すっかり男声合唱に魅せられてしまった。人生を変えられてしまったと言っても過言ではないだろう。

そして紆余曲折を経て同志社グリークラブと関わることになった。全国大会で金賞を獲る、演奏会でホールを満席にする（一度溢れさせてしまったこともあったが）、新歓で3トン分（100kg×30人）の新生生を入れる……このような、大学生活を賭ける価値のある目標に向かって共に走ることができる唯一の手段がマネージャーだった。

情宣、集客管理、譜めくり、ロビーマネジメント、やるべき仕事はいくらでもあった。幸い器用貧乏な性分で、突出した技能はなくとも大抵のことは問題なくこなせたが、演奏に加われない空白を埋めるように働き続けた日々は、青春の時間をわざわざ人のために費やす、ある意味で「物好き」な選択であった。それでも私は、男声合唱にはその価値があると信じていた。だからこそ、本気で向き合う覚悟がなければ、マネージャーを務める

必要はない。中途半端に関わるくらいなら、むしろ関わらない方が健全かもしれない。

数が力となる団員と違い、マネージャーは少数でも責任と成果で存在意義を示さねばならない。「自分がいなくても団は成り立つ、だからこそ、いるからには全力で貢献する」。そのような緊張感と使命感こそ、この役割の本質だと感じている。

言わば執念にも似た思いで、何を目指して働いていたのだろうか。一つは満員の客席で演奏会を迎えること。一つは全国大会金賞。後者は2024年度に現役が悲願を叶えてくれた。共に夢を目指す立場、マネージャーとして生きた大学生活は今でも自分の誇りである。

120周年という節目に際し、マネージャーという役割もまた、グリークラブを支える大切な一部であると改めて感じている。華やかな舞台を支える泥臭い仕事に、覚悟を持って挑む人間がいるからこそ、歌の力はさらに大きくなる。私がそう信じていたように、これからも誰かが信じ続けてくれることを願っている。

新たな歴史を刻んでいくグリークラブの姿を、心から楽しみにしている。120年という重みを力に変え、さらに未来へと歩んでいくその旅路を、現役の頃と変わらぬ気持ちで、陰ながら応援し続けたい。

## 117期女子マネージャーの記録

第117期マネージャー  
井上 澪 (令和4年卒)



この度、私たち同志社グリークラブ117期の女子マネージャーについて記録を残させていただけるとのこと、大変嬉しく思います。

私たちは久しく女子マネがない中で発足した代でしたので、仕事内容も常に手探りの状況でした。それぞれのマネージャーが、自分たちにできることは何か考えながら活動していたと記憶しています。具体的な内容としては、以下の通りです。

### < 通常業務 >

- ・会計業務
- ・渉外業務
- ・演奏会曲目練習時の譜めくり

### < 演奏会準備関連 >

- ・チケットの販促活動、管理
- ・ステージ進行案の作成、ホールとの打ち合わせ
- ・演奏会の裏方業務で使用する備品の用意

### < 演奏会の当日業務 >

- ・当日の受付、フロア案内業務
- ・当日チケット販売業務
- ・当日のステージ進行補佐、転換業務
- ・CD、DVD等のグッズの販売、郵送手配
- ・影アナウンス
- ・伴奏者の譜めくり

当時の活動について、117期マネージャー4人より、以下それぞれ感想をもらいました。

久しぶりの女子マネ入団だったため、自分たちに何ができるのか？何をすべきなのか？常に手探りで進んでいたように思います。やってみたいことは何でもチャレンジでき、上手くないことも多々ありましたが楽しかったです。

(落合 里菜)

高校時代は吹奏楽部に所属し、自分がステージに立つ側でしたが、大学では女子マネとしてステージを見守る立場となり、その環境の変化を経験できたことは非常に貴重だったと感じています。また、高校までに培った音楽やステージ進行に関する知識を大学でも活かすことができ、とても楽しかったです。

(井上 澪)

初めてのマネージャー業務で、最初は何から手を付けて良いかわからず、他の女子マネに助けをもらいながら業務を覚えました。2年目から担当したPC業務も先輩が根気強く教えてくださり、苦手意識を克服することができました。貴重な機会になりました。

(安元 明日香)

マネージャー業務は初めてで、戸惑うことも多くありましたが、みんなと一緒に考え実行する楽しさや、達成感を得られました。同志社グリークラブのマネージャーだったからこそ得られた貴重な経験だったと思います。

(吉田 彩乃)



## 女子マネージャーの存在意義

第118期マネージャー  
古澤 菜 (令和5年卒)

私たち118期女子マネージャーは3名おり、それぞれステージマネージャー・広報・渉外資料備品管理などを担当していました。私はその中でステージマネージャーを務め、ステージ全体の管理を担当しました。具体的には、練習や本番のタイムスケジュール作成、舞台袖での進行確認、備品の運搬や配置調整などです。演者ではない自分が舞台を管理することは大きな挑戦であり、団員の動きを理解しつつ全体を俯瞰する難しさを痛感しました。しかし、観客の視点を意識して舞台を整えられたのは、演者ではない立場だからこそその強みであったと今では感じています。また、OBの皆様をはじめ多くの先輩方の支えを受け、大きな問題なくステージを運営を続けられたことにも感謝しています。

一方で、女子マネージャーとしての存在意義については4年間考え続けました。自分は歌わず、直接舞台に立つこともな

いため、本当に役に立てているのかと悩む日々もありました。それでも、歌い手たちがより集中して歌える環境を整えることこそが私たちの役割であり、その積み重ねが団全体を支える力になっているのだと気づく瞬間がありました。この経験を通じて、裏方の仕事の尊さを学び、自分なりの存在意義を見出せたと感じています。

現在は音楽に関わる仕事をしています。現在の経験が土台となり、表舞台を陰で支える視点は今の業務にも生きています。グリークラブでの4年間は、とても有意義で忘れられない学びの時間でした。



## 120期のマネージャー

第120期マネージャー  
杉原 光 (令和7年卒)

私は120期のマネージャーとして、在団中に広報・会計・渉外・資料備品など多岐にわたる役割を務めました。特に4回生では会計チーフとしてクラブの財政基盤の立て直しに尽力すると同時に、第120回記念演奏会の運営責任者を務めました。120期は特に団員数が少なく、役職ごとに細かく分担する余裕がない状況であったため、誰かが不足を補う形で運営していました。そのため「役職で動く」というよりも、運営を理解している者がその都度動くという体制になっていたのが特徴だったと思います。

会計業務に関しては、予算案の作成や大学支援課への申請、領収書の整理といった基本的な業務に加え、そもそも会計の仕組み自体が十分に整っていなかったため、一から基盤を整備する必要がありました。OB会の皆様にご助言をいただきながら収支管理の方法を明確にし、予算案や決算の報告体制を築いていったことは、大きな成果であったと感じています。また、第120回記念演奏会ではチケット管理、当日の進行表作成、関係各所との打ち合わせなど幅広い業務を担いました。節目の公演ということもあり、例年以上の責任を感じながら準備を進めましたが、無事成功を収めることができたのはOB会の皆様のご支援、そして共に奮闘してくれた後輩たちのおかげだと深く

感じております。

振り返れば、私のグリークラブでの4年間は常に不安とプレッシャーの中でありました。3回生の時に先輩マネージャーが卒団され、十分な知識や経験がないままチーフを任されました。後輩を導く責任や自身の音楽活動との両立に悩み、思いがけない問題が次々と起こるたびに、辞めたいと思ったことも何度もありました。しかし不思議なことに、そのたびに私の業務は増え、辞めることなく走り続けているうちに、いつしか団員から頼られる存在となっていました。結果として、自分でも想像していなかったほど多くの経験を積むことができたと思います。本来、マネージャーとしてあるべき姿だったのかどうかは定かではありませんが、少しでも貢献できていたのなら嬉しく思います。

現在は音楽関係の仕事に就き、自ら演奏会の公演をしています。グリークラブでの4年間は決して楽ではありませんでしたが、これほど多様で実践的な経験を積める団体は他にないと確信しています。これからの現役生も、マネージャーの存在意義や予想外の問題に直面することがあるかもしれませんが、どうか目の前のことに一生懸命に取り組み、有意義なグリーライフを送られることを願っております。

# 同志社グリークラブ・クローバークラブ初演曲について

## 同グリよもやま話④

### 組曲「雪と花火」

脇地 駿（昭和34年卒）

この組曲と同志社グリーとの出会いは1956年末頃、第2曲「彼岸花」が作曲家令弟多田雅彦氏(2TPL)を通じて指揮者河原林昭良にもたらされたことである。この曲は早速翌1957年1月のフェアウェルコンサートで「日本の歌」ステージの一つとして歌われた。組曲としての作曲依頼は当然なされたと思われるが、筆者は語るべき記録・記憶を持ち合わせないのが残念である。組曲として追加されたタイミングは1957年春季演奏旅行直前、それも第1曲「片恋」と第3曲「芥子の葉」の2曲で、演奏旅行は3曲だけの組曲でスタートした。3月の春季中国九州演奏旅行の初日（3月10日）舞鶴演奏会が初演である。出発後、旅館に届いた終曲「花火」は移動車中で譜読み、宿で合わせ練習を繰り返し、3月16日広島演奏会において全曲揃えてのオンステにこぎつけた。ただ一つ「芥子の葉」は作曲者の意向で演奏旅行終了後新版に変更・取り替えられた。決定版での

組曲としては同年6月16日のカリフォルニア大学グリー演奏会に賛助出演して歌ったのが初演となる。ついながら、この練習に作曲家多田氏がお見えになり、「私にとって、同志社グリーは深い藍色のイメージ」として、作曲中絶えず氏の脳裏を去来していたことが語られ、大変印象深かったことを思い出す。



広島演奏会 パンフレット

### 120周年記念の委嘱初演について

同志社グリークラブ 第89代学生指揮者  
小嶋 響（令和7年卒）

委嘱初演についての構想が上がったのは入団当初、120期の節目の代であることを知らされたときにまで遡ります。その際に青写真として描くモデルになったのは、やはり110周年を記念して先輩方が委嘱初演をした「帆を上げよ、高く」でした。我々も「帆を上げよ、高く」のような多くの合唱団で演奏される曲を委嘱初演として演奏したいという悲願を胸に「シーラカンス日和」などで知られる田中達也先生に依頼を申し出たのを記憶しています。そしていただいた作品が、今回演奏した「Time passes」でした。「Time passes」は田中先生が同志社グリークラブに期待を込めて作曲された作品であると、楽譜との対話を重ねる中でひしひしと感じておりました。様々な詩について田中先生とは検討しましたが、著作権の問題で数々の詩が棄却されることとなり、作曲の段階に至るまでにかなりの時間を要してしまいました。（まさに「Time passes」とはこのことかと言うが如く。）それにもかかわらず、演奏会に間に合うよう作曲してくださった田中先生には頭が上がりませ

ん。また、一か月前に全ての楽譜をいただくことができましたが、その短い練習期間で質の高い演奏をしてくれた仲間たちと、指揮、ピアノ伴奏それぞれでお力添えいただきました伊東恵司先生、水戸見弥子先生の両先生方にも心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



Time passes の楽譜

### 同志社グリークラブ初演曲一覧

曲 目	作曲者	作詩者(作詞者)	初演指揮者	年月日
男声合唱組曲「雪と花火」	多田 武彦	北原 白秋	河原林 昭良	1957年(S32) 3月16日
我が歳月	大中 恩	坂田 寛夫	福永 陽一郎	1964年(S40) 6月13日
9つのフランス民謡(編曲委嘱)	フランス民謡より 福永 陽一郎(編曲)		福永 陽一郎	1964年(S40) 11月18日
十の詩曲による六つの男声合唱曲(編曲委嘱)	ショスターコービッチ 福永 陽一郎(編曲)	安田 二郎(訳詞)	福永 陽一郎	1965年(S42) 6月13日
ぼくたちの挨拶	大中 恩	坂田 寛夫	広野 寛	1966年(S41) 11月21日
MESSA ALLA CAPELLA	渋谷 和彦	ミサ通常文より	福永 陽一郎	1966年(S41) 12月13日
リヒャルト・シュトラウス歌曲集より「愛の詩集」(編曲委嘱)	R.シュトラウス 福永陽一郎(編曲)		福永陽一郎	1967年(S42) 6月18日
夜の扉	福永 陽一郎	串田 孫一	広野 寛	1967年(S42) 11月24日
南風の歌(はやのうた)(編曲委嘱)	沖縄民謡・ 福永 陽一郎(編曲)		富岡 健	1973年(S48) 12月10日
男声合唱組曲「三崎のうた」(新版初演)	多田 武彦	北原 白秋	須藤 彰治	1983年(S58) 6月20日
花之伝言(はなのことづて)	石井 欽	中村 千栄子	富岡 健	1983年(S58) 12月17日
Hiawatha's Wedding Feast(編曲委嘱)	S.C-Taylor・ 福永 陽一郎(編曲)	H.W.Longfellow	福永 陽一郎	1987年(S62) 12月16日
新川和江の三つの詩	石丸 寛	新川 和江	石丸 寛	1994年(H06) 12月20日
祝典曲 GLORIA	池辺 晋一郎		浅井 敬壹	2004年(H16) 10月10日
minimal - for male voices	松下 耕	谷川 俊太郎	松下 耕	2005年(H17) 12月10日
American Folk Songs(編曲委嘱)	北川 昇(編曲)		伊東 恵司	2007年(H19) 12月15日
British Folk Songs(編曲委嘱)	北川 昇(編曲)		伊東 恵司	2009年(H19) 12月12日
X'mas Songs(編曲委嘱)	松波 千映子(編曲)		伊東 恵司	2010年(H22) 12月19日
クリスマスの夜に(オリジナル曲)	松波 千映子	みなづき みのり	伊東 恵司	2010年(H22) 12月19日
Christmas Songs(編曲委嘱)	松波 千映子(編曲)		伊東 恵司	2011年(H23) 12月10日
さびしがりやのサンタクロース(オリジナル曲)	松波 千映子	みなづき みのり	伊東 恵司	2011年(H23) 12月10日
風になる笛(改訂版)	高嶋 みどり	谷川 俊太郎	伊東 恵司	2013年(H25) 6月30日
帆を上げよ、高く	信長 貴富	みなづき みのり	伊東 恵司	2014年(H26) 12月 7日
夏の最後の薔薇 ～日本語で歌うイギリスの歌～	山下 祐加(編曲)	みなづき みのり	伊東 恵司	2018年(H30) 1月14日
Time passes	田中 達也	和合 亮一	伊東 恵司	2025年(R07) 2月11日
歌よ羽ばたけ	田中 達也	みなづき みのり	伊東 恵司	2025年(R07) 2月11日

### クローバークラブ初演曲一覧

曲 目	作曲者	作詩者(作詞者)	初演指揮者	年月日
男声合唱のための三つの日本民謡・機織唄・最上川舟唄・牛追い唄	清水 脩	北原 白秋	河原林 昭良	1958年(S33) 7月 6日
山に祈る(男声版・初演)	清水 脩	清水 脩	日下部 吉彦	1960年(S35) 6月27日
白いクレヨン	服部 公一	寺山 修司	日下部 吉彦	1965年(S40) 7月 5日
落語による合唱組曲「おとこはおとこ」	大中 恩	坂田 寛夫	日下部 吉彦	1966年(S41) 7月11日
水のいのち(男声版・初演)	高田 三郎	高野 喜久雄	河原林 昭良	1972年(S47) 4月10日
冬の旅(F.シューベルト)	吉岡 弘行	W.ミュラー	吉岡 弘行	2000年(H12) 7月20日
レクイエム(G.フォーレ)	吉岡 弘行		吉岡 弘行	2002年(H12) 6月22日
男声合唱組曲「更紗模様」	多田 武彦	北原 白秋	山下 裕司	2009年(H21) 3月14日
男声合唱組曲「落葉松と焚火」	多田 武彦	北原 白秋	小林 香太	2011年(H23) 3月26日

## 同志社グリークラブ

## 同志社史 世相

### 2005年 (第101期)

平成17年

- 2月12日 第100期卒団性のためのフェアウェルコンサート 寒梅館ハーディーホール
- 6月26日 第54回東西四大学合唱演奏会 昭和女子大学人見記念講堂
- 8月7日 信州大学グリークラブ・北海道大学合唱団・同志社グリークラブ ジョイントコンサート 寒梅館ハーディーホール
- 12月10日 第101回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 12月24日 第41回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 2006年2月11日 第101期卒団生のためのフェアウェルコンサート 寒梅館ハーディーホール

- 創立130周年を迎え、記念事業を行う
- 4月 [大学] 文学部再編、社会学部、文化情報学部開設
- 6月 アーモスト館が登録有形文化財に登録される
- 8月8日: 郵政民営化法案が参議院で否決され、小泉首相が衆議院を解散。
- 9月11日: 小泉純一郎による衆議院総選挙が実施され、自民党が圧勝し戦後最大の議席を確保。
- 9月25日: 愛・地球博(愛知万博)が閉幕。

### 2006年 (第102期)

平成18年

- 4月 伊東恵司氏技術顧問就任
- 6月25日 第55回東西四大学合唱演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 9月16日 久留米演奏会 久留米市石橋文化ホール
- 9月16日 バッカスフェスタ 東りいたみホール
- 12月9日 第102回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 12月24日 第42回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 2007年2月17日 第102期卒団生のためのフェアウェルコンサート 寒梅館ハーディーホール

- 4月 [大学] 工学部知識工学科をインテリジェント情報工学科に名称変更
- 4月 [同志社小学校] 開校
- 11月 [大学] 学研都市キャンパス開設
- 1月16日~18日: ライブドア事件で東京地検が捜査、証券取引所が売り注文過多で停止(ライブドア CEO 逮捕)。
- 2月23日: アルペールビル冬季五輪で荒川静香が女子フィギュア金メダル獲得。
- 12月1日: 日本全国で地上デジタル放送受信可能に。

### 2007年 (第103期)

平成19年

- 7月1日 第56回東西四大学合唱演奏会 昭和女子大学人見記念講堂
- 8月17日~19日 軽井沢合唱フェスティバル2007 軽井沢大賀ホール
- 10月8日 第62回関西合唱コンクール(金賞) 東りいたみホール
- 11月10日 第60回全日本合唱コンクール(銀賞) 東京文化会館大ホール
- 12月15日 第103回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 12月24日 第43回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 2008年2月23日 第103期卒団生のためのフェアウェルコンサート 寒梅館ハーディーホール

- 7月 啓明館が登録有形文化財に登録される
- 5月17日: 年金記録問題が発覚。社保庁のずさんな管理が批判される(「消えた年金」問題)。
- 7月29日: 参議院選挙で自民党が大敗。民主党が第1党に。
- 9月12日: 安倍晋三首相が突然の辞任表明。後任に福田康夫が選出される。

### 2008年 (第104期)

平成20年

- 6月18日 エール大学ウィッフェンブーフス演奏会 寒梅館ハーディーホール
- 6月27日 第57回東西四大学合唱演奏会 NHK大阪ホール
- 8月15日 長野演奏会 長野県立文化会館
- 12月13日 第104回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 12月24日 第44回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 2009年2月14日 第104期卒団生のためのフェアウェルコンサート 寒梅館ハーディーホール

- 4月 [大学] 生命医科学部、スポーツ健康科学部、生命医科学研究科を開設。工学部を理工学部名称変更
- 6月8日: 秋葉原通り魔事件発生。7人死亡、10人負傷。
- 9月15日: リーマン・ショックが世界経済を直撃。日本でも株価急落・景気後退。
- 9月24日: 福田康夫首相が辞任。麻生太郎が新首相に就任。

## 同志社グリークラブ

## 同志社史 世相

### 2009年 (第105期)

平成21年

- 6月16日 エール大学ウィッフェンブーフス演奏会 寒梅館ハーディーホール
- 7月5日 第58回東西四大学合唱演奏会 昭和女子大学人見記念講堂
- 8月19日 信州大学グリークラブ ジョイントコンサート 寒梅館ハーディーホール
- 10月12日 第64回関西合唱コンクール(金賞1位) 東りいたみホール
- 11月22日 第62回全日本合唱コンクール(銀賞) 札幌コンサートホール kitara
- 12月13日 第105回同志社グリークラブ定期演奏会 文化バルク城陽プラムホール
- 12月24日 第45回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 2010年2月13日 第105期卒団生のためのフェアウェルコンサート 寒梅館ハーディーホール

- 4月 [大学] 心理学部設置。神学部と社会学部、1、2年次生を含む全学年の教育を今出川校地で展開
- [女子大学] 学芸学部英語英文科、日本語日本文学科が今出川校地に移転。表象文化学部開設
- 3月4日: 裁判員制度の運用開始に向けた準備が本格化。
- 8月30日: 衆議院選挙で民主党が歴史的圧勝。自民党は政権交代で野党に転落。
- 9月16日: 鳩山由紀夫が首相に就任。民主党政権が発足。

### 2010年 (第106期)

平成22年

- 2月13日 遠藤彰先生追悼記念礼拝 同志社礼拝堂
- 6月27日 第59回東西四大学合唱演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 8月12日 静岡演奏会 静岡音楽館 AOI
- 8月14日 ジョイントコンサート
- 10月11日 第65回関西合唱コンクール(金賞) 東りいたみホール
- 12月19日 第106回同志社グリークラブ定期演奏会 寒梅館ハーディーホール
- 12月24日 第46回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 2011年2月19日 第106期卒団生のためのフェアウェルコンサート 寒梅館ハーディーホール

- 創立135周年を迎え、記念事業を行う
- 4月 [大学] スポーツ健康科学研究科、グローバル・スタディーズ研究科開設
- 9月 [大学] 多々羅キャンパス開設
- 1月19日: 日本航空(JAL)が経営破綻。会社更生法を申請し、再建へ。
- 5月21日: JAXAが金星探査機「あかつき」を打ち上げ。日本初の金星探査。
- 6月13日: 小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還。イトカワのサンプルを持ち帰る快挙。

### 2011年 (第107期)

平成23年

- 6月19日 エール大学ウィッフェンブーフス演奏会 京都府立府民ホールアルティ
- 6月27日 第60回東西四大学合唱演奏会 昭和女子大学人見記念講堂
- 8月24日 信州大学グリークラブ・北海道大学合唱団・横浜国立大学グリークラブ・同志社グリークラブ サマーコンサート 京都府立府民ホールアルティ
- 10月10日 第66回関西合唱コンクール 東りいたみホール
- 11月19日 全日本合唱コンクール(銀賞) 青森市文化会館大ホール
- 12月10日 第107回同志社グリークラブ定期演奏会 寒梅館ハーディーホール
- 12月24日 第47回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 2012年2月18日 第107期卒団生のためのフェアウェルコンサート 寒梅館ハーディーホール

- 4月 [大学] グローバル・コミュニケーション学部開設 [同志社国際学院] 初等部開校
- 9月 [同志社国際学院] 国際部開校
- 3月11日: 東日本大震災(マグニチュード9.0)が発生。死者・行方不明者約2万2千人。
- 3月12日~: 福島第一原発1号機で水素爆発、続いて3月14日・15日にも2号機・3号機が爆発。
- 8月26日: 菅直人首相が退陣表明。後任に野田佳彦が選出される。

### 2012年 (第108期)

平成24年

- 3月2日 朝日放送「探偵! ナイトスクープ」に協力出演
- 4月21日~22日 コーラスめっせ(復活六連)
- 7月1日 第61回東西四大学合唱演奏会 武庫川女子大学公江記念講堂
- 8月26日 三大学サマーコンサート 寒梅館ハーディーホール
- 10月8日 第67回関西合唱コンクール(金賞) 東りいたみホール
- 10月12日~15日 同志社大学キャンパスフェスタIN青森 青森市、風間浦村 他
- 11月11日 片桐哲先生ご永眠30年記念礼拝 同志社女子大学栄光館
- 11月24日 全日本合唱コンクール(銀賞) 富山市芸術文化ホール
- 12月1日 武庫川女子大学音楽部定期演奏会出演 武庫川女子大学公江記念講堂
- 12月4日 神戸女学院大学音楽部メサイア演奏会 兵庫県立芸術文化センター
- 12月15日 第108回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 12月24日 第48回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール 大ホール
- 2013年2月16日 第108期卒団生のためのフェアウェルコンサート 寒梅館ハーディーホール

- 4月 [大学] 脳科学研究科開設、工学研究科を理工学研究科に名称変更 [女子大学] 薬学研究科開設
- 10月 良心館(今出川キャンパス)、志高館(烏丸キャンパス)竣工。
- 4月27日: 人気通信アプリ「LINE」が日本で正式リリースされる。
- 9月11日: 政府が尖閣諸島を国有化。中国で大規模反日デモ。
- 12月16日: 衆議院選挙で自民党が大勝、安倍晋三が首相に復帰。

## 同志社グリークラブ

## 同志社史 世相

### 2013年 (第109期)

平成25年

6月30日 第62回東西四大学合唱演奏会 すみだトリフォニーホール  
 8月28日 三大学グリークラブ サマーコンサート 寒梅館ハーディーホール  
 10月13日 第68回関西合唱コンクール(金賞) 東りいたみホール  
 11月23日 第66回全日本合唱コンクール(銀賞) 千葉文化会館  
 12月1日 第109回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール 大ホール  
 12月14日 武庫川女子大学音楽部定期演奏会出演 武庫川女子大学公江記念講堂  
 12月15日 コープこうべクリスマスコンサート コープこうべ  
 12月24日 第49回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール 大ホール  
 2014年2月15日 第109期卒団生のためのフェアウェルコンサート  
 寒梅館ハーディーホール

4月 **[大学]** 文学部、法学部、経済学部、商学部の1・2年次教育を今出川校地へ。それにより学部教育がそれぞれの校地で完結する教学体制が完成／グローバル地域文化学部開設  
**[女子大学]** 音楽専攻科開設  
 4月4日: 日銀が異次元の金融緩和を発表。アベノミクス本格始動。  
 9月7日: 東京が2020年オリンピック開催地に決定。  
 10月16日: 台風26号により伊豆大島で大規模土砂災害発生。

### 2014年 (第110期)

平成26年

4月21日～22日 コーラスめっせ 2014  
 6月21日 第63回東西四大学合唱演奏会 京都コンサートホール 大ホール  
 9月1日 九州大学混声合唱団、金城学院大学グリークラブとのジョイント福岡市民会館 大ホール  
 10月12日 第69回関西合唱コンクール(金賞2位) 東りいたみホール  
 10月25日 ヴォーリス・メモリアム IN 近江八幡 近江八幡市近江兄弟学園  
 12月6日 創立110周年記念式典 新島会館礼拝堂  
 12月7日 第110回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール 大ホール  
 12月24日 第50回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール 大ホール  
 2015年2月14日 第110期卒団生のためのフェアウェルコンサート  
 寒梅館ハーディーホール

4月 **[同志社国際学院]** 同志社国際学院国際部(DISK)国際バカロレア(International Baccalaureate)のPrimary Year Programmeの認定校に  
 4月1日: 消費税が5%から8%に増税。  
 7月1日: 集団的自衛権の行使容認を閣議決定。  
 11月18日: 安倍首相が衆議院を解散表明。

### 2015年 (第111期)

平成27年

2月21日 コープこうべ依頼演奏 コープカルチャー生活文化センター  
 2月23日～26日 春合宿 同志社大学びわこリトリートセンター  
 4月18日～19日 コーラスめっせ 2015 いずみホール  
 6月6日 北村先生依頼演奏 高槻市現代芸術劇場  
 6月9日 豊春中学校依頼演奏 寒梅館ハーディーホール  
 6月28日 第64回東西四大学合唱演奏会 すみだトリフォニーホール  
 7月中旬 祇園祭山鉾巡業  
 8月26日 三大学サマーコンサート(立教グリー・金城学院グリー)  
 寒梅館ハーディーホール  
 8月31日～9月5日 夏合宿 ホテル谷常  
 9月下旬 同志社大学秋学期入学式 寒梅館ハーディーホール  
 10月11日 第70回関西合唱コンクール(金賞2位) 伊丹ホール  
 12月12日 第111回同志社グリークラブ定期演奏会 いずみホール  
 12月24日 第51回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール  
 2016年2月11日 第111期卒団生のためのフェアウェルコンサート  
 寒梅館ハーディーホール

創立140周年を迎え、記念事業を行う  
 4月 **[女子大学]** 看護学部開設  
 1月20日: イスラム国が日本人ジャーナリスト拘束を発表。  
 9月19日: 安全保障関連法が参議院で可決・成立。  
 10月5日: マイナンバー制度が開始。

### 2016年 (第112期)

平成28年

2月16日～22日 マレーシア演奏旅行 クアラルンプール・イポー・ペナン  
 6月26日 第65回東西四大学合唱演奏会 兵庫県立芸術文化センター  
 8月24日 三大学サマージョイントコンサート(信州大学混声・金城学院グリー)  
 寒梅館ハーディーホール  
 10月9日 第71回関西合唱コンクール(金賞2位) 東りいたみホール  
 12月3日 第112回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール  
 12月24日 第52回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール  
 2017年2月11日 第112期卒団生のためのフェアウェルコンサート  
 寒梅館ハーディーホール

4月14日・16日: 熊本地震が発生。最大震度7。  
 8月11日: 新祝日「山の日」が初実施。  
 8月22日: リオ五輪で日本が過去最多41個のメダル獲得。

## 同志社グリークラブ

## 同志社史 世相

### 2017年 (第113期)

平成29年

4月16日 コーラスめっせ2017 TWIN21アトリウムコンサート  
 6月4日 京都合唱祭 ロームシアター  
 6月25日 第66回東西四大学合唱演奏会 すみだトリフォニーホール  
 7月1日～2日 新歓合宿 同志社大学びわこリトリートセンター  
 7月16日～17日 祇園祭山鉾巡業  
 8月23日 三大学サマージョイントコンサート(立教大学グリー・金城学院グリー)  
 寒梅館ハーディーホール  
 10月8日 第72回関西合唱コンクール(金賞1位) 東りいたみホール  
 10月31日 NHK「うたごころ」出演 東りいたみホール  
 11月25日 全日本合唱コンクール全国大会(銀賞) 東京芸術劇場  
 12月9日 第50回武庫川女子大学音楽部定期演奏会(賛助出演) 武庫川女子大学公江記念講堂  
 12月24日 第53回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール  
 2018年1月14日 第113回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール  
 3月18日 第113期卒団生のためのフェアウェルコンサート  
 寒梅館ハーディーホール

同志社大学チュービゲン EU キャンパス開設。  
 「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」開始。  
 第18代総長に八田英二教授(同志社大学経済学部)が選出されました。  
 4月1日: プレミアムフライデー開始。  
 7月22日: 上野動物園でパンダの赤ちゃん「シャンシャン」誕生。  
 10月22日: 衆院選で自公圧勝、立憲民主党が野党第1党に。

### 2018年 (第114期)

平成30年

3月18日 第113期卒団生のためのフェアウェルコンサート 寒梅館ハーディーホール  
 6月24日 第67回東西四大学合唱演奏会 京都コンサートホール  
 8月21日～26日 夏季演奏旅行(愛知～長野)  
 8月22日 三大学サマージョイントコンサート(立教大学グリー・金城学院グリー)  
 東海市芸術劇場  
 8月24日 浜松交友会招待演奏会 アクティシティ浜松  
 8月25日 軽井沢国際合唱フェスティバル参加  
 9月下旬 同志社フェア in 広島  
 10月7日 第73回関西合唱コンクール(金賞) 東りいたみホール  
 12月24日 第54回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール  
 2019年2月19日 第114回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール  
 2月19日 第114期卒団生のためのフェアウェルコンサート  
 寒梅館ハーディーホール

ALL DOSHISHA教育推進プログラム  
 6月18日: 大阪北部地震発生。死者5人。  
 7月6日～8日: 西日本豪雨で広範囲に甚大被害。死者200人超。  
 11月19日: 日産のゴーン会長が逮捕。

### 2019年 (第115期)

令和元年

3月11日 コールメイプルスプリングコンサート出演 ウィングス京都  
 4月20日～21日 コーラスめっせ TWIN21 アトリウムコンサート  
 5月20日 ラーマン大学交流演奏会 寒梅館ハーディーホール  
 5月26日 京都合唱祭 ロームシアター  
 6月22日 第68回東西四大学合唱演奏会 すみだトリフォニーホール  
 8月21日 第25回同立交歓演奏会 寒梅館ハーディーホール  
 8月25日 TAKASAGO夢舞台出演 兵庫県立芸術文化センター  
 10月13日 第74回関西合唱コンクール(金賞) 東りいたみホール  
 11月23日 第72回全日本合唱コンクール(銀賞) ロームシアター京都  
 12月21日 第55回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール  
 2020年2月16日 第115回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール  
 3月1日 第115期卒団生のためのフェアウェルコンサート(中止)  
 寒梅館ハーディーホール

4月30日: 平成が終わり、明仁天皇が退位。  
 5月1日: 令和時代が始まる。徳仁天皇即位。  
 7月18日: 京都アニメーション放火事件発生。死者36人。  
 10月1日: 消費税が8%から10%に引き上げ。軽減税率制度も同時導入。

## 同志社グリークラブ

## 同志社史 世相

### 2020年 (第116期)

令和2年

4月22日 コールメイブルスプリングコンサート(中止)  
 10月 第75回関西合唱コンクール(中止) 東リいたみホール  
 6月28日 第69回東西四大学合唱演奏会(中止) 兵庫県立芸術文化センター  
 8月28日 武庫川女子大学コーラス部ジョイント(中止) 寒梅館ハーディーホール  
 12月25日 第56回全同志社メサイア演奏会(中止) 京都コンサートホール  
 2021年1月17日 第116回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール  
 3月1日 第116期卒団性のためのフェアウェルコンサート(無観客)  
 寒梅館ハーディーホール

新型コロナ対応と教育体制の見直し  
 新奨学金制度の運用開始

1月16日: 日本で初の新型コロナウイルス感染者が確認される(武漢からの渡航者)。  
 3月2日: 全国の小中高校が臨時休校開始。政府の要請による異例の措置。  
 4月7日: 緊急事態宣言が東京など7都府県に発令。のちに全国へ拡大。  
 7月23日: 東京オリンピックの延期が正式決定。開催は2021年へ。

### 2021年 (第117期)

令和3年

6月20日 第70回東西四大学合唱演奏会(中止)  
 8月17日 第18回同関交歓演奏会 寒梅館ハーディーホール  
 10月10日 第76回関西合唱コンクール(金賞) 東リいたみホール  
 2022年2月22日 第117回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール  
 3月1日 第117期卒団性のためのフェアウェルコンサート(無観客)  
 寒梅館ハーディーホール

9月 継志寮(教育寮)竣工。  
 「同志社大学ビジョン2025」推進

7月23日: 東京オリンピック2020が開幕(無観客開催)。コロナ禍での開催に賛否。  
 8月8日: 東京オリンピック閉幕。日本は金27・銀14・銅17の計58個のメダル獲得。  
 8月24日: 東京パラリンピックが開幕。障害者スポーツへの関心が高まる。  
 9月3日: 菅義偉首相が自民党総裁選への不出馬を表明。退陣へ。  
 10月4日: 岸田文雄が第100代内閣総理大臣に就任。新政権発足。

### 2022年 (第118期)

令和4年

6月26日 第71回東西四大学合唱演奏会 京都コンサートホール  
 8月6日 第26回同立交歓演奏会 和光市民文化センター サンアゼリア  
 10月9日 第77回関西合唱コンクール(金賞) 東リいたみホール  
 12月25日 同志社クリスマスコンサート 京都コンサートホール  
 2023年2月26日 第118回同志社グリークラブ定期演奏会  
 (この年よりフェアウェルコンサートは休止) 京都コンサートホール

2月4日~20日: 北京冬季オリンピック開催。日本は金メダル3個を獲得。  
 7月8日: 奈良市で安倍晋三元首相が銃撃され死亡。戦後初の元首相暗殺事件。  
 10月4日: 北朝鮮が日本上空を通過する弾道ミサイルを発射。Jアラート発令。

### 2023年 (第119期)

令和5年

6月24日 第72回東西四大学合唱演奏会 東京芸術劇場コンサートホール  
 8月5日 同志社フェア in 福岡 アクロス福岡 シンフォニーホール  
 8月27日 関西学院大学・北海道大学・同志社大学男声合唱フェスティバル 神戸文化会館  
 10月8日 第78回関西合唱コンクール(銀賞) 東リいたみホール  
 12月2日 同志社フェア in 新潟 朱鷺メッセ  
 12月25日 第56回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール  
 2024年2月18日 第119回同志社グリークラブ定期演奏会 京都コンサートホール

6月 新創館(新町キャンパス)竣工。  
 新図書館建設・京田辺キャンパスの再整備

4月15日: 岸田文雄首相が和歌山での演説中に爆発物を投げつけられる事件。首相は無事。  
 8月: 記録的猛暑。東京で猛暑日(最高気温35℃以上)が13日間連続。  
 10月20日: ジャニーズ事務所が「SMILE-UP.」に社名変更。性加害問題を受け再発。

## 同志社グリークラブ

## 同志社史 世相

### 2024年 (第120期)

令和6年

3月12日 アメリカ海軍士官学校グリークラブジョイントコンサート 寒梅館ハーディーホール  
 6月29日 第73回東西四大学合唱演奏会 ザ・シンフォニーホール  
 7月20日 交友会奈良支部依頼演奏  
 8月27日 NHKTV「うたごころ」出演  
 10月13日 第79回関西合唱コンクール(金賞・全日本合唱連盟理事長賞) 東リいたみホール  
 11月9日 同志社創立150周年記念全同志社合唱祭 寒梅館ハーディーホール  
 11月23日 第77回全日本合唱コンクール(金賞・日本放送協会賞) 愛媛県民文化会館  
 12月15日 交友会京都支部クリスマスパーティ  
 12月22日 同志社クリスマスキャンドルライトサービス  
 12月25日 第57回全同志社メサイア演奏会 京都コンサートホール  
 2025年2月11日 同志社グリークラブ 創立120周年記念演奏会 東京・紀尾井ホール  
 2月22日 同志社グリークラブ 創立120周年礼拝・式典 同志社礼拝堂  
 2月23日 同志社グリークラブ 創立120周年記念演奏会 京都コンサートホール

10月 企画展「合唱の同志社」開催(今出川・ハリス理化学館)  
 11月 150周年記念事業「合唱祭」(京都コンサートホール・大ホール)

1月1日: 能登半島地震発生(M7.6)。死者200人以上、広範囲に甚大な被害。  
 1月2日: 羽田空港でJAL機と海上保安庁機が衝突。5人死亡。  
 6月1日: 定額減税が開始。物価高騰対策として1人あたり4万円の減税実施。

## 同志社グリークラブ 歴代指揮者氏名

74代	小林 崇諭	2005年2月~2006年2月
75代	元吉 圭太	2006年2月~2007年2月
76代	正川 勲	2007年2月~2008年2月
77代	鈴木 隆介	2008年2月~2010年2月
78代	森崎 公平	2010年2月~2011年2月
79代	神谷 亮太	2011年2月~2012年2月
80代	藤井 研二郎	2012年2月~2013年2月
81代	長谷川 裕也	2013年2月~2014年2月
82代	安村 真也	2014年2月~2015年2月
83代	沖村 明彦	2015年2月~2016年2月
84代	東 大生	2016年2月~2017年2月
85代	八木 和貴	2017年2月~2019年2月
86代	村津 耕平	2019年2月~2020年2月
87代	和田島 幸星	2020年2月~2022年2月
88代	大村 浩太郎	2022年2月~2023年2月
89代	小嶋 響	2023年2月~2025年2月



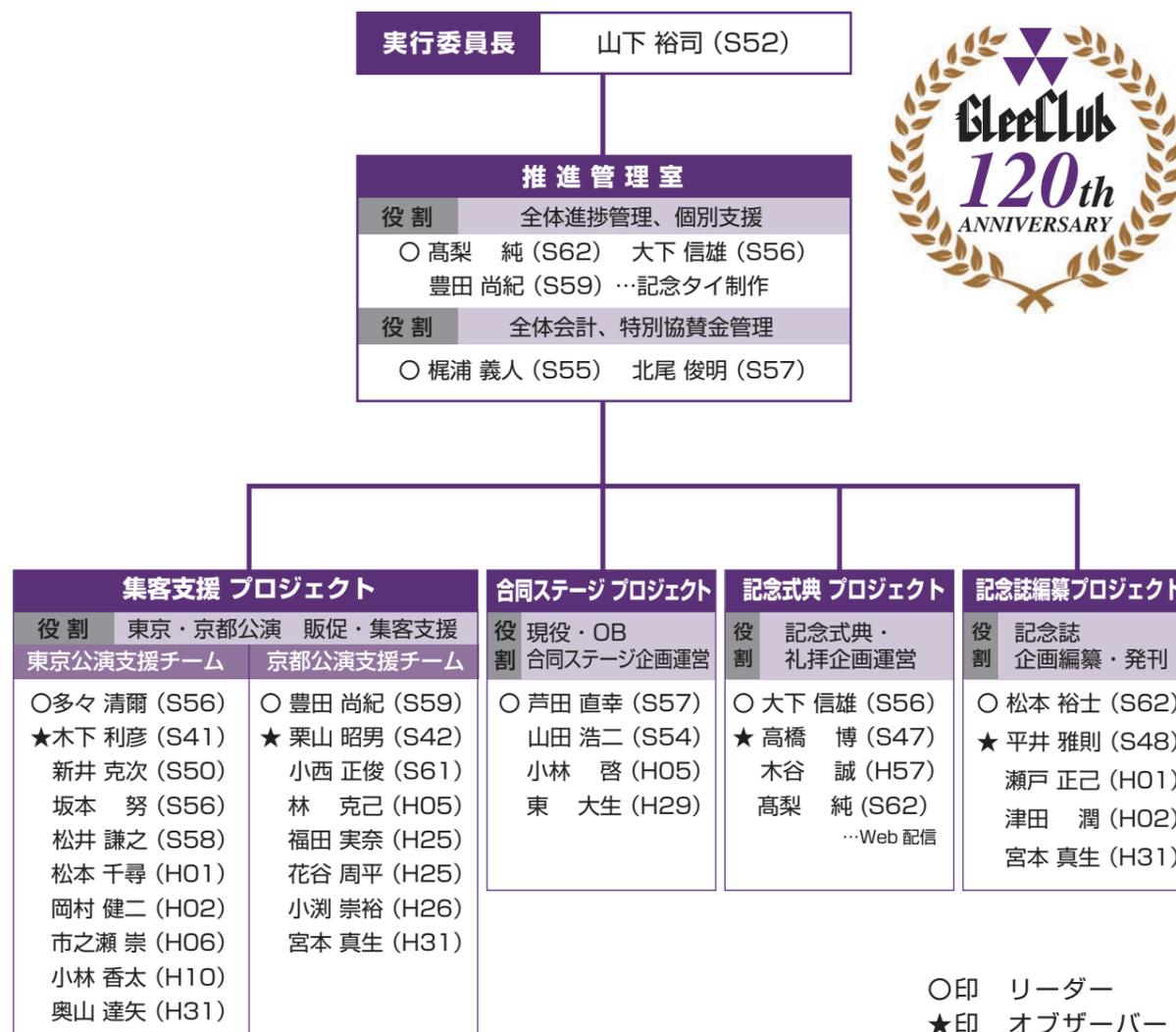
# 同志社グリークラブ 120周年協賛者リスト

この度は、同志社グリークラブ創立120周年事業に数多くのご協賛を賜り、厚く御礼申し上げます。  
今後とも同志社グリークラブOB会をご支援いただきますようお願い申し上げます。  
皆様のますますのご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名
S26	真下 喜二郎	S41	橋詰 崇史	S51	井上 誠	S56	増田 佳昭	S62	内山 透
S28	齋藤 勲	S41	中山 健三	S51	薄井 篤	S56	鈴木 恒一	S62	梅村 雅彦
S29	野村 秀治	S41	大原 康弘	S51	小林 郁夫	S56	今村 幸彦	S62	大野 浩一
S32	梶井 文治	S41	吉田 正彦	S51	村上 利行	S56	南 正晃	S62	杉田 正治
S32	寒河江 正	S42	池田 研一	S51	山内 規生	S56	大下 信雄	S62	前川 立弥
S32	船木 良保	S42	石黒 武	S51	伏村 淳二	S56	多々 清爾	S62	三宅 厚志
S33	辻 義彦	S42	植松 康男	S51	河村 淳	S56	小野 英一	S62	山口 明彦
S33	南迫 卓一	S42	児玉 元彦	S51	村上 一夫	S57	筒井 隆文	S62	杉山 慎一
S34	岩垣 寛治	S42	館 和道	S51	田野 耕樹	S57	芦田 直幸	S62	松本 裕士
S34	芳崎 榮治	S42	出口 正昭	S52	井口 仁	S57	北尾 俊明	S62	高梨 純
S34	大友 慶介	S42	西村 肇	S52	稲垣 昌裕	S58	上田 慎一	S63	井上 裕文
S34	脇地 駿	S42	湯浅 康平	S52	小林 茂	S58	小田垣 正美	S63	奥村 康彦
S35	竹之内 壽三	S42	栗山 昭男	S52	八束 基義	S58	前田 洋孝	S63	武内 和朋
S35	砂原 和彌	S42	白井 孝	S52	山本 英司	S58	池田 英生	S63	森藤 泰生
S36	竹田 守孝	S42	小林 宏昭(森山)	S52	高谷 博次	S58	高井 啓行	S63	八幡 諭
S36	渡辺 弘道	S42	近藤 恭司	S52	岡田 哲	S59	内野 直樹	S63	吉岡 康彦
S37	河村 時孝	S42	澤井 浩一	S52	山下 裕司	S59	岡田 和弘	S63	石井 元博
S37	佐藤 道雄	S43	遠藤 好俊	S53	池田 雅次	S59	豊田 尚紀	S63	青木 陽介
S37	田中 惺	S43	中根 敏雄	S53	稲熊 裕之	S59	西山 勲	S63	梅田 隆司
S37	花谷 豊	S43	柳原 高志	S53	松本 潤一郎	S59	長谷川 恵一	S63	佐伯 盛一
S38	田村 康浩	S43	山根 廣	S53	徳山 康彦	S59	鋒山 琢磨	H1	高瀬 毅
S38	和気 豊夫	S43	神谷 洋司	S53	二瓶 敏宏	S59	溝端 利文	H1	雨宮 信
S38	真野 光長	S43	中嶋 暁	S53	森島 敏夫	S59	諸江 修	H1	大島 直哉
S39	後藤 健夫	S44	小瀬 昉	S53	松本 悌次	S59	山岡 敬	H1	瀬戸 正己
S39	畑中 宜彦	S44	吉本 孝夫	S53	金森 久宙	S59	飯田 勝美	H1	田中 祐之
S40	大熊 政次	S44	坂東 憲治	S54	左寄 俊彦	S60	片岡 和彦	H1	栃木 義博
S40	中川 清	S44	檜垣 康治	S54	藤井 俊之	S60	河村 一良	H2	津田 潤
S40	畑 恵郎	S44	松本 公郎	S54	西山 知之	S60	辻 透	H2	廣島 映一
S40	足立 能成	S45	東 英達	S54	矢ヶ崎 一之	S60	森 知史	H2	新井 正
S40	白瀬 晋生	S46	小石 伊久男	S54	廣瀬 健	S60	山内 豊	H2	岡村 健二
S40	土生 邦彦	S47	高橋 博	S54	福澤 敬	S60	和田 秀樹	H2	栗田 陽一
S40	野上 幸市	S47	前田 憲一	S54	大西 育生	S60	中小路 智一	H2	花牟礼 武司
S41	北村 徹男	S47	相川 義直	S54	山田 浩二	S60	篠原 芳兵衛	H2	山本 徹也
S41	小室 泰司	S47	片岡 功	S54	中野 剛	S60	西尾 強志	H3	鹿野 博志
S41	小亀 豊	S48	平井 雅則	S54	河上 誠	S60	大嶋 誠司	H4	永島 健一
S41	村西 耕爾	S48	仲本 豊	S54	大林 健	S60	山中 光	H5	周藤 真
S41	丸山 創作	S48	幸田 幹雄	S55	千代澤 修一	S61	植田 禎一	H5	内桶 貴志
S41	吉田 圭一郎	S49	金子 悦文	S55	中野 宏	S61	加藤 栄嗣	H6	佐野 泰弘
S41	上田 正治	S49	萩巣 潤三	S55	横川 芳秀	S61	久保 行央	H6	朝間 智昭
S41	森田 恒孝	S49	中村 徹夫	S55	山下 秀幸	S61	小西 正俊	H6	産賀 伸一
S41	西村 義之	S50	新井 克次	S55	中島 修二	S61	斎藤 斎	H6	鹿島 啓
S41	中村 三喜雄	S50	小糸 徹	S55	梶浦 義人	S61	竹本 滋知	H6	谷本 啓
S41	藤田 昌男	S50	今藤 恵証	S56	奥田 茂弘	S61	灰塚 弘	H6	三村 剛司
S41	木下 利彦	S50	大崎 保則	S56	紀伊 基雄	S61	藤 浩和	H7	土井 邦康
S41	影田 武道	S50	池田 周一	S56	黒木 義朗	S61	松浦 悟史	H8	富田 尚
S41	小川 徹	S50	平瀬 芳雄	S56	坂本 務	S61	神谷 伸行	H8	平谷 有祐
S41	北山 良	S50	江上 知剛	S56	出水 淑郎	S62	中村 洋	H9	中山 聡

卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名
H10	入江 隆生	H16	蓮池 章弘	H27	小林 聖	R5	沖山 竜也
H10	小林 香太	H16	小川 隆史	H27	安村 眞也	R5	大村 浩太郎
H10	米山 博哲	H17	藤谷 真	H29	東 大生	会友	竹内 圭介
H12	阪本 大輔	H20	田中 健之	H30	小窪 圭知		
H13	赤澤 昌樹	H25	池田 恭平	H30	服部 祥堯	その他	
H13	白石 法之	H25	白石 和之	H31	奥山 達矢	河野 賢太郎	
H14	島本 英年	H25	川出 正太郎	H31	千代 恵大	長島 順子 (S24 故長島俊司様の奥様)	
H14	山田 聡	H25	花谷 周平	H31	宮本 眞生	奥野 いづみ (S62 故奥野和敏様の奥様)	
H14	福田 一登	H26	廣瀬 薫	H31	森 一就	関西学院グリークラブOB会新月会	
H15	伊藤 稔	H26	荒木 泰人	R2	濱田 尚晃	早稲田大学グリークラブOB会	
H15	奥貫 壮史	H26	市川 耀	R2	佐藤 宏樹	慶應義塾ワグネル・ソサイエティ男声合唱団OB会	
H15	松本 崇	H26	小淵 崇裕	R3	塚越 健		
H15	水谷 智一	H27	金澤 陽貴	R4	藤尾 快		

## ■ 創立120周年記念事業実行委員会組織図



## 120周年の節目に立ち、新たに歌い継ぐその先へ



同志社グリークラブ 第120期幹事長  
佐野 雅弥（令和7年卒）

2024年、同志社グリークラブは創立120周年を迎えた。

2月18日（日）、京都コンサートホールにて第119回定期演奏会を開催し、コロナの影響を受けた初めての新歓で迎えた団員1名が卒団した。春には新入生を迎えるための新歓活動を行い、新たな仲間を加えた。

3月12日（火）には、同志社大学寒梅館ハーディーホールにて、アメリカ海軍軍師学校グリークラブとのジョイントコンサートが行われた。言葉や文化を越えて歌を通じた交流が生まれ、国際的なつながりを感じる機会となった。

6月29日（土）、大阪シンフォニーホールにて第73回東西四大学合唱演奏会に出演。関西・関東を代表する四校が一堂に会する舞台上、同志社グリークラブも他校と真摯に向き合い、互いに刺激し合いながら熱い演奏を交わした。

10月13日（日）、東り伊丹ホールで行われた第79回関西合唱コンクール大学ユースの部では、復帰後かつ現行制度下で初めて金賞を受賞し、あわせて全日本合唱連盟理事長賞（総合1位）も受賞した。前年度（2023年）は銀賞にとどまっており、一年越しの成果となった。

11月9日（土）には、学校法人同志社創立150周年を前に開催された全同志社合唱祭に出演。同志社関係の複数の合唱団体が一堂に会するこの催しにおいて、OBとともにクラブの愛唱歌《詩篇98》を演奏し、節目を祝った。

11月23日（土）、愛媛県県民文化会館で開催された第77回全日本合唱コンクール全国大会に出場し、大学ユースの部金賞および日本放送

協会賞（第3位）を受賞した。

12月25日（水）には、全同志社メサイア演奏会が開催された。コロナ禍の影響により2020年から2022年まで3年連続で中止となった後、2023年に抜粋演奏という形で再開され、2024年によりやく全曲上演としての完全復活を果たした。伝統あるクリスマスの舞台に再びその声を響かせた。

2025年、同志社グリークラブは121周年、学校法人同志社は150周年の節目を迎えた。

2月11日（火・祝）には、創立120周年記念事業の一環として東京・紀尾井ホールにて同志社グリークラブ創立120周年記念演奏会（東京公演）を開催。

2月22日（土）には京都で記念礼拝・式典が行われ、翌23日（日）には京都コンサートホールにて同志社グリークラブ創立120周年記念演奏会（京都公演）を開催した。東京での演奏会は、1984年の第80回定期演奏会以来およそ40年ぶりとなる東京での大規模な公演となった。アンコールでは、大学のキリスト教精神との結びつきも深い《詩篇98》をOBと合同で演奏し、記念の歩みを象徴するひとときとなった。

120周年という節目は、同志社グリークラブにとって過去を振り返る年であると同時に、未来への新たな出発点でもあった。

歌い継がれてきた想いを胸に、130周年、140周年そして150周年へと続く歩みを、一歩ずつ確かに進めていく。

## 120周年誌に寄せて



同志社グリークラブ 第89代学生指揮者  
小嶋 響（令和7年卒）

同志社グリークラブ120周年の節目に、学生指揮者として立ち会えましたこと心から嬉しく思います。脈々と受け継がれてきた歴史の中で、様々な輝かしい功績を残してきたことは言うまでもないことです。もちろん私自身もその誇りを指揮者として活動する中で忘れたことはございませんでした。

120年もの間、同志社グリークラブに根付いた伝統のサウンドに、心躍る毎日を過ごさせてもらいましたことは、この上ない喜びです。そのなかでも、私が所属した4年間で最も感じる事ができたのは、それぞれの学年特有のカラーが長い伝統と調和し、どちらの良さも存分に発揮していることでした。凄まじい伝統を前にひれ伏すことなく、学年ごとの個性を発揮できる空気感は、同志社に根付いた自由主義精神の賜物であると私は考えています。そのシナジーこそが、時代に取り残されることなく、こうして同志社グリークラブが活気のある団体として継続できている所以ではないでしょうか。年によって演奏自体のレベルに差はあったとしても、全ての学年がそれぞれの学年なりに自分たちのカラーで必死に正解を導き出してきたことが今日の同志社グリークラブを創り上げたのだと思います。今後もその精神を大切に、多くの聴衆、OB、大学関係者の心の拠り所として、学生の若き生命力を纏った同志社グリークラブが活躍し続けることを心から願っております。

#### 120周年誌発行の背景

同志社グリークラブでは、創立30・50・60・80・100・110周年の節目に記念誌を発行してきました。最初の3冊は思い出やテーマを中心にまとめた紀伝体、80周年誌は年代順に並べた編年体、100周年誌はその補遺、110周年誌（DVD-R）はデジタルメディアを活用した革新的な構成でした。

今回の「創立120周年記念誌」は、111周年から120周年までの記録を残し、歴史を紡いでいくことを目的として編集を開始しました。当初は「PDFで十分では」との意見もありましたが、後世に残すにはやはり紙がふさわしいとの思いから、紙媒体とPDFの二本立てでの発行となりました。紙の保存性は、記念誌としての重みをより強く感じさせるものです。これまでの周年誌の流れを踏まえつつ、伝統と記録の継承を意識した形で編集を進めました。

#### 記録収集と継承への願い

20年分の歴史を振り返る作業は、記録を探すことそのものであり、詳細に残っている世代もあれば、記録がまばらな世代もありました。OB会報誌『グリーサルーン』や現役の定期演奏会パンフレットを手がかりに編集を進め、多くの方々に新たなテーマで寄稿いただきました。

現役諸君には、定期演奏会のパンフレットに「本年の出来事」を1ページ記録しておくことを、ぜひ習慣としてほしいと思います。また、OB会発行の『グリーサルーン』も貴重な情報源です。担当の方には、今後も継続しての発行をお願い申し上げます。こうした積み重ねが、次の世代への確かな記録となり、周年誌の礎となるのです。

#### 次なる節目に向けて

次回の周年誌は何年になるでしょうか。10年ごとに補遺的な記念誌を作成し、来るべき150周年には集大成となる記念誌が編まれることを夢見ております。

#### 感謝の言葉

最後に、120周年誌の作成にあたり、快く寄稿してくださったOB諸兄、現役諸君、同志社大学関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

令和7年（2025年）10月15日  
120周年記念誌発行プロジェクト  
編集委員一同

## 同志社グリークラブ創立120周年記念誌

令和7年(2025年)10月15日発行

編集 120周年記念誌発行プロジェクト編集委員

発行 同志社グリークラブOB会  
E-mail : dgcobkai@gmail.com

印刷 有限会社太陽社  
〒543-0052 大阪市天王寺区大道3丁目1番30号  
TEL : 06-6779-7618



1904-2024